

平成28年度 博士学位論文

日本語とシンハラ語の応答表現に関する対照言語学的研究  
— 6言語との比較を通して—

主査：首都大学東京人文科学研究科 ダニエル・ロング教授

副査：首都大学東京人文科学研究科 西郡仁朗教授

副査：首都大学東京人文科学研究科 高桑史子教授

首都大学東京大学院 人文科学研究科

人間科学専攻 日本語教育学教室

ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ

# 目次

第一部 序論（本研究の背景）	1
第1章 研究概要	2
1.1 研究背景	2
1.2 本研究の目的	2
1.3 本論文の構成	3
第2章 先行研究と本研究の位置づけ	6
2.1 はじめに	6
2.2 日本語の肯定応答表現に関する研究	6
2.3 日本語の否定応答表現に関する研究	11
2.4 本研究における応答表現の定義と表現種類	14
2.4.1 定義	14
2.4.2 表現種類	16
2.5 本研究の研究課題と研究方法	17
2.5.1 研究課題	17
2.5.2 研究方法	17
第二部 各論（肯定および否定応答表現の対照研究）	19
第3章 小説にみる日本語の応答表現とそれらのシンハラ語訳	20
3.1 はじめに	20
3.2 調査方法	20
3.3 先行研究	21
3.3.1 日本語の肯定応答表現の研究	21
3.3.2 日本語の否定応答表現の研究	21
3.3.3 シンハラ語の肯定応答表現の研究	22
3.3.4 シンハラ語の否定応答表現の研究	22

3.4	結果の分析と考察	23
3.4.1	「はい」の使用	23
3.4.2	「ええ」の使用	24
3.4.3	「うん」の使用	26
3.4.4	「いいえ」の使用	29
3.4.5	「いえ」の使用	31
3.4.6	「いや」使用	32
3.4.7	「ううん」の使用	32
3.5	本章のまとめ	32
<b>第4章</b>	<b>小説にみるシンハラ語の応答表現とそれらの日本語訳</b>	<b>35</b>
4.1	はじめに	35
4.2	調査方法	35
4.3	結果の分析と考察	35
4.3.1	「ov」の使用	35
4.3.2	「nae:/nehe」の使用	38
4.3.3	「bae:/behe」の使用	40
4.3.4	「epaa」の使用	40
4.4	本章のまとめ	41
<b>第5章</b>	<b>日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答表現の対照</b>	<b>42</b>
5.1	研究背景と目的	42
5.2	先行研究	42
5.2.1	日本語の疑問文に対する先行研究	42
5.2.2	シンハラ語の疑問文に対する先行研究	44
5.3	研究概要	44
5.4	結果と考察	46
5.4.1	「肯定疑問文」の場合	46
5.4.2	「否定疑問文」の場合	47
5.5	本章のまとめ	48

<b>第6章</b>	<b>日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の対照</b> .....	50
6.1	はじめに .....	50
6.2	先行研究 .....	51
6.2.1	日本語の肯定・否定応答の先行研究 .....	51
6.2.2	シンハラ語の肯定応答の先行研究 .....	52
6.2.3	シンハラ語の否定応答の先行研究 .....	53
6.3	調査概要 .....	54
6.3.1	調査項目 .....	54
6.3.2	調査方法 .....	55
6.4	調査の目的 .....	55
6.5	結果の分析及び考察 .....	55
6.5.1	日本語・シンハラ語のいずれかに応答表現が二つ以上ある場合 .....	56
6.5.2	日本語とシンハラ語のいずれにも応答表現が一つしかない場合 .....	61
6.5.3	日本語では応答表現が使われるが、シンハラ語では使わない場合 .....	64
6.6	本章のまとめ .....	67
<b>第7章</b>	<b>日本語と韓国語の肯定・否定応答表現の対照</b> .....	71
7.1	はじめに .....	71
7.2	調査概要 .....	71
7.3	調査の目的 .....	72
7.4	調査の結果および考察 .....	72
7.4.1	Aパターンの場合 .....	73
7.4.2	Bパターンの場合 .....	76
7.4.3	Cパターンの場合 .....	77
7.4.4	Dパターンの場合 .....	80
7.5	本章のまとめ .....	81
<b>第8章</b>	<b>日本語とモンゴル語の肯定・否定応答表現の対照</b> .....	83
8.1	はじめに .....	83
8.2	調査概要 .....	83
8.3	調査の結果および考察 .....	83
8.3.1	Aパターンの場合 .....	84

8.3.2	Bパターンの場合	86
8.3.3	Cパターンの場合	88
8.3.4	Dパターンの場合	90
8.4	本章のまとめ	93
<b>第9章</b>	<b>日本語と英語の肯定・否定応答表現の対照</b>	<b>94</b>
9.1	はじめに	94
9.2	先行研究	94
9.3	調査概要	95
9.4	調査の目的	95
9.5	調査の結果および考察	95
9.5.1	Aパターンの場合	96
9.5.2	Bパターンの場合	98
9.5.3	Cパターンの場合	100
9.5.4	Dパターンの場合	102
9.6	本章のまとめ	105
<b>第10章</b>	<b>日本語とスペイン語の肯定・否定応答表現の対照</b>	<b>107</b>
10.1	はじめに	107
10.2	先行研究	107
10.3	調査概要	107
10.4	調査の結果および考察	108
10.4.1	Aパターンの場合	109
10.4.2	Bパターンの場合	111
10.4.3	Cパターンの場合	113
10.4.4	Dパターンの場合	115
10.5	本章のまとめ	117
<b>第11章</b>	<b>日本語と中国語の肯定・否定応答表現の対照</b>	<b>119</b>
11.1	はじめに	119
11.2	先行研究	119

11.3	調査概要	119
11.4	調査の結果および考察	120
11.4.1	Aパターンの場合	121
11.4.2	Bパターンの場合	122
11.4.3	Cパターンの場合	124
11.4.4	Dパターンの場合	126
11.5	本章のまとめ	129
<b>第12章</b>	<b>日本語とインドネシア語の肯定・否定応答表現の対照</b>	<b>131</b>
12.1	はじめに	131
12.2	先行研究	131
12.3	調査概要	131
12.4	調査の目的	132
12.5	調査の結果および考察	132
12.5.1	Aパターンの場合	133
12.5.2	Bパターンの場合	135
12.5.3	Cパターンの場合	136
12.5.4	Dパターンの場合	138
12.6	本章のまとめ	142
<b>第三部</b>	<b>総論（日本語教育現場における応答表現の諸問題および指導法）</b>	<b>145</b>
<b>第13章</b>	<b>学習者の応答表現に関する使用意識</b>	<b>146</b>
13.1	はじめに	146
13.2	先行研究	146
13.3	調査概要	146
13.3.1	調査対象者	146
13.3.2	調査方法	147
13.4	調査の結果および考察	148
13.4.1	Aパターンの場合	149
13.4.2	Bパターンの場合	151

13.4.3	Cパターンの場合	155
13.4.4	Dパターンの場合	163
13.5	本章のまとめ	168
<b>第14章</b>	<b>初級日本語教科書に現れる応答表現の問題点および指導法</b>	<b>170</b>
14.1	はじめに	170
14.2	先行研究	170
14.3	研究方法	172
14.4	分析および考察	173
14.4.1	教科書における「肯定応答表現」の意味説明・導入文型	173
14.4.2	教科書における「否定応答表現」の意味説明・導入文型	176
14.4.3	日本語教科書における応答表現の扱い方	178
14.4.4	Aパターンの場合	179
14.4.5	Bパターンの場合	181
14.4.6	Cパターンの場合	182
14.4.7	Dパターンの場合	184
14.5	本章のまとめ	188
<b>第15章</b>	<b>総合的な考察</b>	<b>193</b>
15.1	各章のまとめ	193
15.2	今後の課題	199
	謝辞	200
	参考文献	202
	添付資料	210
	各章と既発表論文との関係	220

# 第一部

序論（本研究の背景）

第1章 研究概要

第2章 先行研究と本研究の位置づけ



# 第 1 章 研究概要

## 1.1 研究背景

日本語の「はい」「ええ」「いや」「いえ」などの応答表現は日常会話で使用される頻度が高く、円滑なコミュニケーションのために必要な要素の一つと考えられる。日本語学習者向けの教科書では、「はい」「ええ」「いいえ」「いえ」などの応答表現は初級段階のより早い時期に初出している。しかし、「はい」「ええ」「うん」は共に英語の「yes」の意味又は「ええ」「うん」は「はい」よりくだけた表現、「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」は英語「no」の意味又は「いえ」「いや」「ううん」は「いいえ」よりくだけた表現であるといった程度にしか説明されていない。すなわち、どの教科書においてもそれらの使い分けの特徴の説明まではなされていない。そのため、筆者自身を含め日本語学習者にとっては「はい」「ええ」「いいえ」「いえ」「いや」などの応答表現の使い分けが最初は困難である。

本研究は、主に日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現について考察したものである。応答表現に関する従来の研究では「肯定応答表現」と「否定応答表現」に用いる「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」について機能と意味分析に注目した研究が多く、対照言語学的な観点からはほとんど研究されてこなかった。そこで本研究ではまず、小説の分析とアンケート調査を通して日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の使用状況について比較、分析を行う。そして、応答表現の用法の枠を広め、応答表現の用法を17項目に分類し、さらに日本語とシンハラ語の応答表現の比較、分析を行い、両言語の応答表現の類似点と相違点を明らかにする。そして、日本語とシンハラ語の17用法項目分析で得られた結果を基に、日本語と韓国語・モンゴル語・英語・スペイン語・中国語・インドネシア語との比較、分析を行う。最後に、日本語教育における肯定および否定応答表現の取り扱いについて考察していく。

## 1.2 本研究の目的

本研究の目的は、日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の対照分析を行い、両言語の応答表現の類似点と相違点を明確にすることである。また、日本語とシンハラ語を分析考察して得られた結果を基に他の6言語との比較分析を行い、日本語の応答表現の特徴を明らかにする。その上で、日本語教科書での応答表現の説明の不十分な点を整理し、指導法について考察することを目的とする。具体的には以下の2点を中心に分析する。

1. 肯定および否定応答表現における日本語とシンハラ語の用法（表現、機能）の違いは見られるのか。
2. 言語類型論（膠着語、屈折語、孤立語）又は系統論（アルタイ語族、インドヨーロッパ語族、シナ・チベット語族、オーストロネシア語族など）<sup>1</sup>による肯定および否定応答表現の類似点、相違点、特徴はみられるのか。

### 1.3 本論文の構成

本論文は3部、15章からなっている。

第1部「序論（本研究の背景）」は、第1章「研究概要」と第2章「先行研究と本研究の位置づけ」である。

第1章では、研究の背景、研究目的と論文構成について述べる。

第2章では、日本語の肯定及び否定応答表現に関する先行研究について概観した後、本研究の位置づけを行い、研究の課題と研究方法を提示する。

第2部は「各論（肯定および否定応答表現の対照研究）」とし、第3章から第12章まで構成されている。

第3章では、日本語の小説とそれらのシンハラ語訳を用いて、日本語の小説に出現した応答表現がシンハラ語に翻訳される際の翻訳状況を調べ、日本語とシンハラ語の応答表現を対照、考察する。

第4章では、逆にシンハラ語の小説とそれらの日本語訳を用いて、両言語の肯定および否定応答表現の使用状況を探り、考察する。

第5章では、日本語とシンハラ語の「肯定疑問文」と「否定疑問文」に対する応答表現の使い方を取り上げ、それらの類似点と相違点の対照、分析を行う。

第6章では、応答表現のを17用法項目に分類し、日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の対照、分析を行う。

第7章では、第6章の応答表現の17用法項目を基に日本語と韓国語の肯定・否定応答表現の対照、分析を行う。

第8章では、第6章の応答表現の17用法項目を基に日本語とモンゴル語の肯定・否定応

---

<sup>1</sup>言語分類の方法の一つ。何千といわれる世界中の言語を分類するおもな方法には、(1)系統的、(2)地理的、(3)類型論的分類、の3種類がある。(1)は同一の源となる言語(祖語)から分岐したか否かを基準とするいわゆる言語系統論の分類で、それによりインド・ヨーロッパ語族、セム語族などといった語族分けが行われる。(2)は言語の地理的分布に基づく分類で、系統とは無関係に特定の地域に行われる言語をグループとしてまとめるものであり、バルカン言語圏などもこの分類に属する。(3)は形態論的手法では孤立語、膠着語、屈折語、抱合語への分類法、統辞面では主語、目的語、述語の相対的語順による分類法、音韻論では母音体系のタイプ、あるいは弁別的特徴による分類法などが知られる。(世界大百科事典 第2版の解説より)

答表現の対照分析を行う。

第9章では、第6章の応答表現の17用法項目を基に日本語と英語の肯定・否定応答表現の対照、分析を行う。

第10章では、第6章の応答表現の17用法項目を基に日本語とスペイン語の肯定・否定応答表現の対照、分析を行う。

第11章では、第6章の応答表現の17用法項目を基に日本語と中国語の肯定・否定応答表現の対照、分析を行う。

第12章では、第6章の応答表現の17用法項目を基に日本語とインドネシア語の肯定・否定応答表現の対照、分析を行う。

最後に、第3部「総論(日本語教育現場における応答表現の諸問題および指導法)」では、日本語教育への応用と総論について述べる。

第13章では、学習者の応答表現に関する使用意識について考察する。

第14章では、初級教科書に現れる肯定および否定応答表現の問題点および指導法について考察する。

第15章では、本研究のまとめを行い、分析結果から得られた結論と、今後の課題について述べる。

論文の全体の構成を以下の図1に示す。

図1 本論文の構成

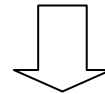
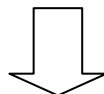
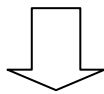
第1章 研究概要

第2章 先行研究と本研究の位置づけ

課題1 日本語とシンハラ語に  
おける応答表現の使用状況

課題2 日本語と他の6言語の  
応答表現の比較・分析

課題3 教育現場における応  
答表現の諸問題および指導  
法



第3章 小説にみる日本語の  
応答表現とそれらのシン  
ハラ語訳

第4章 小説にみるシンハラ  
語の応答表現とそれらの  
日本語訳

第5章 日本語とシンハラ語  
の疑問文に対する応答表  
現の対照

第6章 日本語とシンハラ語  
の肯定・否定応答表現の対  
照

第7章 日本語と韓国語の肯定・  
否定応答表現の対照

第8章 日本語とモンゴル語の  
肯定・否定応答表現の対照

第9章 日本語と英語の肯定・否  
定応答表現の対照

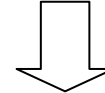
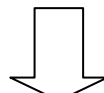
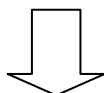
第10章 日本語とスペイン語の  
肯定・否定応答表現の対照

第11章 日本語と中国語の肯定  
・否定応答表現の対照

第12章 日本語とインドネシア  
語の肯定・否定応答表現の対  
照

第13章 学習者の応答表  
現に関する使用意識

第14章 初級日本語教科  
書に現れる応答表現の  
問題点および指導法



第15章 総合的な考察

本章では、研究背景、本研究の目的と本論文の構成について述べた。次章では、先行研究と本研究の位置づけについて述べる。

## 第 2 章 先行研究と本研究の位置づけ

### 2.1 はじめに

言語の最も基本的な機能の一つは情報伝達だといわれる。そうした局面は、単文だけではなく、情報伝達過程としての談話の分析を通じて総合的に研究する必要がある。そこで、談話文法や言語行動の研究が最近盛んになりつつあるが、とりわけ、問題になるのが、聞き手の反応であり、また、それを予測・想定しての、話し手の発話の構成である。実際に、我々は、談話において、常に聞き手の反応をうかがい、それによって、自らの発話を調整したり、また、話し手・聞き手の関係を調整したりしている。談話における応答についての研究は、最近になるまでほとんどなかったと言ってよい（森山1989：63）。

以上森山（1989）で指摘されているように日本語における応答表現（応答詞）の研究は1980年代まではほとんどなされていなかったが、1990年代以降日本語に限定された応答表現の機能に注目された研究が多くなされてきた。しかしながら、それらの用法と対照言語学的な観点からはほとんど研究はされてこなかった。

日本語の応答表現は「肯定応答表現」と「否定応答表現」に大別されると同様に、応答表現における研究も「肯定応答表現に関する研究」、「否定応答表現に関する研究」という大きく二つに分けられる。以下それぞれについて従来の研究でどのように研究が進められてきたかをまとめ、本研究の課題を提示する。

### 2.2 日本語の肯定応答表現に関する研究

日本語の肯定応答表現に関する研究としては、北川(1977)、日向(1980)、奥津（1988）、McGloin(1997)、青柳(2001)、中島（2001）、三宅(2001)、富樫（2002）、二宮・金山（2006、2009、2010、2012）などが挙げられる。北川(1977)は、「はい」と「ええ」について以下のような記述をしている。

- (1) 「はい」は相手の言ったこと、また伝えんとすることが、こちらにはっきり届いたということを敬意をもって表示するための応声である。
- (2) 「ええ」は相手の言ったことに対しての自分の気持ちの動きを表出する声であって、下降のイントネーションではっきり言い切る場合には「自分もそのように思う」という気持ちを表出することになる（北川 1977：66）。

北川は上記の、(1) と (2) でのような意味合いの定義が「はい」と「ええ」を英語

‘yes’ から区別することにも役立ち、また「はい」と「ええ」のあいだの使い方の違いについても統括的な説明を与え得る基礎になるのではないかと述べている(67)。

今までの肯定応答表現の多くの研究は北川(1977)の上記の説明に基づき研究を進められてきた。北川(1977)の「はい」と「ええ」の意味分析においては評価できるが、「はい」と「ええ」の使い方においては「点呼」「物を手渡す時」「命令文」「依頼文」「確認」と「疑問文」に対する「はい」と「ええ」の使い分けにしか注目されていない。

日向(1980)は、「はい」「ええ」についての北川の定義を「はい」は「認知応答」と「ええ」は「同意応答」と名づけ、さらに考察している。「はい」は、談話場面の設立・維持に関与する一方で、「ええ」にはそのような機能はないとしている。また聞き手の気持ち・意向にそって依頼するような発話および質問文に対する応答としては、「はい」「ええ」「うん」が相手・場面等に応じて待遇的に使い分けられると述べている。

上記の北川(1977)と日向(1980)の意味分析は評価できるが、「はい」と「ええ」の肯定応答表現に限られている。

奥津(1988)は、日本語母語話者(サラリーマン家庭の主婦)の自然会話に基づき、肯定応答詞として「ハイ」「ウン」「エエ」「ハアア」を「はい系」と呼び、それらの出現総数および比率を次の表1のように報告し、多い方から「ハイ」「ウン」「エエ」「ハアア」の順であると指摘されている。

表1 「はい系」の総数および比率

「はい系」		
ハイ	1248	40.6%
ウン	951	30.9
エエ	828	26.9
ハアア	46	1.5
	3073	99.9%
	91.3%	

(奥津1988 : 137より)

奥津は、上記の「はい系」用例の3073のうち308例(約10%)をサンプルにし、応答詞の機能を先行する発話との関連で次の表2のように10種類に分類し、それぞれでの使用率を示している。

表2 「はい系」のまとめ

	ハイ	ウン	エエ	ハアー	%
1 はじめ <sup>2</sup>	3.2	*	*	*	3.2
2 そう-Q	2.9	0.6	2.6	0.3	6.4
3 Y-N Q	3.2	3.2	1.3	*	7.7
4 ね-Q	2.9	3.6	1.9	0.3	8.8
5 だろう-Q	0.6	1.0	2.3	*	3.9
6 Neg-Q	*	0.6	0.3	*	0.9
7 要求	2.9	0.9	0.3	*	3.8
8 呼びかけ	1.3	*	*	*	1.3
9 コメント	4.5	4.2	2.6	0.6	11.9
10 あいので <sup>3</sup>	12.7	13.3	12.3	*	38.3
( * <sup>4</sup>	6.2	3.6	3.2	0.3	13.3 )
	40.4	30.7	26.8	1.5	99.4

(奥津1988 : 155より)

奥津 (1988) は、女性の自然談話を中心に先行文あり・なしと先行文の形式・機能による混在な分類をしており、「いいえ系」と比較すると、「はい系」の使用が圧倒的に多いと指摘されている。

McGloin (1997) は、北川 (1977) と日向 (1980) の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を「making the next move in an interaction (談話・場面を進行させる)」、「ええ」の機能を「participant alignment (参加・協調) と述べている<sup>5</sup>。

青柳 (2001) は、「はい」「ええ」の意味・機能を音声、イントネーションの観点から考察し、両語の持つ意味は「承認」と述べている。また、平板調の「はい」は「談話分割機能」をもつことのほか、下降調の「はい」は「待遇的機能」を持ち、下降調の「ええ」は「強調機能」「発話円滑機能」を持つと指摘されている。

さらに、中島 (2001) は、肯定応答詞として「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」があり、これらを「はい系」として扱い、「応答要求文に対する応答」「応答非要求文に対する

<sup>2</sup> 相手の発話に対する応答ではない。全くの談話のはじめ、または話題を転換するそのはじめなどに使われる (奥津 1988 : 139)。

<sup>3</sup> 相手の発話を肯定的に聞いていることを示す発話の途中に購入されるもの (奥津 1988 : 144)。

<sup>4</sup> \*は発話が聞きとれないなどで「ハイ」の解釈が不能のもの (奥津 1988 : 145)。

<sup>5</sup> 日本語訳は二宮・金山 (2006)による。

応答「非応答表現」という「はい」「いいえ」の機能をより詳しく分類している。中島は、日本語母語話者の女性同士の自然談話データに基づき「はい系」と「いいえ系」の出現総数および比率を示し、「応答詞の種類と総数および比率」について次の表3のような結果を報告している。

表3 応答詞の種類と総数および比率

	「はい」系			「いいえ」系	
	数	%		数	%
はい	580	20.4	いいえ	5	0.2
はあ	58	2.1	いえ	28	1.0
ええ	339	11.9	いや	88	3.1
うん	1490	52.5	ううん	24	0.8
そう	228	8.0			
計	2695	94.9		145	5.1
総計	2840	100.0%			

(中島2000 : 77より)

自然談話データに基づき分析した中島(2000)は、「はい系」の使用が圧倒的に多く、職場においては「はい」よりも「うん」が肯定応答詞として容認されていると述べている。女性の自然談話データに基づき分析した奥津(1988)と中島(2000)は、表現の種類の分類において異なる分類の仕方を取っているが、いずれも多い方から「はい」「うん」「ええ」の順になっている。

三宅(2001)は、「はい」「ええ」「うん」について以下のような報告をしている。

丁寧さレベル : 「はい」、「ええ」 > 「うん」

「相手めあて」か「自分めあて」か : 「はい」、「ええ」 vs. 「うん」

談話管理的性格 : 「はい」 > 「うん」「ええ」

三宅(2001)は、談話管理の観点から「はい」を中心に考察した上で、「はい」「ええ」「うん」の役割を上記のように報告している。

富樫(2002)は、肯定応答表現には「はい」「うん」「ええ」が用いられると述べ、先ほどの中島(2000)とは表現の種類の分類において異なる分類の仕方を取っている。富樫は、「はい」と「うん」の用法を大きく「相づち表現に用いられる」「応答に用いられる」「トピ



ックの切れ目に現れる」と「繰り返して用いられる場合」に分け考察し、「はい」と「うん」の機能を以下の通り記述している。

「はい」の機能：提示された情報に対し、それに連関した半活性情報<sup>6</sup>が多数呼び出されたことを示す

「うん」の機能：提示された情報に対し、それに連関した半活性情報が少数しか呼び出されなかったことを示す（富樫 2002：147）

富樫(2002)は、肯定応答表現には「はい」「うん」「ええ」が用いられると述べているが、「はい」と「うん」のみに注目して考察している。

二宮・金山(2006)は「「はい」のみが使える場合」、「「はい」「ええ」共に使用可能な場合」、「「はい」のみが使えるが「ええ」の可能性がゼロではないが不自然な場合」という三つに分けて考察し、「はい」「ええ」の機能と効果について以下の表4の通り記述している。

表4 「はい」「ええ」の機能と効果（二宮・金山 2006：59 より）

「はい」の機能と効果	相手の情報を、敬意を持って受取ったというサインを示す。情報提示の予告としてのサインとなりうる。話者同士が共有する情報に格差があり、「情報の提供者」・「受取り手」という関係を固定させる結果、話者間に距離が生じ、改まり度が増す。
「ええ」の機能と効果	相手に対する同意を示す。したがって先行文は、同意を示すのに十分な内容・意見を持った情報を伴うものでなければならない。話者同士が情報を共有することにより、話者間の距離を縮め、親近感・同等感を示す。

続く金山・二宮(2009)では、母語話者を対象に漫画を使用したアンケートを実施し、分析した結果「はい」「ええ」の使い方の要因に「話者の気持ち」「話者のイメージ」

<sup>6</sup> 談話のある時点において、活性化している情報には常に関連する活性情報が存在する。例えば、「太郎が学校に行った」という情報を（典型的には相手の発話から）提示されたとすると、「太郎」に関する情報、「学校」に関する情報、「学校に行く」という行動に関する情報、あるいは誰がいつ話したか等の発話状況に関する情報を、経験的な知識から呼び出し、容易にアクセス可能な状態（半活性の状態）にする。つまり、活性化情報からつながる半活性情報が発話の瞬間瞬間に発生していると考えられる（144）。

が大きく関与していると述べている。さらに、二宮・金山(2010)は、テレビ映像を用いたインタビュー調査を3名の被験者(女性の日本語教師)を対象に実施した結果、「はい」「ええ」の使い方の要因に『話者の気持ちが関与している』に関わるコメントはあまり得られなかったと指摘し、更なる考察が必要と指摘している。最後に、二宮・金山(2012)は、文学作品用例分析を通して、『ええ』は明らかに『はい』とは異なる意味・機能を有しており、発話者の感情・意見・主張を含む表現であるのではないかと述べている。二宮・金山は「はい」と「ええ」に注目し研究を進めているが、肯定応答表現の全体を把握していない。

以上のように日本語の肯定応答表現の意味・機能に焦点を当てた研究が多くなされてきたが、研究者によって肯定応答表現に含む表現の種類が異なる一方、実際にそれらがどのように使われているかに関する研究はまだ少ないといえる。

### 2.3 日本語の否定応答表現に関する研究

日本語の肯定応答表現に関する研究が多様であるが、否定応答表現に重点を当てた研究が少ない。否定応答表現に関する研究として奥津(1988)、森山(1989)、田窪・金水(1997)、土屋(2000)、中島(2001)、山根(2003)、富樫(2006)などが挙げられる。

奥津(1988)は、日本語母語話者(サラリーマン家庭の主婦)の自然会話に基づき、否定応答詞として「イエ」「イイエ」「イヤ」「ウウン」を「いいえ系」と呼び、それらの出現総数および比率を次の表5のように報告し、使用が多い方から「イエ」「イイエ」「イヤ」「ウウン」の順であると指摘されている。

表5 「いいえ系」の総数および比率

「いいえ系」		
イエ	121	41.4%
イイエ	89	30.5
イヤ	69	23.6
ウウン	13	4.5
	292	100.0%
	8.7%	

(奥津1988: 137より)

奥津は、上記の「いいえ系」用例の292のうち148例(約50%)をサンプルにし、応答詞の

機能を先行する発話との関連で次の表6のように12種類に分類し、それぞれでの使用率を示している。

表6 「いいえ系」のまとめ

	イエ	イイエ	イヤ	ウウン	%
1 Y-N Q	8.1	0.7	2.7	2.0	13.5
2 ね-Q	*	*	*	0.7	0.7
3 だろう-Q	2.0	*	2.0	0.7	4.7
4 Neg-Q	2.0	*	0.7	0.7	3.4
5 要求	*	*	0.7	*	0.7
6 コメント	3.4	5.4	6.8	0.7	16.3
7 感謝	2.0	2.7	*	*	4.7
8 褒め	7.4	4.7	0.7	*	12.8
9 遠慮	2.0	*	*	*	2.0
10 詫び	6.8	7.4	0.7	*	14.9
11 赦し	*	1.4	*	*	1.4
12 感動	*	*	2.0	*	2.0
( * <sup>7</sup>	7.4	8.1	7.4	*	22.9 )
	41.1	30.4	23.7	4.8	100.0

(奥津1988 : 174より)

奥津(1988)は、表6の1から6までは先行の発話の内容をそのままに否定する論理的否定で、7から11までは会話の中で否定応答詞が語用論的にむしろ肯定的な効果をあげるために使われ、感動の「イヤ」で、先行の発話に対する応答の働きはもたないと指摘している。また、奥津は女性の自然談話を中心に先行文あり・なしと先行文の形式・機能による混在な分類をしており、「はい系」と比較すると、「いいえ系」の使用が非常に少ないと述べている。

森山(1989)は、以下のように「反対表明類」「不同意類」「不可能類」という三つに分類し、いずれとも否定的な応答として捉えている。

<sup>7</sup> \*は発話が聞きとれないなどで「イイエ」の解釈が不能のもの(奥津1988 : 145)。

反対表明類：「いえ」「いいや」「いやいや」「違う」

不同意類：「いやだ」「ことわる」「(だめだ)」

不可能類：「できない」「(だめだ)」

森山は、各々表現の用法を説明しているが、例えば「いえ」「いいや」の差異の説明までは述べていない。田窪・金水（1997）は、以下のように「いいえ」「いえ」「いいや」の否定応答表現を感動詞・応答詞の機能的な分析の中で取り上げている。

「いいえ」「いえ」「いいや」は言うまでもなく相手の発話に対する否定的応答に用いる。  
（中略）否定的応答とは承認の機能に加えて、否定的な評価の先触れをしているということになる（田窪・金水 1997：265）。

田窪・金水は、「いいえ」「いえ」「いいや」の心的な機能に注目しているが、各々の表現の具体的な記述がなく、「承認の機能」「評価の先触れ」についての説明まではなされていない。土屋（2000）は、否定応答表現を「いいえ系感動詞」と呼び、そこに「いいえ」「いえ」「いや」を含めており、各々の表現の機能の説明までは述べていない。

中島（2001）は、日本語母語話者の女性同士の自然談話データに基づき、否定応答詞として「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」があり、これらを「いいえ系」と呼び、各々表現の出現総数および比率を次の表7のように示している。

表7 応答詞の種類と総数および比率(表3の再掲)

	「はい」系			「いいえ」系	
	数	%		数	%
はい	580	20.4	いいえ	5	0.2
はあ	58	2.1	いえ	28	1.0
ええ	339	11.9	いや	88	3.1
うん	1490	52.5	ううん	24	0.8
そう	228	8.0			
計	2695	94.9		145	5.1
総計	2840	100.0%			

(中島2000：77より)

自然談話データに基づき分析した中島(2000)は、「はい系」の使用が圧倒的に多く、「いえ系」の使用が極端に少ないと述べている。

女性の自然談話データに基づき否定応答詞の出現総数および比率を分析した奥津(1988)は使用が多い方から「いえ」「いいえ」「いや」「ううん」の順で、中島(2000)は、多い方から「いや」「いえ」「ううん」「いいえ」の順になっている。

山根(2003a)では、否定の言語表現「いいえ」「いえ」「いや」の中では「いや」が一番意味用法が広く、頻度も高いと述べている。山根(2003b)では「いいえ」は、相手の発話をきっぱりと否定するため、使用頻度は低く、「いえ」は丁寧な発話で用いられることが多く、女性が使用する度合いも高いと述べている。

富樫(2006)では、否定応答表現には「いえ」「いいえ」「いや」等が用いられ、聞き手に対しては「いえ」が「より丁寧」であり、「いや」が「非丁寧」と述べ、「いえ」「いいえ」「いや」の各表現の本質的機能を以下の表8のように説明している。

表8 「いえ」「いいえ」「いや」の本質的機能

「いいえ」の本質的機能	提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったことの標示
「いや」の本質的機能	提示された情報の整合性計算の結果、情報そのもの、あるいは情報提示行為に対して不整合となったことの標示
「いえ」の本質的機能	提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったことの標示。ただし提示行為の不整合性標示にも用いることができる

(富樫 2006 : 39 より)

以上のように日本語の否定応答表現の意味・機能に焦点を当てた研究がなされてきたが、研究者によって否定応答表現に含む表現の種類が異なる一方実際にそれらがどのように使われているかに関する研究はまだ少ないといえる。

## 2.4 本研究における応答表現の定義と表現の種類

### 2.4.1 定義

応答の定義に関して、各研究者の記述はほぼ似ており、認識が統一されていると言える。以下の表9は応答(表現/詞)の定義について記述している先行研究をまとめたものである。

表9 応答（表現/詞）の定義に関する先行研究

日向(1980)	応答語「はい」等は、 <u>先行文</u> の性質に応じて肯定、同意、賛成、了承といった意味を表すもの
奥津(1988)	「はい系(はい、うん、ええ、はあー)」も「いいえ系(いえ、いいえ、いや、ううん)」も応答詞とでも呼ぶべきものであって、普通は会話の相手による <u>先行の発話があるもの</u> 、相手の発話に対する応答
森山(1989)	応答表現として取り上げるものは、狭義には、①用法的に、 <u>先行するコンテキスト</u> (通常は <u>何らかの発話</u> )を必要とすること、②形式的に、応答のサインとして慣用されることにより、定形化していること③機能的に、談話運用上の聞き手側の情報伝達行為に対するサインとして機能すること
青柳(2001)	応答詞は、談話の中で <u>先行発話</u> に応じて発せられる返答の語
中島(2001)	「はい」と「いいえ」を <u>先行発話があるもの</u> とないものと大きく二分し、前者を応答表現、後者を非応答表現
富樫(2002)	あいづちとは異なり、応答は「 <u>発話権を得る</u> 」発話行動で、相手の <u>発話</u> が <u>何らかの情報</u> を <u>求めるもの</u> であるとき、それに対する反応が応答である
小早川(2006)	一般に、感動詞の「感動」「応答」「呼びかけ」の3用法のうち、「意識的に発話されるか否か」が基準となって、「応答」「呼びかけ」用法が「 <u>応答詞</u> 」である。「 <u>応答詞</u> 」とは、「1. 感動詞である。2. <u>先行文の内容に対する</u> 応答者の発話内容の方向を示す。3. 応答者に移動、発話を要求する文に対して応答となり得る。」の3点を全て満たすもの

(下線は筆者)

表9の応答の定義からみると、「先行発話に対する返答」ということで概ね一致している。先行研究を踏まえた上で、本研究では以下のように定義し、論を進める。

応答表現は、相手の発話が何らかの情報をもとに求められ、それに対する反応。すなわち、先行発話に対する応答・反応が応答表現であると定義する。

## 2.4.2 表現の種類

以下の表10は、先行研究で肯定・否定応答表現に含む表現の種類として挙げているものがまとめたものである。なお、各研究者は示している全ての表現には注目していない。各々研究で注目された表現については上記の2.2節と2.3節で詳述した。

本研究では、富樫(2006)に従い日本語の肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」、否定応答表現として「いいえ」「いえ」「いや」と日本語教科書で否定応答表現としてよく使われている「ううん」を取り上げる。

表10 先行研究による応答表現の種類

先行研究	はい	ええ	うん	はあ	はあ ー	そう	いいえ	いいえ	いや	いや	ううん	いやいや	違う
北川1977	●	●											
日向1980	●	●											
奥津1988	●	●	●		●		●	●	●		●		
森山1989								●		●		●	●
田窪1997	●	●	●	●			●	●		●			
McGloin1997	●	●											
土屋2000							●	●	●				
青柳2001	●	●											
中島 2001	●	●	●	●		●	●	●	●		●		
三宅2001	●	●	●										
富樫 2002	●		●										
富樫2006	●	●	●				●	●	●				
二宮 2006、 2009、2010、 2012	●	●											
本研究	●	●	●				●	●	●		●		

(●：それぞれの研究で挙げている形式を示す)

## 2.5 本研究の研究課題と研究方法

### 2.5.1 研究課題

本研究は以下の3点を研究課題として研究を進める。

課題1 日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の使用を明らかにする

課題2 他の6言語による応答表現の使用の類似点、相違点を探り、日本語の応答表現の特徴を明確にする

課題3 日本語教育現場における応答表現の諸問題および指導法の考察

以上のような課題を解明のために、本研究では、次のような構成で研究を進める。

第一に、日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の比較・分析を行い、両言語の応答表現の類似点と相違点を明らかにする（第3章、第4章、第5章、第6章）。第二に、日本語とシンハラ語の応答表現を分析、考察して得られた結果を基に、他の6言語（韓国語、モンゴル語、英語、スペイン語・中国語、インドネシア語）との比較・分析を行い、日本語の応答表現の特徴を明らかにする（第7章、第8章、第9章、第10章、第11章、第12章）。そして、第三に、日本語教育現場における応答表現の諸問題および指導提案を指摘する（第13章、第14章）。そして最後に、各章の分析結果から得られた結論をまとめ、今後の課題について述べる（第15章）。

### 2.5.2 研究方法

以上の課題を解決するために、多様な方法を用いて研究を進める。具体的には以下の表11の通りである。

表 11 各章における使用・収集データ

日本語の小説とそれらのシンハラ語訳とシンハラ語の小説とそれらの日本語訳を用いて、データを収集した	第3章 第4章
日本語母語話者とシンハラ語母語話者を対象としたアンケート調査によって、データを収集した	第5章
今までの研究結果と新たに対照言語学的調査の際浮かび上がった応答表現の用法を17項目に分類し、日本語母語話者とシンハラ語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第6章



第6章の応答表現の17用法項目を基に、韓国語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第7章
第6章の応答表現の17用法項目を基に、モンゴル語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第8章
第6章の応答表現の17用法項目を基に、英語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第9章
第6章の応答表現の17用法項目を基に、スペイン語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第10章
第6章の応答表現の17用法項目を基に、中国語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第11章
第6章の応答表現の17用法項目を基に、インドネシア語母語話者を対象に調査を行い、データを収集した	第12章
シンハラ語を母語とする JFL 環境の学習者を対象にアンケート調査によって、データを収集した	第13章
日本語教科書に現れる肯定・否定応答表現の「意味説明・導入課」「導入時の文型」等を調査し、応答表現の指導法について考察	第14章

本章では、先行研究と本研究の位置づけ（応答表現の定義・表現の種類、研究課題、研究方法）について述べた。次章からは、肯定および否定応答表現の対照研究について見ていく。

# 第二部

## 各論（肯定および否定応答表現の対照研究）

第3章 小説にみる日本語の応答表現とそれらのシンハラ語訳

第4章 小説にみるシンハラ語の応答表現とそれらの日本語訳

第5章 日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答表現の対照

第6章 日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の対照

第7章 日本語と韓国語の肯定・否定応答表現の対照

第8章 日本語とモンゴル語の肯定・否定応答表現の対照

第9章 日本語と英語の肯定・否定応答表現の対照

第10章 日本語とスペイン語の肯定・否定応答表現の対照

第11章 日本語と中国語の肯定・否定応答表現の対照

第12章 日本語とインドネシア語の肯定・否定応答表現の対照

## 第3章 小説にみる日本語の応答表現とそれらのシンハラ語訳

### 3.1 はじめに

本章では、日本語の小説とそれらのシンハラ語訳を用いて日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とシンハラ語の「ov」「haa」「hari」、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とシンハラ語の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」の使用状況に着目して考察する。日本語とシンハラ語の応答表現の先行研究は度々なされているが、実際にどのような場合に「はい」「ええ」「いいえ」「いえ」「いや」などを使うか、どのような場合に「ov」「haa」「hari」「nae:/nehe」「bae:/behe」などを使うかという説明と例文は不十分である。そこで、本章では実際に日本語とシンハラ語で応答表現がどのように使われているかを検討し、両言語の肯定および否定応答表現の類似点と相違点、更にはその特徴をより明確にすることを目的とする。

### 3.2 調査方法

シンハラ語の応答表現に関する研究が非常に少ないため、実際どう使われているかを検討するため、小説は適切なデータと考えた。そこで本章では、日本語の応答表現とそれらに対応するシンハラ語訳を探るために、以下の小説を対象とする。

i 夏目漱石の『坊ちゃん』とその二つのシンハラ語訳「*Punchi hamu*」(Ranasingha Piyadasa 以下翻訳Aと略す)と「*Avanka Guruvarayekuge kathawak*」(Suraweera A. V. 以下翻訳Bと略す)

ii 川端康成の『雪国』とそのシンハラ語訳「*Himabima*」(Wimalasena Jayantha 以下翻訳Cと略す)

『坊ちゃん』を選んだ理由の一つには、『坊ちゃん』が有名な小説家である夏目漱石の小説の中でもベストセラーに入るほど高い評価を得ていることがある。もう一つは、日本語の小説でシンハラ語に訳されたものはいくつかあっても、複数の訳本が出ているのは『坊ちゃん』だけだったためである。『坊ちゃん』にはシンハラ語訳が二種類あるため、訳本により、応答表現を比較しやすいと思い、『坊ちゃん』を選んだ。『雪国』を選んだ理由は『坊ちゃん』に比べて多くの種類の肯定・否定応答表現のデータがあったことと、有名な小説家の川端康成の作品で、シンハラ語訳も有名な日本語翻訳家であることである。

### 3.3 先行研究

#### 3.3.1 日本語の肯定応答表現の研究

まず、日本語の肯定応答表現に関する研究としては、北川(1977)、日向(1979)、中島(2001)、富樫(2006)、二宮・金山(2012)などが挙げられる。

北川(1977)は「はい」は、相手の言ったことがこちらにはつきり届いたということを敬意をもって表示するのに対し、「ええ」は、相手の言ったことに対して自分もそのように思うという自分の気持ちを表出すると述べ、「自分もそう思う」と答えるのが不自然な場合「ええ」で応答することはできないと指摘する。また、日向(1980)は、「はい」は相手の発話に対する「認知応答」と「ええ」は相手の発話に対する「同意応答」と名づけたうえで、さらに細かい意味分析を行っている。さらに中島(2001)では、肯定応答詞として「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」があり、これらを「はい系」とまとめて分類しているのが特徴的である。これに対し富樫(2006)は、肯定応答表現には「はい」「うん」「ええ」が用いられると述べ、先ほどの中島とは表現の種類分類において異なる分類の仕方を取っている。最後に、二宮・金山(2012)は、文学作品用例分析を通して、『ええ』は明らかに『はい』とは異なる意味・機能を有しており、発話者の感情・意見・主張を含む表現であるのではないかと述べている。

#### 3.3.2 日本語の否定応答表現の研究

日本語の否定応答表現に関する研究としては、森山(1989)、田窪(1997)、土屋(2000)、中島(2001)、富樫(2006)などが挙げられる。

まず、森山(1989)は、否定応答表現を以下「反対表明類」「不同意類」「不可能類」のように、分類している。

反対表明類：「いえ」「いいや」「いやいや」「違う」

不同意類：「いやだ」「ことわる」「(だめだ)」

不可能類：「できない」「(だめだ)」

森山(1989)は、応答の用法の分類に注目しているが、例えば、「いえ」と「いいや」の差異の説明までは述べていない。田窪(1997)は、「いいえ」「いえ」「いいや」の否定応答表現形式を感動詞・応答詞の機能的な分析の中で取り上げ、各々の表現の心的な機能に注目している点は評価できる。土屋(2000)は、否定応答表現形式を「いいえ系感動詞」と呼び、そこに「いいえ」「いえ」「いや」を含めているが、各々の表現の機能の説明までは述べていない。中島(2001)は、否定応答詞には「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」などがあり、

これらを「いいえ系」とまとめて分類している。富樫(2006)は、否定応答表現には「いえ」「いいえ」「いや」等が用いられ、聞き手に対しては「いえ」が「より丁寧」であり、「いや」が「非丁寧」であると述べている。

### 3.3.3 シンハラ語の肯定応答表現の先行研究

シンハラ語の肯定応答表現に関する研究として Fair Banks, Gair, De Silva (1968b)、野口 (1986)、Dissanayake (1992)、Amarasekara, Gunasena (2004) などが挙げられる。

Fair Banks, Gair, De Silva (1968b) は、肯定応答表現として「ov」「haa」「hari」などがあると述べ、「haa」「hari」は、「命令」又は「承諾」に対する肯定応答表現として一般的には使用されると指摘している。「命令」「承諾」以外の発話に対する肯定応答表現として「ov」が使われると述べている。野口 (1986) は、シンハラ語の「ov」は、呼び掛け、質問に答えて肯定・同意の返事と指摘されている。Amarasekara, Gunasena (2004) は、シンハラ語の肯定応答表現に用いる表現について表 12 の通り示している。

表 12 : シンハラ語の肯定応答表現

肯定応答表現	使用場面
ov	何らかの情報を肯定する時の応答
haa	命令・依頼に対する応答
hari	命令・依頼に対する応答
ehemai/ehei	「畏まりました」に近い(身分の低い者から目上の者に対して敬意を表すために用いられる応答。多くの場合、僧侶に使用する。現在も使われている)
yeheki	現在はほとんど使われていない、古いシンハラ語の応答表現

### 3.3.4 シンハラ語の否定応答の先行研究

シンハラ語の否定応答表現に関する研究として野口 (1986)、Dissanayake (1992) などが挙げられる。

Dissanayake (1992) は、否定応答表現に用いる表現について、以下の表 13 の通り示し、「nae:/nehe」は、肯定応答表現の「ov」の反意語で、「nae:」「bae:」は口語に使用され、「nehe」「behe」は文章語に使用されると述べている。

表 13 シンハラ語の否定応答表現

否定応答表現	日英訳・意味 <sup>8</sup>
nae:/nehe	いいえ/no
neme:	ない/not
bae:/bahe	できない/can' t
epaa	いや/ no

野口（1986）は、シンハラ語の否定を表す表現を以下の表 14 のように挙げている。

表 14：シンハラ語の否定を表す表現

肯定・否定表現	日本語訳
nehe/nae:	(動詞の打消し) ない、いいえ、 (驚きを表して) まさか、そんな
kawadawath nehe	決して...ない
beri...	できない...
bae:/behe	だめ、いや
epaa	(禁止) してはいけない、(拒絶) もう結構

### 3.4 結果の分析と考察

本節では、『坊ちゃん』の原文と二つのシンハラ語の翻訳、『雪国』の原文とシンハラ語の翻訳を対象に両言語の応答表現の特徴をより明確にするため、原文からは応答表現を含む部分を抽出し、訳文からはそれに対応する部分を引用し、両言語の応答表現の用法を比較、考察する。以下では、「はい」「ええ」「うん」などそれぞれの用例について見ていく。

#### 3.4.1 「はい」の使用

本節では、「はい」の使用について見ていく。なお、「はい」に相当する用例が『坊ちゃん』にはなかったため、『雪国』の「はい」の用例のみを中心に分析、考察する。

##### 1. 子供さんはもう大きいの？

<sup>8</sup> 日英訳・意味は筆者より

はい。上の女は十三になります。」(雪国：P56)

ov, wedimahai lamayage wayasa dahatunai. (翻訳C：P65)

2. よく時計の時間が分るね。

はい、ガラスが取ってございますから。(雪国：P56)

ov, meke vidiruwak neti nisa... (翻訳C：P65)

3. 誰だか下手な三味線だね。

はい。(雪国：P57)

ov (翻訳C：P66)

4. 君は弾くんだらう。

はい。九つの時から二十まで習いましたけれど、(省略)(雪国：P57)

ov, wayasa namaye idala wissa wenkan iganagatta (省略)(翻訳C：P67)

上記用例1～4までの日本語とシンハラ語の応答表現の使用をみると、用例1の「はい」は、「子供さんもう大きいですか」という真偽疑問文に対する肯定応答である。シンハラ語では、「ov」に訳されている。「ov」は質問に対しての肯定を表している。

用例2～4までの用例はいずれも「ね」を伴う確認文であり、「はい」は確認に対する同意を表している。シンハラ語では、用例2～4までのいずれも「ov」に訳されている。

小説の比較分析によって、用例1～4では、日本語の「はい」に相当する、シンハラ語の表現は「ov」ということが分かった。また、日本語の「はい」とシンハラ語の「ov」は、「真偽」と「確認応答」に対する応答として使われることも確認できた。次は「ええ」の用例について見てみる。

### 3.4.2 「ええ」の使用

本節では、「ええ」の原文(坊ちゃん、雪国)と訳文の用例について検討する。

5. それが少し込み入ってるんだが、まあだんだん分りますよ。僕が話さないでも自然とわかって来るです、ね吉川君

ええなかなか込み入ってますからね... (坊ちゃん：P66)

apoi ov, santhosha vitharak neme... (翻訳A：P68)

ov, kemathii. mama kiyanne ettha……」(翻訳B : P71)

6. そりゃ結構です。からだが悪いと人間も駄目ですね

あなたは大分ご丈夫のようですなええ瘠せても病気はしません。病気なんてものゝ大嫌い  
ですから (坊ちゃん : P102)

ov. man kettu unata kawadawath asanipayak hedila nae. (翻訳A : P109)

ov. mama kettui. et kawadawath mata asanipayak nehe. (翻訳B : P109)

用例5は『坊ちゃん』からの用例で、赤シャツと吉川の間での会話であり、「ね吉川君」と確認している発話である。日向(1980)は、「ね」を伴う確認文では、AB共に同じ情報を共有していることが前提となり、「ええ」が現れやすいと指摘し確認文に対しては待遇的に「はい」「ええ」「うん」が使い分けられると述べている。用例6では、「ね」が現れなくても「大分ご丈夫のようですな」という相手の判断に対しての受け答えであり、「ええ」が現れやすい。用例5の翻訳Aでは「apoi ov (確かにそうです)」と翻訳Bでは「ov」に訳されている。用例6の翻訳AとBでは「ov」に訳されている。シンハラ語の肯定応答表現の「ov」「haa」「hari」の中で、確認に対する同意を示す表現は「ov」であり、翻訳A,B共に同一の訳となっている。以下では、『雪国』の「ええ」用例を分析、考察する。なお、真偽疑問文の用例が多かったため、同一訳の用例はいくつか省略した。

7. 日記? 日記をつけてるの?

ええ、古い日記を見るのは楽しみですわ。(雪国 : P38)

ov, parana dinapoth kiyawana eka mata harima winodayak. (翻訳C : P50)

8. ずっと欠かさず日記をつけてるのかい。

ええ、十六の時のと今年のとが、一番面白いわ。(雪国 : P39)

ov, mata avrudu dahasaya labapu kale idalama. (翻訳C : P50)

9. 君の家がここか。

ええ。(雪国 : P50)

ov (翻訳C : P59)

用例7と8は島村と駒子の間での会話で、いずれも先行文は真偽疑問文であり、「はい」



「ええ」「うん」のいずれも可能であるが、この文脈では「ええ」はより自然と言える。日記をつけることについて質問されている発話に対して、「ええ」のみの応答ではなくて、後文では聞き手のコメントが続く会話において、「ええ」はより自然と言える。用例9は、先行文は「家がここですか」という真偽疑問文で「ええ」が使われ、相手との親しい関係を示していると言える。

シンハラ語の翻訳を見ると用例7～9までのいずれも「ov」に訳されている。シンハラ語の「ov」は、話し手の発話に対する同意を示していて、後文では聞き手のコメントがあるかないかを問わず使われていることが分かった。

#### 10. 幼馴染だね。

ええ、でも、別れ別れに暮して来たのよ。(雪国：P66)

anna hari, eth jivithe wedi kalayakma api wena wenamai hitiye. (翻訳C：P74)

日向(1980)でも指摘されているように用例10のような「ね」を伴う先行発話が確認文においては、「ええ」が現れやすいと言える。シンハラ語では、「anna hari (仰る通りだ)」に訳されている。「hari」が使われていることによって先行発話に対する同意・肯定を表しているが、「hari」のみの応答は不自然である。Banks, Gair, De Silva (1968b)で指摘されているように、「hari」は一般的には「命令」又は「依頼」に対する応答表現であり「幼馴染だね」という「命令」にも「依頼」にも該当しない確認の発話に対して「hari」のみで応答することは不自然である。「hari」の前には「anna hari/hariyata hari (完全におっしゃる通りだ)」のような副詞と一緒に使われる。以下では、「うん」の用例について見てみる。

#### 3.4.3 「うん」の使用

本節では、「うん」の原文と訳文の用例を中心に考察を行う。なお、真偽疑問文の用例が多かったため、同一訳の用例はいくつか省略した。

11. 「亭主が君に何を話したんだか、おれが知ってるもんか。そう自分だけできめたってしようがあるか。わけがあるなら、わけを話すのが順だ。てんから亭主の言う方がもっともだなんて失敬千万な事を言うな。

うん、そんなら言ってやろう。君は乱暴であの下宿で持てあまされているんだ。(坊ちゃん：P76)

hari, ehenam aha gannawa: ohu piliwadan duni... (翻訳 A:P80)

haa hodai. ehenam man kiyannam... (翻訳 B:P83)

用例 11 は、山嵐が下宿を出るように坊ちゃんにいう場面の会話である。「うん」は「失敬千万な事を言うな」という相手の命令に対する返答である。日向(1980)は、絶対的に命令する発話の応答には「ええ」は表れにくいと述べている。また、「うん」を使うことによって坊ちゃんと山嵐との友情を示していると思われる。翻訳 A では、「hari」と翻訳 B では、「haa」に訳されている。Banks, Gair, De Silva (1968b) で指摘されているように、「命令」に対する肯定応答表現としては「haa」「hari」のいずれも使われる。なお、「hari」は相手との関係が親しい時に多く使われる。翻訳 A では「hari」を使うことによって、坊ちゃんと山嵐の間が親しい関係であることを示している言える。一方、それに続く「ehenam aha gannawa:」は坊ちゃんが怒っていることを示し、目上に対しては失礼な言い方である。翻訳 B では、丁寧な言い方をしている。

12. まだご存知ないかなもし。ここらであなた一番の別嬪さんじゃがなもし。あまり別嬪さんじゃけれ、学校の先生方はみんなマドンナマドンナと言うといでるぞなもし。まだお聞きんのかなもし

うん、マドンナですか。僕あ芸者の名かなと思った (坊ちゃん : P93)

aa, man ahala nam thiyana wa thama. et man hithuwe kauru hari dancing girl kenekuta kiyana rahas namak kiyalai (翻訳 A:P100)

aa suruwama da? man hithuwa geisha kellekuge namak kiyala (翻訳 B:P101)

用例 12 の「うん」は相手の「まだ聞いていないのか」という発言に対して同意を表す応答である。翻訳 A, B は共に既知の事柄についての相手の発言に対する同意を表す「aa」という感動詞に訳されている。

13. 君は一体どこの産だ

おれは江戸っ子だ

うん、江戸っ子か、道理で負け惜しみが強いと思った (坊ちゃん : P124)

hariyata hari eka thamai thamuse ochchara adambarakamata, katawath konda nonama inne (翻訳 A : P133)

aa, tokiyo da?... (翻訳 B : P131)

用例 13 の「うん」は、「おれは江戸っ子だ」という相手の発話に対して「自分の推測通りだ」という応答である。翻訳 A では「hariyata hari」と「副詞+応答表現」という形に、翻訳 B では「aa」という感動詞に訳されている。「hariyata hari」は、「完全に思った通りだ」という意味である。4.4.3 で言及した通り「hari」は、「命令」又は「依頼」に対する応答表現で、「おれは江戸っ子だ」という「命令」にも「依頼」にも該当しない発話に「hari」のみで応答することは不自然である。翻訳 B の「aa」は感動詞であり、「性格からみて自分もそう思った」という推測が正しかったことを表している。

14. 美しい顔をして人を陥れるようなハイカラ野郎は延岡におらないから.... と君は言  
ったろう

うん (坊ちゃん : P133)

ov kiuwa thama (翻訳 A : P143)

ov (翻訳 B : P140)

15. 見届けるって、夜番でもするのかい

うん、角屋の前に柵屋という宿屋があるだろう。あの表二階をかりて、障子へ穴をあけて、  
見ているのさ。(坊ちゃん : P146)

ov, kadoya issaraha thiyena mayuya kiyana hotale. (省略) (翻訳 A : P159)

ov, kadayawata paren anith petthe masui kiyala thanayamak thiyana. (省略) (翻訳  
B : P154)

用例 14 と 15 の「うん」は相手の発言に対する同意を表している。翻訳 A と翻訳 B では、「ov」に訳されている。シンハラ語の肯定応答表現の「ov」「haa」「hari」の中で相手の発話に対する同意を示す表現は「ov」ということが小説の比較分析によって再確認できた。

16. あいつは、ふた言目には品性だの、精神的娯楽だのと言うくせに、裏へ廻って、芸者と関係なんかつけとる、怪しからん奴だ。それもほかの人が遊ぶのを寛容するならいいが、君が蕎麦屋へ行ったり、団子屋へはいるのさえ取締りじょう害になると言って、校長の口を通して注意を加えたじゃないか

うん、あの野郎の考えじゃ芸者買いは精神的娯楽で天麩羅や、団子は物質的娯楽なんだろう。.... (坊ちゃん : P145)

“hmm” mama kiimi. mata penne rathu kamisaya hithana vidihata geshawak ekkala komala

karana eka adyathmika prithiyak. (翻訳 A:P158)

ov, salli walata geishawak ganna eka adyathmika parishuddaya hetiyata eya hithagena  
inna patai. (翻訳 B:P153)

用例 16 の「うん」は相手の発話に対して同意や肯定を表している。翻訳 A では「hmm」というあいづちに、翻訳 B では「ov」という応答表現に訳されている。「うん」は「君の言う通りだ」という相手の感情を表している。翻訳 A では「あいづち」として捉えていて、翻訳 B では応答表現として捉えているのは興味深い。次は、『雪国』の「うん」の用例について考察する。

17. だから呼んでくれよ。

今？

うん。(雪国 : P25)

ov, den (今) (翻訳 C:P36)

18. あんたの出ていらっしゃるところ、私見てたのよ。二時か、三時前だったわね？

うん。(雪国 : P159)

ov (翻訳 C : P159)

19. 行くの、あんたも？

うん。(雪国 : P164)

ov (翻訳 C : P164)

用例 17～19 までの用例はいずれも島村と駒子との間の会話であり、「うん」は親しい相手の発話に対して同意を表し、翻訳 C ではいずれも「ov」に訳されている。真偽疑問文の先行発話に対しての「うん」に相当するシンハラ語の形式は「ov」ということが今回の分析、考察から確認できた。以下では、「いいえ」の用例について言及する。

#### 3.4.4 「いいえ」の使用

本節では、「いいえ」の原文と訳文の用例について検討する。原文と訳文の応答表現が同一訳となっていた真偽疑問文の用例はいくつか省略した。

20. しかし今時の女子は、昔と違って油断ができんけれ、お気をおつけたがええぞなもし何ですかい、僕の奥さんが東京で間男でもこしらえていますか

いいえ、あなたの奥さんはたしかじゃけれど…… (坊ちゃん : P93)

nae: nae: mahaththayage nona hugak hodai. eth. .... (翻訳 A : P100)

nae:, nae:. mahaththayage nonage waradak nae: . eth. .... (翻訳 B : P100)

用例 20 の「いいえ」は真偽疑問文に対する否定応答であり、翻訳 A, B 共に「nae: nae:」に訳されている。「nae:」を二回続けて言うことによって、「あなたの奥さんは決してそんな人ではない」ということをはっきり言っている。

21. 野だがつけたんですか

いいえ、あの吉川先生がおつけたのじゃがなもし (坊ちゃん : P94)

nae: noda neme, eka yoshikawa sir dapu namak (翻訳 A : P100)

nae:. ara yoshikawa. eya thama e nama dunne (翻訳 B : P101)

22. 今より時間でも増すんですか

いいえ、時間は今より減るかもしれませんが…… (坊ちゃん : P112)

nae:. weda karana paeya ganana aduwei. (翻訳 A : P121)

nehe, ohege paeya ganana nana du wei.」 翻訳 B : P119

用例 21 と 22 の「いいえ」はいずれも真偽疑問文に対する否定応答であり、用例 21 の翻訳 A と B では、「nae:」に訳されている。用例 22 の翻訳 A は、「nae:」と翻訳 B は「nehe」に訳されている。シンハラ語の否定応答表現の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」の中で相手の発話に対する不同意を示す表現は「nae:/nehe」であり、主に「nae:」は口語又は会話の時使用され、「nehe」は文章語に使用されることが多い。

23. ここらにも大分おります。先生、あの遠山のお嬢さんをご存知かなもし

いいえ、知りませんね (坊ちゃん : P93)

nae: man danne nae: (翻訳 A : P100)

nae: man danne nae: (翻訳 B : P100)

用例 23 の「いいえ」は、「ご存じかどうかを確認する」確認文に対する不同意を表す応

答である。翻訳 A と翻訳 B は共に「nae:」に訳されている。シンハラ語の訳文を見ると文頭と文末のいずれにも「nae:」が現れている。文頭の「nae:」は、先行発話に対して不同意を表す応答表現で、文末の「nae:」は、「dannawa(知る)」という動詞の否定形「danne nae: (知らない)」を表している。シンハラ語の動詞の否定形は「動詞語尾+nae:」という形である。

24. あっ、失礼しました。

いいえ、どうぞ。あっちの湯へ入りますから。(雪国 : P44)

kamak nehe. api anik ekata yannam. (翻訳C : P55)

25. よくなったの？

いいえ。(雪国 : P91)

nehe。(翻訳C : P100)

用例24「いいえ」は、「失礼しました」という発話に対して「お詫びをいうほどではない、大丈夫だ」ということを表している。用例24のシンハラ語訳の「kamak nehe」は「大丈夫だ」という意味の表現であり、「kamak」か「nehe」のみでは使われない。用例25「いいえ」「nehe」は、「よくなったかどうか」を聞いている発話に対する否定的な応答である。

### 3.4.5 「いえ」の使用

本節では、「いえ」の原文と訳文の用例についてみていく。

26. あなたはどっか悪いんじゃないいませんか。大分たいぎそうに見えますが.....

いえ、別段これという持病もないですが..... (坊ちゃん : P102)

nae:. mata kiyanta tharam amaruwak nae: (翻訳 A : P108)

nae:. kiyanna tharam amuththak nae: (翻訳 B : P108)

用例 26 の「いえ」は、「相手の推測が正しくないこと」を表している。翻訳 A, B 共に「nae:」に訳されている。シンハラ語では、相手の発話に不同意を表す表現は「nae:」である。シンハラ語の訳文を見ると文頭と文末のいずれにも「nae:」が現れている。文頭の「nae:」は、先行発話に対して不同意を表す応答表現で、文末の「nae:」は、「悪い」という形容詞の否定形「amaruwak nae: (悪くない)」を表している。シンハラ語の動詞と形容詞の否定形は「動詞・形容詞語尾+nae:」という形である。

### 3.4.6 「いや」の使用

27. もう八時

お湯へ行こうか。と島村は起き上った。

いや、廊下で人に会うから。(省略) (雪国 : P63)

mata bae:, salawe minissu mawa dekkoth. (翻訳C : P72)

用例27の「いや」は、「行こうか」と誘われていることに対しての断りを示す応答である。シンハラ語訳は、「bae:」という否定応答になり、勧誘に対して断る時の日本語の「いや」に相当するシンハラ語の応答表現形式は「bae:」ということが確認できた。

### 3.4.7 「ううん」の使用

28. 黒髪<sup>9</sup>を最初に習ったの？

ううん。(雪国 : P72)

nae: (翻訳C : P80)

用例28の「いいえ」「nae:」は、先行発話に対して、「そうではない/間違っている」ということを表す否定的な応答である。

## 3.5 本章のまとめ

本章では、『坊ちゃん』とその二つのシンハラ語訳、『雪国』とそのシンハラ語訳の肯定および否定応答表現の用例を分析、考察した。その結果、日本語とシンハラ語の応答表現を以下の表 15 のようにまとめることができた。

表 15 日本語に相当するシンハラ語の肯定・否定応答表現

---

<sup>9</sup> 長唄を始めた頃に習う短い曲

肯定		否定	
日本語	シンハラ語	日本語	シンハラ語
はい	ov	いいえ	nae : nehe
ええ	ov	いえ	nae :
うん	haa hari	いや	bae:
		ううん	nae :

上記の表 15 を見ると、日本語の「はい」と「ええ」に相当するシンハラ語の形式は「ov」で、「うん」に相当するシンハラ語の形式は「haa」と「hari」である。否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」に相当するシンハラ語の形式は「nae :」で、「いや」に相当するシンハラ語の形式は「bae:」である。

今回、小説の用例を中心に日本語原文とシンハラ語翻訳の比較分析を行った結果以下のことが明らかになった。

1. 日本語の「ええ」は、先行発話は「確認文」又は「聞き手の感情・意見などを含む後文が続く真偽疑問文」で現れやすいということが分かった。
2. 日本語の「うん」とシンハラ語の「hari」は、親しい発話同士の会話で現れやすいということが確認できた。
3. シンハラ語の「ov」は親しさとは関係なく、命令又は依頼以外で用いられることが分かった。
4. 日本語の「はい」は「相手の発話内容に対しての同意」を示していると言える。



5. シンハラ語の「ov」「haa」「hari」等は同意の役割が果たしているのに、日本語の「ええ」「うん」は同意以外に発話者の感情・意見を含む表現であると言ってもよい。

本章では『坊ちゃん』とその二つのシンハラ語訳、『雪国』とそのシンハラ語訳の肯定および否定応答表現の用例を分析、考察した。次章では、逆にシンハラ語の小説とそれらの日本語訳を用いて両言語の応答表現の使用状況について更に明らかにする。

## 第4章 小説にみるシンハラ語の応答表現とそれらの日本語訳

### 4.1 はじめに

第3章では、日本語の小説とそれらのシンハラ語訳を通して、両言語の肯定および否定応答表現の用例を分析、考察した。本章では、シンハラ語の小説とそれらの日本語訳を用いて、シンハラ語の肯定応答表現の「ov」「haa」「hari」と日本語の「はい」「ええ」「うん」、シンハラ語の否定応答表現の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」と日本語の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」の使用状況に着目して考察する。そして、両言語の肯定および否定応答表現の類似点と相違点をより明確にすることを目的とする。

### 4.2 調査方法

本章では、シンハラ語の応答表現とそれらに対応する日本語訳を探るために、以下の小説を対象とする。

- i 「*Malagiya aththo*」(Sarachchandra Ediriweera、以下原文Aと略す)『亡き人(第一部、亡き人)』(E・サラッチャンドラ著、野口忠司訳、以下翻訳Aと略す)
- ii 「*Malavunge avurudu da*」(Sarachchandra Ediriweera、以下原文Bと略す)『亡き人(第二部、お命日)』(E・サラッチャンドラ著、野口忠司訳、以下翻訳Bと略す)

数少ないの日本語訳の小説のうち、上記を選んだ理由は、多くの種類の肯定・否定応答表現のデータがあったことと、有名な小説家のサラッチャンドラの作品で、日本語訳も有名なシンハラ語翻訳家であることである。

### 4.3 結果の分析と考察

本節では、『*Malagiya atto*』の原文と日本語の翻訳『*Malavunge avurudu da*』を対象に両言語の応答表現の類似点と相違点をより明確にするため、原文からは応答表現を含む部分を抽出し、訳文からはそれに対応する部分を引用し、両言語の応答表現の用法を比較、考察する。以下では、「ov」「haa」「nae:/nehe」「bae:/behe」などそれぞれの用例について見ていく。なお、シンハラ語の小説の原文には、肯定応答表現のうち「haa」「hari」に相当する用例がなかった。次は「ov」の翻訳状況について見てみる。

#### 4.3.1 「ov」の使用

本節では、「ov」の用例について見ていく。まず、シンハラ語の「ov」を日本語の「はい」に訳されている用例を分析、考察する。なお、真偽疑問文の用例が多かったため、同一訳の用例はいくつか省略した。

1. hebewatama? mama kikugoro kandayama dekala nae:. ebisoi, shoorokui, koshiroi saho darayo ne. dannawada?

ov, mama dannawa. (原文A:P18)

本当ですか？私、菊五郎一座をまだ見たことがありません。海老蔵、松縁、幸四郎は皆兄弟でね。ご存知ですか？

はい。知っています。(翻訳A:P24)

2. Japanaye koi keamath kanawada?

Ov, mama den hema vidiyema keama kanawa. (原文A : P21)

日本のどんな料理でもお食べに？

はい、私、今はどんなものでも頂きます。(翻訳A : P28)

3. epaa, sake thiyana. dewendorasan sake walata kemathi ne, bira walata wada? Ii n oroko magen esuwaya.

ov, etthenma mama nam kemathi sake walata tamai. (原文A : P27)

結構よ。お酒があるから。デウエンドラさんお酒が好きだったわね？ビールよりもと典子は私に尋ねた。

はい、そうです。私はどちらかといえばお酒のほうが好きです。(翻訳A : P37)

4. Ei hadissiyen ma adanna patan gatte? mama vihiluwata kiuwe.

Ov, mama dannwa. (原文A : P54)

どうして急に泣いたりなんかしたんですか？私、冗談の積もりで言ったのに…

はい、そのことはよく知っています。(翻訳A:P79)

5. Thaththa th ekka okkoma kiyana. wada, api athara sidda wena dewal?

ov, okkoma visthara karala kiyana. (原文A:P57)

お父さんに何もかもすっかり言うてしまうんですか？二人の間の色々な事を？

はい、何もかもすっかり話しますよ。(翻訳A : P84)

上記用例1～5までのシンハラ語と日本語の応答表現の使用をみると、用例1の「ov」は、「ご存知ですか」という質問に対して「知っています」ということを表す肯定応答である。日本語では、「はい」に訳されている。「はい」は質問に対しての肯定を表している。

用例2は、「どんな料理でも食べますか」という質問に対して「ov」を使うことによって「何でも食べます」ということを表している。

日本語では、用例1～5までのいずれも「はい」に訳されている。小説の比較、分析によって、用例1～5では、シンハラ語の肯定応答表現の「ov」に相当する日本語の表現は「はい」であることが分かった。また、シンハラ語の「ov」と日本語の「はい」は、「真偽」に対する肯定応答表現として使われることも確認できた。次は、シンハラ語の「ov」を日本語の「ええ」に訳されている用例について見てみる。「原文B」のシンハラ語の「ov」を日本語の「はい」に訳した用例は見れなかったが、「ええ」に訳した用例はいくつかあった。

6. Kohomatath Okathasan ee peththata yanawa ne?ii dewendorasan esuweya.

Qv, man e lagatama yanawa. (原文B:P21)

いずれにしても緒方さん、同じ方に行かれるんでしょうとデウエンドラさんは念を押すかのように尋ねた。

ええ、私そのすぐ近くまで行きます。(翻訳B:P210)

7. Heta yanna puluwannda?ii momoko esuwaaya.

Qv, den mata sanipai. (原文B:P47)

明日行けますかし?と姉が尋ねた。

ええ、もう大丈夫です。(省略)(翻訳B:P246)

8. Dewendorasan apith ekka enawane thaththage sohona balanna?ii noriko esuwaya.

Qv, mama novaradawama enawa. (原文A:P104)

デウエンドラさん、私達と一緒にいられるのでしょうか。父のお墓参りに?と典子が尋ねた。

ええ、必ず参ります。(翻訳A:P151)

上記の用例6～8はいずれも先行文は真偽疑問文である。シンハラ語の原文ではいずれも「ov」で、日本語訳は肯定応答表現の「ええ」になっている。シンハラ語では、真偽疑問文に対する返答として「ov」しか使われない。しかし、日本語では、「はい」「ええ」のいずれも可能であることが分かった。上記のいずれの用例においても「ええ」を使うことに

よって、相手との親しい関係を示していると言える。

従って、用例6～8ではシンハラ語の肯定応答表現の「ov」に相当する日本語の表現は「ええ」であることが分かった。以下では、「nae:/nehe」の用例について見てみる。

#### 4.3.2 「nae:/nehe」の使用

本節では、「nae:/nehe」の用例について検討する。原文と訳文の応答表現が同一訳となっていた真偽疑問文の用例はいくつか省略した。

9. Kema ehema taniyama pihagannawada?

nae:, mata uyanna kammellii. (原文A:P29)

お食事なんかを一人で作っていらっしゃるのですか？

いいえ、自炊は厄介なのでやりません。(翻訳A : P40)

10. Kauru hari ketayam chithtra acchu gahanawa dekala thiyanawada?

nae:. (原文A:P33)

誰か木版をプリントしているところを見たことがありますか？

いいえ、一度もありません。(翻訳A : P46)

11. Dethun serayak kiuwata, hariyatama nam desarayai. anik sere man hawasa yanakot a, mata ada gehuwa, the bonna yanna .

itin giyada?

nae:, mam welawak netei kiyala giya. (原文A:P39)

二、三回といっても正確には二回です。一回は確か私が夕方出掛ける時、お茶を飲みに行こうと声を掛けられて...

それで一緒に行ったのですか？

いいえ、時間がないからと断ってお勤めに行きました。(翻訳A : P55)

12. Dewendorasan ge rate okkoma sindu oya wage dukmusu ewadei mama warak esimi.

nae:, prithimath ewath thiyanawa. (原文B:P11)

デウエンドラさんのお国の歌は皆そのように悲しい音色の曲ばかりのか？と私は彼に一度尋ねた。

いいえ、朗らかな歌もあります。(翻訳B:P195)

13. Hidejisan kohomatawath kemathi wena wena ekak nae:.anika eya mewa gena mukut h danne nethuwa ethi.eda siddiya gena mukuth ehuwada?

nae:,math ekka nam mukuth sadahan keruwe nae:. (原文B:P49)

博次さんは、まずもってこの私たちの結婚に賛成することはありません。その上私たちのことを何もご存知ないと思います。この前のことで、何か典子さんに尋ねていましたか  
いいえ、私とは何一つ…。(翻訳B:P249)

用例9から13例はいずれも真偽疑問文であり、シンハラ語の原文は「nae:」という否定応答表現になっている。いずれの用例において日本語では、「いいえ」に訳されている。シンハラ語の否定応答表現の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」のうち相手の発話に対する否定を示す表現は「nae:/nehe」であり、主に「nae:」は口語又は会話の時使用され、「nehe」は文章語に使用されることが多い。

従って、用例9～13ではシンハラ語の否定応答表現の「nae:」に相当する日本語の表現は「いいえ」であることが分かった。

14.Mata nam theren nae mokada une kiyala.mage mukuth sambandayak thiyanawada me wechcha deta?ehema man mata bohoma kanagatui.dewendorasan kiweya.

nae:,nae:,dewendorasan ge kisima sambandayak nae:. (原文B:P42)

私には、さっぱり分かりません。一体どうなったのか。今晚の事は私に何かその原因があったのでしょうか？もしそうなら私、とても申し訳ありませんとデウエンドラさんは言った。

いいえ、いいえ、デウエンドラさんとは何の関係もありません。(省略) (翻訳B:P238)

用例14では、原文と訳文は共に「nae: nae:」「いいえいいえ」になっている。「nae:」を二回続けて言うことによって、「デウエンドラさんとは関係がない」ということをはっきり言っている。訳文も同様に「いいえ」をを二回続けて使うことによって、否定の意味を強く示していると言える。

15. Nonchan ikmanata vivaha wenna yana wagath apata aranchii.ee hebeda?ii kenek esuweya.

nae:,kauda kiwwe?ehema kalpanawak nae denma. (原文A:P22)

典んちゃん！近々結婚するとか…専ら噂だけ。本当？とある客が尋ねた。

とんでもないわ！誰が言ったの？そんなことまだ考えてもいません。(翻訳A:P29)

用例15の「nae:」は、「間違っている」ということを表している。日本語では「とんでもないわ」に訳されている。日本語では、「いいえ、とんでもないわ」の「いいえ」を省略し、「とんでもないわ」のみの訳によって、相手の発話を強く否定している。「結婚のことを少しも考えてなかった」ということを強く表していると言える。

#### 4.3.3 「bae:/behe」の使用

本節では、「bae:/behe」の原文用例とそれらの日本語訳についてみていく。

16. Api ewidinna yamuda?ii mama norikogen esimi.

bae:, mata kohewath yanna hitha nae:, ii aya pilithuru dunnaya. (原文A:P121)

ちょっと散歩に出ませんか？と典子を誘った。

いいえ何処へも行きたくありません。と彼女は精のない返事をした。(翻訳A:P174)

用例16の「bae:」は、「一緒に散歩しましょうか」と誘われていることに対しての断りを示す応答表現である。日本語訳は、「いいえ」になっている。勧誘に対して断る時のシンハラ語の「bae:」に相当する日本語の応答表現は「いいえ」であることが確認できた。

#### 4.3.4 「epaa」の使用

17. Dewendora san keama tikka kannu.yakisoba thiyana.

Epaa, mata badagini nae:. (原文A:P39)

デウエンドラさんどうですか。少しお食べにたつては？焼そばがありますよ。

いや結構です。私今、お腹が減っていません。(翻訳A:55)

18. Mama gihilla bira gennada?

epaa, sake thiyana. (原文A:P27)

それじゃちょっとビールでも買って来ようか？

結構よ。お酒があるから。(翻訳A:P37)

用例17の「epaa」は、「いらない」ということを表している。日本語では「いや」に訳されている。用例18では日本語は「いや」を省略し、「結構」のみに訳されている。

従って、シンハラ語の否定応答表現のうち「bae:」に相当する日本語の応答表現は「いや」であることが確認できた。

#### 4.4 本章のまとめ

本章では、『*Malagiya aththo*』とその日本語の翻訳、『*Malavunge avurudu da*』とその日本語の翻訳の肯定および否定応答表現の用例を分析、考察した。その結果、日本語とシンハラ語の応答表現を以下の表 16 のようにまとめることができた。

表 16 シンハラ語に相当する日本語の肯定・否定応答表現

肯定		否定	
シンハラ語	日本語	シンハラ語	日本語
ov	はい ええ	nae :	いいえ
		bae:	いいえ
		epaa	いや

上記の表 16 を見ると分るように、シンハラ語の「ov」に相当する日本語の表現は「はい」と「ええ」である。シンハラ語の否定応答表現の「nae : / bae:」に相当する日本語の否定応答表現は「いいえ」で、「epaa」に相当する日本語の否定応答表現は「いや」であることが確認できた。

本章と第3章では、小説による両言語の肯定および否定応答表現の用例を分析、考察した。次章では、日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答表現の使い方を取り上げ、比較・分析を行う。



## 第5章 日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答表現の対照

### 5.1 研究背景と目的

疑問文に対する応答の仕方は、他人との円滑なコミュニケーションを行う上で重要な要素である。本章では、日本語とシンハラ語の「肯定疑問文」と「否定疑問文」に対する応答表現の使い方を取り上げ、それらの類似点と相違点を探っていく。

日本語の肯定疑問文に対する答えの「はい」「いいえ」がシンハラ語の「ov」「nae:/neh e」に対応しているが、否定疑問文に対する日本語の「はい」「いいえ」はシンハラ語の「ov」「nae:/nehe」に対応していない。そのため、筆者自身も日本語学習の初期には「否定疑問文」に答える際の「はい」と「いいえ」の使い方が困難であった。

そこで、本章では日本語母語話者とシンハラ語母語話者を対象としたアンケート調査によって両言語の「肯定疑問文」と「否定疑問文」に対する応答表現の仕方の比較分析を行い、それらの類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。

### 5.2 先行研究

#### 5.2.1 日本語の疑問文に対する先行研究

日本語の疑問文に対する研究のうち多くは否定疑問文に対する英語との比較研究である。疑問文に対する応答表現の研究として久野（1973）、クラーク（1989）、佐々木（1990）などが挙げられる。

久野（1973）は、否定疑問文に対する答えとして用いられる「ハイ」と「イイエ」の使用について次の通り述べている。例えば、

(1)A: 昨日、学校ニ行キマセンデシタカ。

B: ハイ、行キマセンデシタ。 “No, I didn’t.”

イイエ、行キマシタ。 “Yes, I did.”

(2)A: 昨日、学校ニ行ッタンジャアリマセンカ。

B: ハイ、行キマシタ。 “Yes, I did.”

イイエ、行キマセンデシタ。 “No, I didn’t.”

以上の例文について久野は次のように説明している。

(1A) も (2A) も共に否定疑問文であるが、(1B) では、「ハイ」「イイエ」が「No」「Yes」

に対応しているのに反して、(2B) では「ハイ」「イエ」が「Yes」「No」に対応している。重要なのは、質問が構文法上否定形になっているか否かではなくて、質問者が肯定形の答えを予測しているか否かである。(1A) は、中立的な無色で、質問者は、被質問者が前日学校に行ったか行かなかったか、について全く五分五分の予期しかしていない。このような場合には、日本語の「ハイ」は英語のnoに、「イエ」はyesに対応していると述べている。また、(2A)は、構文法上は否定疑問文であるが、意味上は否定疑問文ではない。このような場合には、被質問者、「貴方の予想は正しい」「貴方の予想は正しくない」の意味で「ハイ」「イエ」を使うのであると述べている。

久野(1973)は、「思う」の否定形で終わる疑問文は、肯定の答えを予期した質問で、「ネ」で終わる否定疑問文は、否定の答えを予想した質問であると述べている。例えば、

3. A: コレ、面白イト思イマセンカ。

B: ウン。(面白いと思います)

イヤ。(面白いと思いません)

4. A: 勉強シテ来マセンデシタネ。

B: ハイ。(して来ませんでした)

イエ。(して来ましたよ)

久野は、(4B)の「ハイ」は、「あなたの予想(否定の答え)のとおりです」、「イエ」は「あなたの予想は間違いです」の意味であると指摘している。

上村(1987)は、肯定疑問文でも否定疑問文でもともに日本語より英語のほうが、yes/noをはっきりさせる傾向があり、英語では「直接的反応」の傾向が見られ、日本語では「直接的反応」と「間接的反応」との間に差が見られないと述べている。

クラーク(1989)は、「否定疑問文(negative questions)は話者の否定的態度を表します。否定疑問文に答える際のyesとnoの使い方に注意してください。同じ質問に答えるにしても、日本語の用法と逆になることがあります。日本語の「はい」「いいえ」は、答える人の気分しだいで使われるので、英語のyes, noほど使い方が明確ではありません(PP54-55)。」

佐々木(1990)は、「英語をはじめとする外国語との接触がきっかけになって日本語の否定疑問文に対する応答文の特徴に気付くことができた。それは事実であるが、これがきっかけになり、国語学の立場からこの問題、および、否定疑問文そのものについてさかんに考察するようになった(P95)。」と述べている。佐々木(1990)でも指摘されているように

外国語との比較対照によって文法上の特徴が明らかになることである。

### 5.2.2 シンハラ語の疑問文に対する先行研究

シンハラ語の疑問文に対する応答表現に焦点を当てた研究は非常に少ない。疑問文に対する研究としてKarunatillake (1990)、Dissanayake (1992)などが挙げられる。

Karunatillake (1990)は、否定疑問に対する答えは、文末は肯定であっても否定であってもシンハラ語では、「nae:/nehe」の否定応答表現で始まると述べている。例えば、

5. A: Aren' t there coconuts in that shop?

ee kade pol nedda? (ඒ කඩේ පොල් තැද්ද?)

あの店にはココナッツはありませんか/ないですか?

B肯定: Yes (lit.No), there are coconuts in that shop.

nae:, ee kade pol tiyanawa: (නැ, ඒ කඩේ පොල් තියෙනවා)

いいえ、あの店にはココナッツがあります。

B否定: No, there aren' t coconuts in that shop.

nae:, ee kade pol nae: (නැ, ඒ කඩේ පොල් නැ)

いいえ、あの店にはココナッツがありません。

Dissanayake (1992)は、肯定応答表現の「ov」は、英語の「Yes」の意味で、否定応答表現の「nae:/nehe」の反意語であると述べている。「肯定疑問文」に対する応答の仕方は次の通り示している。例えば、

6. A: oya: ingirisi dannavaada? (Do you know English?)

英語はできますか?

B: 肯定: ov, man ingirisi dannavaa (yes, I know English) (ov+肯定)

はい、英語はできます。

否定: nae:, man ingirisi danne nae: (No, I don' t know English) (nae:+否定)

いいえ、英語はできません。

以上の先行研究を踏まえ、日本語とシンハラ語の肯定および否定疑問文に対する応答表現を分析、考察していく。

### 5.3 調査概要

日本語母語話者10名と日本語能力試験N4レベルのシンハラ語母語話者の日本語学習者10名を対象とした同一内容の日本語とシンハラ語のアンケート調査によって、データの収集を行った。スリランカ人日本語学習者には、日本語とシンハラ語の二つのアンケートを記入してもらった。

アンケートの日本語の質問は次の通りである。

以下の文の答えとして最も適当なものを1～4の中から選び、○をつけてください。

### 1. 「肯定疑問文」

①昨日、学校に行きましたか。

(A) 行った場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

(B) 行かなかった場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

### 2. 「否定疑問文」

②昨日、学校に行きませんでしたか。

(A) 行った場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

(B) 行かなかった場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

アンケートの「1. 肯定疑問文」と「2. 否定疑問文」の調査結果は次ように集計した。

1. はい、行きました。(はい+肯定) (以下Y+P)
  2. はい、行きませんでした。(はい+否定) (以下Y+N)
  3. いいえ、行きました。(いいえ+肯定) (以下N+P)
  4. いいえ、行きませんでした。(いいえ+否定) (以下N+N)
- (Y=Yes、N=No、P=Positive、N=Negative)

## 5.4 結果と考察

### 5.4.1 「肯定疑問文」の場合

以下の図2は、「肯定疑問文」に対する日本語母語話者とシンハラ語母語話者のアンケートの結果を示したものである。

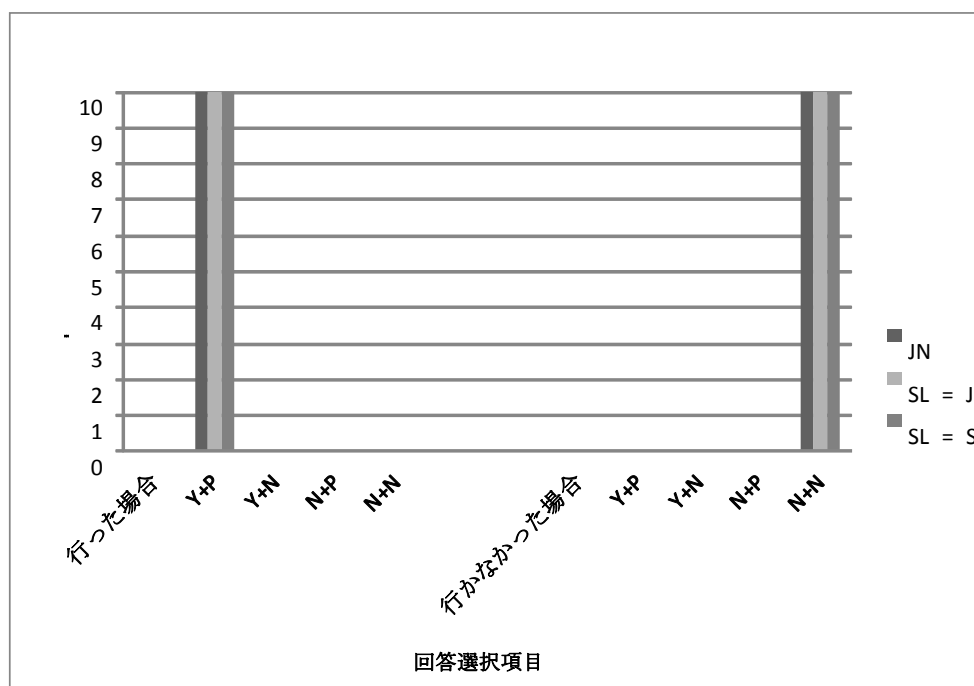


図2：肯定疑問文に対する応答

図2：JN = 日本語母語話者の回答

SL=J シンハラ語母語話者日本語学習者の日本語の肯定疑問文に対する回答

SL=S シンハラ語母語話者日本語学習者のシンハラ語の肯定疑問文に対する回答

図2を見ると分かるように、「1. 肯定疑問文」に対する応答表現では、日本語母語話者とシンハラ語を母語とする日本語学習者の日本語とシンハラ語の回答は同一である。日本語

の肯定疑問文の「A行った場合」は、日本人と学習者の10名とも（はい+肯定/Y+P）を選択している。「B行かなかった場合」は、日本人と学習者の10名とも（いいえ+否定/N+N）を選択している。シンハラ語の肯定疑問文の「A行った場合」は、学習者の10名とも（はい+肯定/Y+P）を選択し、「B行かなかった場合」は学習者の10名とも（いいえ+否定/N+N）を選択している。

日本語とシンハラ語では「昨日、学校に行きましたか。」という肯定疑問文に対して「A行った場合」は「はい、行きました（はい+肯定）」で、「B行かなかった場合」は「いいえ、行きませんでした（いいえ+否定）」となっており、日本とシンハラ語の使い方には差が見られない。そのため、日本語母語話者と学習者の答えも一致していると言える。次は、否定疑問文に対する日本語母語話者と学習者の回答について見ていく。

#### 5.4.2 「否定疑問文」の場合

以下の図3は、「否定疑問文」に対する日本語母語話者とシンハラ語母語話者のアンケートの結果を示したものである。

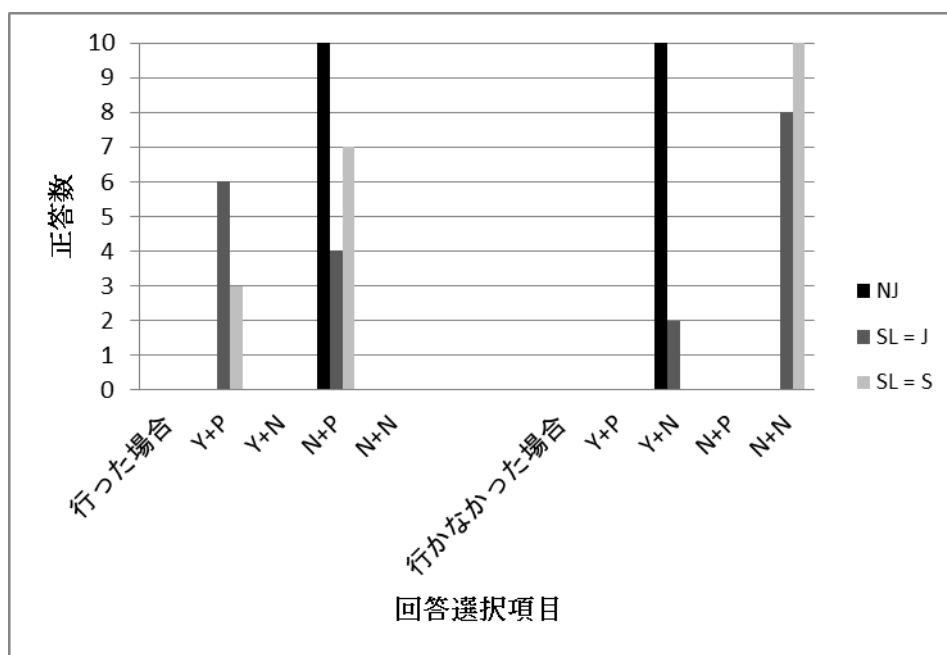


図3：否定疑問文に対する応答

図3：JN = 日本語母語話者の回答

SL=J シンハラ語母語話者日本語学習者の日本語の否定疑問文に対する回答

SL=S シンハラ語母語話者日本語学習者のシンハラ語の否定疑問文に対する回答

図3を見れば分かるように、「2否定疑問文」に対する応答表現では、「A行った場合」は日本語話者では、10名とも「いいえ+肯定 (N+P)」を選択し、「B行かなかった場合」は、10名とも「はい+否定 (Y+N)」を選択している。日本語の否定疑問文の「A行った場合」は、シンハラ語母語話者の学習者の10名のうち6名は(はい+肯定/Y+P)を選択している。残りの4名は「いいえ+肯定 (N+P)」を選択している。日本語の否定疑問文の「B行かなかった場合」は、学習者の10名のうち8名は(いいえ+否定/N+N)を選択し、2名は「はい+否定 (Y+N)」を選択している。

シンハラ語の否定疑問文の「A行った場合」は、学習者の7名は(いいえ+否定/N+N)を選択し、3名は(はい+肯定/Y+P)を選択している。スリランカの第二言語として使われている英語の影響を受けて10名のうち3名は(はい+肯定/Y+P)を選択したと思われる。シンハラ語の否定疑問文の「行かなかった場合」は学習者の10名とも(いいえ+否定/N+N)を選択している。

日本語では、「昨日、学校に行きませんでしたか」という否定疑問文に対して「A行った場合」は「いいえ、行きました (いいえ+肯定)」で、「B行かなかった場合」は「はい、行きませんでした (はい+否定)」である。シンハラ語では、「行った場合」は日本語と同様に「いいえ、行きました (いいえ+肯定)」で、「行かなかった場合」は英語と同様に「いいえ、行きませんでした (いいえ+否定)」である。

「2. 否定疑問文」の場合日本語では、相手が否定の答えを期待しているか肯定の答えを期待しているかによって答えている。シンハラ語では、文頭の「はい/いいえ」の応答表現よりも、文末の「行ったか行かなかったか」という事実重点をおいて答えている。

シンハラ語話者の日本語学習の否定疑問に対する回答を見ると、シンハラ語では、「A行った場合」日本語と同様に「いいえ、行きました (いいえ+肯定)」であるのに、多くの学習者は「はい、行きました (はい+肯定)」を選択している。シンハラ語では、疑問文は肯定であっても否定であっても「はい」や「いいえ」を使わないで、文末の事実重点をおいて答えるのが一般的である。それで、学習者も「A行った場合」は文末の肯定に注目して肯定疑問文の回答と同様の(はい+肯定)を選択したと考えられる。日本語の否定疑問文の「B行かなかった場合」も文末に注目していることと母語のシンハラ語と第二言語の英語は「いいえ、行きませんでした (いいえ+否定)」であるため、学習者の10名のうち8名が(いいえ+否定/N+N)を選択したと思われる。

## 5.5 本章のまとめ

本章では、日本語母語話者とシンハラ語母語話者の日本語学習を対象としたアンケート

の結果分析によって、日本語とシンハラ語の疑問文に答える際の特徴が分かった。日本語とシンハラ語の「肯定疑問文」に対する答え方は同一であるのに対し、「否定疑問文」に対する答え方が異なる。そのため、シンハラ語を母語とする日本語学習者にとっては母語の影響で否定疑問文に対する答え方の誤用が起こる可能性があると考えられる。誤用が起こる場合を知っておくことで、指導者に指導を行う際にそれらの練習に重点を置き、様々な指導法を利用し、より効率的に習得させることができると思われる。

本章では、アンケート調査を通して、日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の類似点、相違点について考察した。今後応答表現の用法の枠を広め、さらに両言語の応答表現について見ていく。



## 第6章 日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の対照

### 6.1 はじめに

「はい」「ええ」「いえ」「いや」などの応答表現は、コミュニケーションにおいて極めて使用頻度の高いものであり、それらの適切な使い分けの重要度も増やしてくる。北川(1977)は、「はい」と「ええ」の意味合いの違いなどは、formal と informal の区別を別にしては、あまり問題にされないのが現状であろう。だから英語を母国語とする学生の多くが「はい」も「ええ」も 'yes' に当たっており、ただ「はい」は丁寧でかしこまっけていて「ええ」はもっとくだけているのだ、いうふうに理解することになっても当然であろう。また実際そのような理解のしかたで用が足りる事が少なくないのだけれども、色々な場合に当たってみると、やはりそれでは変な日本語になってしまうことが一再ならずある。ここでの問題は決して日本語と英語の問題に限ったことではない。日本語教師としての本質的な関心の一つは自分の学生の母国語が何であれいかにして日本語に関する正確な知識を得させるかということであろう(65)と述べている。北川が指摘されているように、「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」などの応答表現との対照研究の必要性があるのに、従来の研究では対照言語学的な観点からはほとんど研究はされてこなかった。そこで、本章では膠着語である日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当する屈折語であるシンハラ語<sup>10</sup>の肯定応答表現の「ඔව් (ov)」「හා (haa)」「හරි (hari)」、否定応答表現の「ඹිඹි (nae:/nehe)」「බෑ (bae:/behe)」「එපා (epaa)」の使い分けについて考察する。そして、それらの類似点、相違点を明らかにした上で、日本語の応答表現の特徴について検討することを本章の目的とする。

---

<sup>10</sup> シンハラ語 ([siŋhələ]) とは、スリランカの一つの公用語で、シンハラ人が話している言葉である。スリランカの2000万の人口のうち、少なくとも74%が母国語としてシンハラ語が話されている。シンハラ語は、インドヨーロッパ語族インド・イラン語派インドアーリア諸語に属す。基本語順はSOV型であり、開音節が多いなど、言語体系が日本語に類似しているとされる。最寄りのシンハラ語の相対的な言語はモルディブ語(Maldives)、ディベヒ語(Dhivehi)である。シンハラ語の表記にはブラーフミー文字から派生したシンハラ文字を使用する。

## 6.2 先行研究

### 6.2.1 日本語の肯定・否定応答の先行研究

本節では、先行研究として、日本語の肯定・否定応答表現およびシンハラ語の肯定・否定応答表現の研究をまとめる。なお、日本語の肯定・否定応答表現の先行研究においては第2章で詳述したため本節では、以下の表17のようにまとめた。

表 17 肯定・否定応答表現に関する先行研究

北川 1977	「はい」は、相手の言ったことがこちらにはっきり届いたということを敬意をもって表示で、「ええ」は相手の言ったことに対して、自分もそのように思うという自分の気持ちを表出
日向 1979	「はい」を「認知応答」、「ええ」を「同意応答」と名づけ分析
奥津 1988	自然会話に基づき、肯定・否定応答詞の出現総数及び比率を報告し、「はい系」の使用が多く、「いいえ系」の使用が非常に少ないと指摘している
McGloin 1997	「はい」の機能「making the next move in an interaction」、「ええ」の機能「participant alignment」
青柳 2001	「はい」「ええ」の意味・機能を音声、イントネーションの観点から考察し、両語の持つ意味は「承認」と述べている
中島 2001	自然談話データに基づき「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」を「はい系」と「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」を「いいえ系」とまとめて、「はい系」の使用が多く、「いいえ系」の使用が非常に少ない
富樫 2002	「はい」の機能は、提示された情報に対し、それに連関した半活性情報が多数呼び出されたことを示し、「うん」は、提示された情報に対し、それに連関した半活性情報が少数しか呼び出されなかったことを示す
二宮・金 山 2012	「ええ」は明らかに「はい」とは異なる意味・機能を有しており、発話者の感情・意見・主張を含む表現
森山 1989	反対表明類：「いえ」「いいや」「いやいや」「違う」、不同意類：「いやだ」「ことわる」「(だめだ)」、不可能類：「できない」「(だめだ)」
田窪 1997	「いいえ」「いえ」「いいや」の否定応答表現形式を感動詞・応答詞の機能的な分析の中で取り上げ、分類している
土屋 2000	「いいえ」「いえ」「いや」を「いいえ系感動詞」とまとめて分類
富樫 2006	聞き手に対しては「いえ」が「より丁寧」で、「いや」が「非丁寧」

上記の日本語の肯定・否定応答表現の先行研究以外に日本語とシンハラ語の応答表現について研究したウィラシンハ（2012、2015）がある。ウィラシンハ（2012）は、日本語母語話者とシンハラ語母語話者を対象にアンケート調査により、「ほめられた場合」と「頼まれた場合」の日本語とシンハラ語の応答表現の使用について比較分析をしている。ウィラシンハ（2015）は、日本語の「はい」に相当するシンハラ語の「ov/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであると報告している。以下では、シンハラ語の応答表現に関する先行研究について見ていく。

### 6.2.3 シンハラ語の肯定応答の先行研究

シンハラ語の肯定応答表現に重点を当てた研究が非常に少ない。肯定応答表現に関する研究として Fair Banks, Gair, De Silva (1968b)、野口（1986）、Dissanayake（1992）、Amarasekara, Gunasena（2004）などが挙げられる。

Fair Banks, Gair, De Silva (1968b) は、肯定応答表現として「ov」「haa」「hari」などがあると述べ、「haa」「hari」は、「命令」又は「承諾」に対する肯定応答表現として一般的には使用されると指摘されている。「命令」「承諾」以外の発話に対する肯定応答表現として「ov」が使われると述べている。例えば、

例 i) A : bandaa, meheta enna (バンダーさん、来てください)

B : haa, mahatthaya: (はい、先生)

例 ii) A : bandaa kolaba yanavaa da? (バンダーさん、コロンボへ行きますか)

B : ov, mahatthaya: (yanavaa) (はい、先生 (行きます))

野口（1986）は、シンハラ語「ov」は、呼び掛け、質問に答えて肯定・同意の返事と指摘されている。

Dissanayake（1992）は、肯定応答表現の「ov」は、英語の「yes」の意味で、否定応答表現の「nae:/nehe」の反意語であると述べている。例えば、

例 iii) A : oya: ingirisi dannavaada? (英語分かりますか。)

B : ov, dannavaa (はい、分かります) (ov+肯定)

nae:, dannae (いいえ、分かりません) (nae:+否定)

Amarasekara, Gunasena (2004) は、シンハラ語の肯定応答表現に用いる形式について表 18 の通り示している。

表 18：シンハラ語の肯定応答表現（表 12 再掲）

肯定応答表現	使用場面
ov	何らかの情報を肯定する時の応答
haa	命令・依頼に対する応答
hari	命令・依頼に対する応答
ehemai/ehei	「畏まりました」に近い(身分の低い者から目上の者に対して敬意を表すために用いられる応答。多くの場合、僧侶に使用する。現在も使われている)
yeheki	現在はほとんど使われていない、古いシンハラ語の応答表現

#### 6.2.4 シンハラ語の否定応答の先行研究

シンハラ語の肯定応答表現と同様に否定応答表現にも焦点を当てた研究が非常に少ない。否定応答表現に関する研究として野口 (1986)、Dissanayake (1992) などが挙げられる。

Dissanayake (1992) は、否定応答表現に用いる形式について、表 19 の通り示している。

表 19 シンハラ語の否定応答表現（表 13 再掲）

否定応答表現	日英訳・意味 <sup>11</sup>
nae:/nehe	いいえ/no
neme:	ない/not
bae:/bahe	できない/can' t
epaa	いや/ no

Dissanayake は、「nae:/nehe」は、肯定応答表現の「ov」の反意語で、「nae:」「bae:」は口語に使用され、「nehe」「behe」は文章語に使用されると述べている。

野口 (1986) は、シンハラ語の否定を表す表現を以下の表 20 のように挙げている。

<sup>11</sup> 日英訳・意味は筆者より

表 20：シンハラ語の否定を表す表現（表 14 再掲）

肯定・否定表現	日本語訳
nehe/nae:	(動詞の打消し) ない、いいえ、 (驚きを表して) まさか、そんな
kawadawath nehe	決して...ない
beri...	できない...
bae:/behe	だめ、いや
epaa	(禁止)してはいけない、(拒絶) もう結構

以上のようにシンハラ語の肯定・否定応答表現に焦点を当てた研究がなされてきたが、研究者によって肯定・否定応答表現に含む表現が異なる一方実際にそれらがどのように使われているかに関する研究はまだ少ない。本研究では、シンハラ語で一般的使われている表現のみを対象とする。具体的には、富樫(2006)に従い日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当するシンハラ語の肯定応答表現の「ov」「haa」「hari」、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当するシンハラ語の否定応答表現の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」の使い分けについて考察し、それらの共通点、相違点を明らかにする。

### 6.3 調査概要

#### 6.3.1 調査項目

本章では、日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の使用又は用法に着目し調査を行う。北川(1977)、日向(1979)、富樫(2002)、二宮・金山(2006)などの先行研究で指摘された応答表現の用法と言語学的調査の際浮かび上がった用法を加え、応答表現の用法を17項目に分類し、調査項目とする。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」である。この17用法項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、シンハラ語独特の用法に関しては対象外とした。また、「点呼」「電話応答」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられないが、シンハラ語では項目ごとに使う表現が異なり、表現別の使用を詳しく示すため、別々の項目として扱った。

### 6.3.2 調査方法

「真偽」「確認応答」などの17項目のそれぞれの項目において、日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ用例を作成した。その際、日本語母語話者5名に協力してもらい例文作成に臨んだ。

そして、17用法項目において、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」と否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」、シンハラ語の肯定応答表現の「ov」「haa」「hari」と否定応答表現の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」の使用可否判定については、日本語母語話者15名(20代～30代)とシンハラ語母語話者15名(8名はJFL日本語学習者、7名は在日シンハラ語母語話者、20代～30代)に協力してもらい、2014年8月から10月にかけて調査を行った。一名ずつ別々で、時間制限なく17項目の例文において応答表現可否判定について調査を行った。在日シンハラ語母語話者には同一内容のシンハラ語訳を使った。

### 6.4 調査の目的

以下の2点を明らかにすることを調査の目的とする。

- a. 日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現は17の用法項目のうち、どれがどのように使用されているか。
- b. 日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現では、どのような使用特徴があるのか。また、その特徴によって、日本語の応答表現の特筆すべき点がみられるか。

### 6.5 結果の分析および考察

先述したように日本語の応答表現は17用法項目に分類できたが、シンハラ語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当するシンハラ語の応答表現がある場合」と「日本語に相当するシンハラ語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。以下では、これについて次の三つに分け、それぞれ分析、考察を行う。

1. 日本語・シンハラ語のいずれかに応答表現が二つ以上ある場合(6.5.1で取り上げる)
2. 日本語・シンハラ語のいずれにも応答表現が一つしかない場合(6.5.2)
3. 日本語では応答表現が使われるが、シンハラ語では使わない場合(6.5.3)

また、考察と関連する用例は以下のように示す。

(用例提示の仕方)

A：日本語による質問または会話例

B：発話 A に対する応答表現の使用形式（日本語）

発話 A に対する応答表現の使用形式（シンハラ語）

シンハラ語応答表現のローマ字表記

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

### 6.5.1 日本語・シンハラ語のいずれかに応答表現が二つ以上ある場合

本節では、日本語とシンハラ語のいずれかに応答表現が二つ以上使われる用法項目について分析、考察する。「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「命令応答」「了解」という七つの項目においては、日本語とシンハラ語のいずれかが応答表現が多く使われる傾向が見られた。以下の表 21 は、日本語・シンハラ語のいずれかに応答表現が二つ以上ある場合を具体的に示したものである。

表21 日本語とシンハラ語の応答表現形式が二つ以上ある場合

用法	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	うん	nae/nehe	bae/behe	epaa
①真偽	○	○	○	○	×	×	○	△	△	○	○	×	×
②確認応答	○	○	○	○	×	×	○	△	△	○	○	×	×
③許可	○	△	○	×	○	○	×	×	△	×	×	×	△
④承諾	○	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×	○	×
⑤共感	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑥命令応答	○	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×
⑦了解	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×

(○＝ 使える △＝応答表現のみで不自然、後文が必要 ×＝使えない)

上記の表 21 の用法項目を中心に以下では、日本語とシンハラ語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

## ①「真偽」

「真偽」とは物事が真か偽か尋ねるための真偽疑問文に対する応答表現の使用ができるかどうかのことで、以下の用例(1)を分析、考察する。

(1)A：あなたは学生ですか。

B：はい/ええ/うん // いいえ/△いえ/△いや/ううん

əb // ʔ/ʔʔʔ

ov // nae:/nehe

Kuroda (1965 : 88) やPope (1972 : 52) は、yes - no questionに対する答えの可能性というものはもともと二つしかなく、質疑者はその二つの可能性の中の一つをとりあげてこれはどうかと訪ねていると述べている。

KurodaやPopeの説明によると「学生ですか、学生ではありませんか」という二つの可能性について尋ねている「真偽」に関しては、「はい」「ええ」「うん」のいずれも肯定応答として解釈され、相手・場面等により使い分けられることが調査結果から確認できた。日本語では肯定応答表現のいずれも使われるが、シンハラ語では肯定応答表現の「ov」しか使われないという結果が得られた。

否定応答表現としては、「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。シンハラ語では、否定応答表現の「nae:/nehe」のみが使われ、「nae:/nehe, shishshayek neme (いいえ、学生ではありません)」のように伝えるとより丁寧になるという結果が得られた。次は、「確認応答」での両言語の使用有無について見てみたい。

## ②「確認応答」

ここでは、「確認応答」の以下の用例(2)を分析、考察する。

(2)A：今日はフランス料理ですね。

B：はい/ええ/うん // いいえ/△いえ/△いや/ううん

əb // ʔ/ʔʔʔ

ov // nae:/nehe

日向(1980)は、「ね」を伴う上記のような用例では、AB共に同じ情報を共有していることが前提となり、「ええ」が現れやすいと指摘している。二宮・金山(2006)は、このよう



な場面で「はい」で応答した場合には、相手の発話を敬意を持って受けとめたというサインになり、応答者自身の意見は何も表明されず、情報を共有しているという関係は成立しにくいという指摘がなされている (58)。

本調査では、「今日はフランス料理かどうか」を確認している発話に対して、肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが確認できた。「今日はフランス料理ではない」という意味を示す否定応答表現として「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「いえ」と「いや」を使う場合確認された情報を間違っているということだけではなく、「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が次ぐとより自然という結果が得られた。上記のような「確認応答」では、目上に対して「ええ」が使われても失礼な印象を与えなく、「はい」よりも「ええ」が使われやすいという日向 (1980) と一致した結果が導きだせた。

日本語では肯定・否定表現形式のいずれも使われるが、シンハラ語では、「真偽」と同様に肯定応答としては「ov」、否定応答表現として「nae:/nehe」しか使われないという限られた様子を示した。

### ③「許可」

「許可」に関しては、以下の用例(3)を考察する。

(3)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B: はい/△ええ/うん // △いや

hai/hari // △epaa

haa/hari // △epaa

その結果、「許可」では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続くとより自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。シンハラ語では、肯定応答表現として「haa/hari」が使われるが、「hari」は相手との関係が親しい時に多く使われることが分かった。

否定応答表現としては、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使えないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。シンハラ語では、日本語と同様に「epaa」は「epaa, den yanna epaa passe yanna (いや、今ではなくて後にしてください)」のように「epaa」と一緒に許可を与えない表現が続くことが確認できた。

#### ④「承諾」

「承諾」に対する両言語の使い分けの用例として以下用例(4)を考察する。

(4)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/△ええ/△うん //△いや

ha/hari // ae/ae

haa/hari //bae:/behe

「承諾」に関しては肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。シンハラ語では、「許可」と同様に「haa/hari」が使われることが分かった。

否定応答表現として「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のように後文が続く。なお、通常「いいえ、いえ、いや、ううん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。シンハラ語では、否定応答表現として「bae:/behe」が使われるが、親しくない人や目上の人に対しては、「sorry」などの謝り言葉と一緒に間接的な断り表現が使われるのが一般的であることが分かった。

#### ⑤「共感」

「共感」において、両言語の使い分けを以下の用例(5)を分析、考察する。

(5)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

△ae

△ov

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ否定応答表現で応答することができないという結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。

「共感」に関しては、シンハラ語では日本語ほぼ似ている使われ方が見られた。シンハラ語でも肯定応答表現しか用いられておらず、表現としては「ov」しか使われないことが確認できた。「共感」に関しては、「ov」は「ov, neda (はい、そうですね)」のように後文

が続き「はい」と同様の使い方を示した。

#### ⑥「命令応答」

「命令応答」については、以下の用例(6)を分析、考察した。

(6)A: ちゃんと宿題やりなさい。

B: はい/うん

ḥaa /hari / /bae:/behe

haa/hari / /bae:/behe

日向(1980)は、絶対的に命令する発話の応答には「ええ」は表れにくいと指摘している。二宮・金山(2005)は例えば「A:もっとしっかり勉強しなさい」という用例を挙げて、「ええ」で応答すると「もっと勉強しなさい」という情報がB(聞き手)にとって既知の情報となり、不適切であるだけでなく、場合によっては不遜な印象を与えると指摘している。

本調査によると、「命令応答」に関しては肯定応答の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出せた。なお、「はい」は上下関係、親疎関係に問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。従来の研究で指摘されている通り、今回の調査結果からも「命令応答」では、「ええ」は使われないことが分かった。それは、北川(1977)の「ええ」の意味分析からみると、「ええ」を使うと自分に向けられた命令に対して「自分もそう思う」という意味になり不自然と言える。

シンハラ語では、「命令応答」の肯定応答表現として「haa」「hari」が使われるが、「hari」は相手との関係が親しい時に多く使われることが分かった。また、相手との関係が親しい時は命令に対しての自分の嫌な気持ちを表すために「hari hari」のように二回続けて使われることが確認できた。シンハラ語では否定応答表現として「bae:/behe」のみの応答か「behe, mata behe(いいえ、できません)」のように「bae:/behe」の後に「できないということを強調して」使われることが分かった。なお、「bae:/bahe」は教師、社長のような相当目上に対しては使われないことが確認できた。

#### ⑦「了解」

「了解」については、日本語とシンハラ語の応答表現の使い分けを以下の用例(7)を分析、考察してみる。

(7)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変えられます。

B: はい/うん

ஃஃ

hari

二宮・金山 (2006) は、上記のような A が B に対して使い方を説明する内容で、A から B に一方的に情報が伝達するという状況で、A・B 間の情報の共有の度合いが低いため、「はい」が適切だと述べている。そして、「ええ」を使うと B は既に A の提示した情報を知っているということになるため「ええ」が使えないと指摘されている。

本調査によると、ここでは目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。「了解」に関してはシンハラ語では、肯定応答表現の「hari」か、応答表現を使わず「aa (ああ)」という感動詞が使われることが分かった。

本節では、日本語とシンハラ語の応答表現形式が二つ以上ある「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「了解」と「命令応答」の項目を分析、考察した。その結果、「了解」では「はい/うん」に相当するシンハラ語の形式は「hari」、「命令応答」では、「はい/うん」に相当する形式は「haa/hari」、日本語の「いや」に相当するシンハラ語の形式は「epaa」と「bae:/bahe」という結果が得られた。

### 6.5.2 日本語とシンハラ語のいずれにも応答表現が一つしかない場合

本節では、日本語においてもシンハラ語においても応答表現形式の使用が一つしかなかった「打ち切り」「患者応答」「応答の応答」という三つの項目について分析、考察する。以下の表 22 は、日本語・シンハラ語のいずれにも応答表現が一つだけある場合を具体的に示したものである。

表22 日本語とシンハラ語のいずれにも表現形式が一つだけの場合

	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
用法	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	うん	nae/nehe	bae/behe	epaa
⑧打ち切り	△*	×	×	×	×	△*	×	×	×	×	×	×	×
⑨患者応答	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑩応答の応答	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×

(○= 使える △\*=二回使う、例えば「はいはい」 、後文が必要 ×=使えない)

以下では、この表 22 の用法項目を中心に、日本語・シンハラ語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

#### ⑧「打ち切り」

「打ち切り」に関しては両言語の使用について以下の用例(8)を分析、考察した。

(8)A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: △\*はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)

△\*ဟိ ʔ ʔ

△\* hari hari

富樫(2002)は、例えば、「僕がここまで成功したのはですね、実力と運が両方あったから…」という自慢話に対しては「はいはい、その話はもう聞き飽きましたよ」のように「はいはい」だけが現れ「うんうん」は非常に不自然と述べている。

本調査では「打ち切り」に関しては、親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認でき、富樫とおおむね一致する結果となった。シンハラ語においても日本語と似た傾向が見られた。親しい相手に対しては、シンハラ語では「hari」を「hari hari」のように二回続けて使われるか、「hari hari, oka api ahala tiyanawa (はい、それはもう聞き飽きたよ)」という聞き手の「もう聞きたくない」という表現と一緒に使われることが分かった。

「打ち切り」の答えとして使われる日本語「はい」とシンハラ語の「hari」は、先行発話に対する答えであっても既に意識している情報又は何度も聞いている情報に対して「これ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表し、話し手には「その話をいい加減してほしい」ということを表明している。

#### ⑨「患者応答」

「患者応答」とは例えば、病院の受付で名前を呼ばれる場合で、以下の用例(9)のような場合である。

(9)A: 田中さん

B: はい。

㊦

ov

ここでは日本語は「はい」、シンハラ語は「ov」しか使われないという結果が得られた。日本語では例えば、教室で出席を取る「点呼」の応答としても「はい」、「患者応答」の応答としても「はい」であるが、シンハラ語は「点呼」では肯定・否定応答表現が使われな  
いが、「患者応答」で名前を呼ばれた時に対しては「ov」が使われるということは興味深い。

「点呼」で名前を呼ばれるというのは、「いるかいなか、又は出席か欠席かの確認」に注目しているため、シンハラ語でいる場合は、「innawa: (います)」と返答する。なお、病院で名前を呼ばれるというのは「いるかいなかの確認」ではなくて「順番を待っていることに対して次はあなたです」などのことを表明しているため、「ov」が使われる。従って、日本語は「呼びかけている」という行動に注目して答えているのに対して、シンハラ語は行動ではなくて、「その行為は何を意味しているか又は何を表しているか」ということに注目して答えているといえる。

#### ⑩ 「応答の応答」

「応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するものである。「応答の応答」については、以下の用例(10)を分析、考察した。

(10)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい。

B: ㊦ (haa)

A: ㊦ (hari)

その結果、日本語では「はい」のみが使われるという結果が導き出された。シンハラ語では、「次のページに進んでもいいですか」に対して、「haa」「hari」のいずれも使われるが、「haa」と答えた時だけは、返答に対して更に「hari」と応答することができるということが確認できた。「hari」と答えた時は、質問の返答に対して新たに  
応答しないで、次に続くということが分かった。

日本語は「はい・はい」という同様な表現が使われているのに対し、シンハラ語は「haa・hari」という違う形式が用いられ、「応答の応答」に関しては日本語とは異なった傾向が見られた。

本節では、日本語とシンハラ語のいずれにも応答表現が一つしかない「打ち切り」「患

者応答」と「応答の応答」の項目を分析、考察した。その結果、「打ち切り」では日本語の「はい」に相当するシンハラ語は「hari」、「患者応答」では「はい」に相当する表現は「ov」、「応答の応答」では「はい」に相当する表現は「hari」という結果が得られた。

### 6.5.3 日本語では応答表現が使われるが、シンハラ語では使わない場合

本節では、日本語の応答表現形式に相当するものがシンハラ語にはなかった「あいづち」「独話あいづち」「謙遜」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」の七つの項目について分析、考察する。以下表 23 では、日本語では応答表現が使われるが、シンハラ語では使わない場合を示している。

表23 日本語では使われるが、シンハラ語では使わない場合

用法	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	うん	nae/nehe	bae/behe	epaa
⑪あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑫独話あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑬謙遜	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
⑭情報提示	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑮呼びかけ応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑯点呼	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑰電話応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○＝ 使える △＝応答表現のみで不自然、後文が必要 ×＝使えない)

以下では、上記の表 23 の用法項目を中心に、日英応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

#### ⑪「あいづち」

「あいづち」とは相手の話を聞いていることを示すものである。「あいづち」については、以下用例(11)分析、考察する。

(11)A: 昨日さあ、

B: はい/ええ/うん

A: 学会に行ってきたさあ

日本語では、話し手の話を聞いていることを示す「あいづち」に関しては否定応答表現が現れにくく、「はい/ええ/うん」のいずれも使われるという結果が導き出せた。シンハラ語では、肯定・否定応答表現はいずれも使われなく、「Mmm」などの感動詞が使われるということが分かった。

日本語では、「はい/ええ/うん」は応答表現やあいづちとしても用いられ、ある一つの形式がいくつかの機能を持つのに、シンハラ語の応答表現にはそういう機能がないということが調査結果から明らかになった。

#### ⑫ 「独話あいづち」

「独話あいづち」とは、自分自身の発話に対するあいづちである。「独話あいづち」について以下の用例(12)を分析、考察した。

(12)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

「独話あいづち」では、日本語は先述した「あいづち」と同様に肯定応答表現形式の「はい/ええ/うん」のいずれも使われるが、シンハラ語では、肯定・否定応答表現はいずれも使われなく、「Mmm」などの感動詞が使われるという「あいづち」と同様な結果が得られた。

#### ⑬ 「謙遜」

「謙遜」での日本語とシンハラ語の応答表現の使い分けを以下の用例(13)で分析、考察する。

(13)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

ここでは、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出せた。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使うこともできる。シンハラ語では、肯定・否定応答表現は使われなく、「aa, oka mokadda loku



deyak nema (大したことではない) 」という「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現のみで返答することが確認できた。

#### ⑭ 「情報提示」

「情報提示」に関しては、以下の用例(14)を分析、考察した。日向(1980)は、(14)の「どこ」のような疑問詞を伴う質問文においては、「はい」の代わりに「ええ」で応じるのは一般的ではないと述べている。

(14)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

本調査によるとここでは、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えることができるという結果が得られた。北川(1977)の「ええ」の意味分析から見ると、「ええ」を使うと「自分もそう思う」ということになり不自然である。この場合の「はい」は質問を受け取ったというニュアンスが表しているといえる。

シンハラ語では、上記のような聞き手に情報を求められている場合応答表現を使わず、「ara paette (あそこです)」という情報だけを伝えるという傾向が見られた。

#### ⑮ 「呼びかけ応答」

「呼びかけ応答」について以下、用例(15)を分析、考察する。日向(1980)、二宮・金山(2005)は、前の文が呼びかけ語からのみ成り立つ場合、「はい」しか使えないと述べている。

(15)A : (訪問者) すみません。

B: (事務員) はい

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、「はい」のみが使われることが確認できた。これは日向(1980)、二宮・金山(2005)の研究と一致する結果である。シンハラ語では、肯定・否定応答表現を使わず、「mokadda kerenna one? (どういう用件でしょうか)」などの「なぜ呼ばれたんですか?」という用件について何うということが分かった。

#### ⑯ 「点呼」

「点呼」とは、例えば、教室で出席をとる場合である。「点呼」については、以下用例(16)を分析、考察する。北川(1977)は、教室で出席をとる時、例えば「田丸さん」と呼ばれて「自分もそう思う」と答えるのは不自然であり、「はい」とは言っても「ええ」とは言わ

ない (67) と述べている。

(9)A: 吉田くん。

B: はい

本調査でも肯定応答表現の「はい」しか使われないという北川と全く同じ結果が得られた。シンハラ語では、肯定・否定応答表現を使わず通常、手を上げるか「innawa: (います)」か英語の「present/absent」で返答するということが分かった。

点呼の答えとして日本語の「はい」は、「はい、います/います」の省略であると思われる。シンハラ語の肯定応答表現の「ov」には「はい」のような省略語としても使われる働き（機能）がないため、「出席か欠席」に注目し、「innawa: (います)」と応答すると言える。

#### ⑰ 「電話応答」

「電話応答」における日本語とシンハラ語の使い分けについて以下の用例(17)を分析、考察した。

(17)A: もしもし。

B: はい

ここでは、日本語は「はい」のみ使われることが確認できた。シンハラ語は「電話応答」では、肯定・否定応答表現が使われず、「ayubowan/hello」のみが使われるという結果が得られた。

本節での分析、考察結果により、「あいづち」「独話あいづち」「謙遜」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」と「電話応答」という項目では、日本語に相当するシンハラ語の応答表現がなく、いずれもの項目においても「はい」が使われることから「はい」の独特の使用項目ということが分かった。

### 6.6 本章のまとめ

本章では、日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の用法を 17 項目においてどう使われているかについて考察したことによって、それらの特徴が分かった。17 用法項目において日本語とシンハラ語の応答表現の使用を以下の表 24 でまとめている。

表 24 日本語とシンハラ語の応答表現の使用

用法項目	日本語	シンハラ語
	はい/ええ/うん	ov
①真偽	いいえ/*いえ/*いや/ううん	nae:/nehe
	はい/ええ/うん	ov
②確認応答	いいえ/*いえ/*いや/ううん	nae:/nehe
	はい/*ええ/うん	haa/hari
③許可	*いや	*epaa
	はい/*ええ/*うん	haa/hari
④承諾	*いや	bae:/behe
⑤共感	*はい/*ええ/*うん	*ov
	はい/うん	haa/hari
⑥承諾		bae:/behe
⑦了解	はい/うん	hari
⑧打ち切り	*はい	*hari
⑨患者応答	はい	ov
⑩応答の応答	はい	hari
⑪あいづち	はい/ええ/うん	
⑫独話あいづち	はい/ええ/うん	
⑬謙遜	いいえ/いえ/いや/ううん	
⑭情報提示	はい	
⑮呼びかけ応答	はい	
⑯点呼	はい	
⑰電話応答	はい	

本章で明らかになったことは以下のようにまとめる。

1. 表 20 から分かるように、膠着語である日本語においては 17 項目のうち「真偽」と「確認応答」の場面で使用される応答表現の種類が最も多いのに、屈折語であるシンハラ

語では肯定・否定表現の一つしか使われないことが確認できた。

2. シンハラ語の「haa」「hari」は、「命令」又は「承諾」に対する肯定応答表現として用いられ、「命令」「承諾」以外の発話に対す肯定応答表現として「ov」が使われることが確認できた。また、日本語では「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」などの用法項目では「はい」のみが適切であるということが分かった。そのため、日本語においてもシンハラ語においても「はい/ええ/うん」と「ov/haa/hari」等の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの形式でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが明らかになった。
3. 「真偽」「確認」「あいづち」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話の応答」などの17項目のうち「謙遜」以外の他のいずれの項目においても「はい」が使われることからのシンハラ語の「ov/haa」に比べて、「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが分かった。
4. 「あいづち」「独話あいづち」「謙遜」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」と「電話の応答」という項目においてシンハラ語に相当する応答表現がないため、シンハラ語を母語とする学習者に教える際注意をすべきであると考えられる。
5. 今回の17用法項目の日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の出現数を以下の表25で多い順にまとめた結果、肯定応答表現形式は多い方から「はい」「うん」「ええ」と否定応答表現のうち「いや」の使用が最も多いという中島（2001）の一致する結果となった。

表 25 日本語とシンハラ語応答表現の種類の総数

日本語		シンハラ語	
	数		数
はい	16	hari	6
うん	9	ov	4
ええ	7	haa	3
いや	5	nae : /nehe	2
いえ	3	bae : /behe	2
いいえ	3	epaa	1
ううん	3		

6. 今回の17項目において日本語の肯定応答表現の使用に比べて否定応答表現の使用は非

常に少ないと言える。それは自然会話に基づき日本語の肯定および否定応答詞の出現総数及び比率について分析した奥津（1988）と中島（2001）で指摘された「日本語は日常会話においては、肯定的な応答が多く、否定的な応答は極めて少ない」という結果と一致する。なお、興味深いことに今回シンハラ語との比較分析を行った結果、そのことはシンハラ語にも通じる結果となった。良い人間関係を保つために、できる限り相手の発話に対して肯定的に応答することは日本語においてもシンハラ語においても共通している。

本章では、日本語の応答表現の用法項目を 17 に分類し、同様な場面でのシンハラ語の応答表現と対照分析、考察をした。その結果、日本語の応答表現の特徴をある程度明らかになった。日本語の応答表現の特異性をより明確にするため、本章で得られた結果を基に次章では、日本語と韓国語の応答表現の比較分析を行う。

## 第 7 章 日本語と韓国語の肯定・否定応答表現の対照

### 7.1 はじめに

第6章では、日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の対照分析、考察を行った。本章では、類型論的に日本語とよく似ていると言われる日本語<sup>12</sup>と韓国語<sup>13</sup>の肯定および否定応答表現の用法について考察する。具体的には、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当する韓国語の「네(ne)」「예(ye)」「그래(geu-rae)」「응(eung)」「어(eo)」および否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当する韓国語の「아니(a-ni)」「아니오(a-ni-o)」「으으음(eu-eu-eum)」の使い分けについて比較し、考察することを目的とする。韓国語を選んだ理由は以下の二点を挙げられる。

1. 類型論的に日本語も韓国語も膠着語であり、似ている
2. 韓国は、世界で3番目に日本語学習者が多い国<sup>14</sup>

### 7.2 調査概要

第6章で取り上げた、17の用法項目を基に両言語の応答表現の比較分析を行う。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」である。応答表現の用法においては韓国語独自の用法も考えられるが、この17項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、韓国語独特の用法に関しては対象外とした。また、「電話応答」「点呼」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられない。しかし、韓国語では項目ごとに使う表現が異なるため、別々の項目として扱った。

調査の用例は第6章で取り上げた用例と同じものである。日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい例文作成に臨んだ。応答表現の使

<sup>12</sup>日本語（日本語族）で、アルタイ語族仮説では、日本語、朝鮮語は共にアルタイ語族の一員とする。朝鮮語との関係と同様に、文法構造での高い類似性、音韻面での部分的類似性がある一方で、基礎語彙については同系統とするに足るだけの類似性は見出されていない。(https://ja.wikipedia.org/wiki/日本語より)

<sup>13</sup>韓国語（朝鮮語族）（韓国語は、アルタイ語族に属すであろうという考え方が主流である。ただし、チュルク語群、モンゴル語群、ツングース語群には一定の類似性があるものの、それらが共通の祖語を持つアルタイ語族であるということは今のところ証明されていない。

<sup>14</sup>国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\_2012/2012\_s\_excerpt\_j.pdfより。

用可否判定については、日本語母語話者 15 名(20 代～30 代)、と韓国語母語話者 3 名(30 代～40 代)に協力してもらい、2015 年 2 月から 8 月にかけて調査を行った。

### 7.3 調査の目的

以下の2点を明らかにすることを調査の目的とする。

- a. 日本語と韓国語の肯定および否定応答表現は17の用法項目のうち、どれがどのように使用されているか。
- b. 日本語と韓国語の肯定および否定応答表現では、どのような使用特徴があるのか。また、その特徴によって、日本語の応答表現の特筆すべき点がみられるか。

### 7.4 調査の結果および考察

先述した通り日本語の応答表現は 17 項目に分類できたが、韓国語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当する韓国語の応答表現がある場合」と「日本語に相当する韓国語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。そのため、韓国人日本語学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということを考える必要がある。調査結果によると、日本語の肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかったため、日本語の肯定応答表現を中心に次の四つのパターンを取り上げ分析、考察する。

1. 日本語と韓国語では、肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合と日本語は「はい」、韓国語は「ne」のみが使われる場合。

韓国語を母語とする学習者にとって覚えやすく、誤用が起りにくいと考えられる。(以下 A パターンとし、7.4.1 で取り上げる)

2. 日本語では、肯定・否定応答表現のどちらか一方のいずれも使われるが、韓国語それぞれいずれかのみ使われる場合。

日本語では、肯定・否定応答表現のどちらか一方のいずれも可能ということを覚えれば、誤用が起りにくいと考えられる。(以下 B パターンとし、7.4.2 で取り上げる)

3. 日本語では例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合。(以下 C パターンとし、7.4.3 で取り上げる)

4. 日本語は「はい」のみが使われ、韓国語では応答表現が使われない場合。

母語の韓国語では、応答表現が使われないが、日本語では、「はい」のみが使われる場合は誤用が起る可能性があると考えられる。(以下 D パターンとし、7.4.4 で取り上げる)

用例は以下のように示す。

A : 日本語による質問または会話例
B : 発話 A に対する応答表現の使用形式 (日本語)
発話 A に対する応答表現の使用形式 (韓国語)
韓国語応答表現のローマ字表記

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

#### 7.4.1 A パターンの場合

本節では日韓の肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合と日本語は「はい」、韓国語は「ne」のみが使われる場合の「①真偽」「②確認応答」「③呼びかけ応答」「④電話応答」「⑤患者応答」「⑥情報提示」「⑦打ち切り」の項目を分析、考察する。以下の表 26 は、それを具体的に示したものである。

表 26 : A パターンの場合

用法	肯定									否定					
	日本語			韓国語						日本語			韓国語		
	はい	ええ	うん	ne	ye	geu-rae	eung	eo	いいえ	いえ	いや	うん	a-ni	a-ni-o	eu-eu-eum
①真偽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
②確認応答	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
③呼びかけ応答	○	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
④電話応答	○	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
⑤患者応答	○	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
⑥情報提示	△	X	X	△	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
⑦打ち切り	△*	X	X	△*	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 △\*=はいを二回「はいはい」 ×=使えない)

上記の表 26 の用法項目を中心に以下では、日本語と韓国語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「①真偽」とは物事が真か偽か尋ねるための真偽疑問文に対する応答表現の使用ができるかどうかのことで、以下の用例(1)を分析、考察した。

(1)A : あなたは学生ですか。



B: はい/ええ/うん      / / いいえ/△いえ/△いや/ううん  
네/예/그래/응/어      / / 아니오/아니/으응  
ne/ye/geu-rae/eung/eo      / / a-ni-o/ a-ni/eu-eu-eum

本調査では、「真偽」に関して日本語では「はい」「ええ」「うん」のいずれも肯定応答として解釈され、相手・場面等により使い分けられることが分かった。韓国語においても「ne/ye/geu-rae/eung/eo」のいずれも使われることが確認できた。否定応答表現として日本語では、「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。韓国語では、「a-ni-o/a-ni/eu-eu-eum」のいずれも使われることが分かった。

次は、「②確認応答」での両言語の使用有無について以下用例(2)を見てみたい。

(2)A: 今日はフランス料理ですね。

B: はい/ええ/うん      / / いいえ/△いえ/△いや/ううん  
네/예/그래/응/어      / / 아니오/아니/으응  
ne/ye/geu-rae/eung/eo      / / a-ni-o/a-ni/eu-eu-eum

本調査では、「今日はフランス料理かどうか」を確認している発話に対して、肯定応答表現として「はい/ええ/うん」と否定応答表現として「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われることが確認できた。なお、「いえ」と「いや」を使う場合「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が続くとより自然という結果が得られた。韓国語では、「真偽」と同様に肯定応答として「ne/ye/geu-rae/eung/eo」と否定応答表現として「a-ni-o/a-ni/eu-eu-eum」のいずれも使われることが確認できた。

次は、「③呼びかけ応答」について以下、用例(3)を分析、考察する。

(3)A: (訪問者) すみません。

B: はい  
네  
ne

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、日本語では「はい」、韓国語では、「ne」のみが用いられるということが確認できた。

次は、「④電話応答」における両言語の応答表現の使用について以下の用例(4)を分析、考察する。

(4)A: もしもし。

B: はい

네 /여보세요

ne /yeo-bo-se-yo

「④電話応答」では、日本語は「はい」、韓国語は「ne」又は「yeo-bo-se-yo (もしもし)」が用いられ日本語と全く同じ傾向が見られた。

次は、例えば病院の受付で名前を呼ばれる「⑤患者応答」について以下の用例(5)を分析、考察する。

(5)A: 田中さん

B: はい

네 / 여기요 (ここです) / 저요 (私です)

ne/ yeo-gi-yo/ jeo-yo

「⑤患者応答」では、日本語は「はい」、韓国語は「ne」しか使われないという結果が得られた。なお、韓国語では「ne」以外に「yeo-gi-yo (ここです)」または「jeo-yo (私です)」のような表現も使われるということが分かった。

次は、「⑥情報提示」に関して、以下の用例(6)を分析、考察した。

(6)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

△네, 저기입니다(はい、あそこです) / 여깁니다(ここです)

△ne, jeo-gi-im-ni-da / yeo-gim-ni-da

本調査によるとここでは、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。この場合の「はい」は質問を受け取ったという意志を示しているといえる。韓国語も同様な傾向が見られた。

次は、「⑦打ち切り」では両言語の使用について以下の用例(7)を分析、考察する。

(7) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: △\*はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)

△\*네네

△\* ne-ne

「⑦打ち切り」に関して日本語では、親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はいはい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。

韓国においても「ne」を「ne-ne」のように日本語の「はいはい」と似た傾向が見られた。

本節での分析、考察結果により「①真偽」「②確認応答」「③呼びかけ応答」「④電話応答」「⑤患者応答」「⑥情報提示」「⑦打ち切り」では、日韓の応答表現の使用は似ているため、韓国人学習者にとっては、誤用が起こりにくい用法項目だと考えられる。「真偽」「確認応答」の否定表現においても日本語では、いずれも使われるが「いえ/いや」は「いえ/いや+コメント」とするほうが自然であることを覚えておくと思われ。

#### 7.4.2 Bパターンの場合

本節では、日本語では、肯定・否定応答表現のどちらか一方のいずれも使われるが、韓国語それぞれいずれかのみ使われる場合の「⑧あいづち」「⑨独話あいづち」「⑩謙遜」という項目を分析、考察する。以下の表 27 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 27 : B パターンの場合

用法	肯定								否定						
	日本語			韓国語					日本語			韓国語			
	はい	ええ	うん	ne	ye	geu-rae	eung	eo	いいえ	いえ	いや	うん	a-ni	a-ni-o	eu-eu-eum
⑧あいづち	○	○	○	○	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X
⑨独話あいづち	○	○	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
⑩謙遜	X	X	X	X	X	X	X	X	○	○	○	○	X	○	X

(○=使える ×=使えない)

以下では表 27 を中心に日本語と韓国語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑧あいづち」とは相手の話を聞いていることを示し、以下用例(8)分析、考察する。

(8)A: 昨日さあ、

B: はい/ええ/うん

네 / 응

ne / eung.

A: 学会に行ってきたさあ

日本語では、「⑧あいづち」に関しては否定応答表現が現れず、「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが確認できた。韓国語においては肯定応答表現の「ne/eung」しか使われないという結果が得られた。

次は、自分自身の発話に対するあいづちの「⑨独話あいづち」での両言語の使用有無について以下の用例(9)を分析、考察した。

(9)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

「⑨独話あいづち」では、日本語は肯定応答表現形式のいずれも使われるが、韓国語では、話し手の発話に対してはあいづちが使われるが、自分自身の発話に対してはあいづちが使われないことが分かった。

次は、「⑩謙遜」について以下の用例(10)を分析考察する。

(10)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

아니오(아뇨<sup>15</sup>)

a-ni-o(a-nyo)

「⑩謙遜」では、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出せた。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使われることもできる。韓国語では、「a-ni-o(a-nyo)」を一回か「a-ni-o, a-ni-o(a-nyo, a-nyo)/」のように連続しても使われることが分かった。また、「a-ni-e-yo /a-nim-ni-da」という「a-ni-o」よりもっと丁寧な否定応答表現も用いられることが確認できた。

本節での分析、考察結果により「⑧あいづち」「⑨独話あいづち」「⑩謙遜」では、韓国語と違って、日本語は肯定か否定応答表現のいずれも使われるということを覚えれば、誤用が起こりにくいと考えられる。

#### 7.4.3 Cパターンの場合

本節では、日本語では例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合の「⑪許可」「⑫承諾」「⑬共感」「⑭命令応答」「⑮了解」の項目を分析、考察する。以下の表 28 は、それらの使用を具体的に示したものである。

---

<sup>15</sup>韓国語の否定応答の場合、「아뇨, 아뇨(a-nyo, a-nyo)」は「아니오, 아니오(a-ni-o, a-ni-o)」の会話体的な表現である。

表 28 : C パターンの場合

用法	肯定								否定						
	日本語			韓国語					日本語				韓国語		
	はい	ええ	うん	ne	ye	geu-rae	eung	eo	いいえ	いえ	いや	うん	a-ni	a-ni-o	eu-eu-eum
㉑許可	○	△	○	○	○	○	○	X	X	X	△	X	X	X	X
㉒承諾	○	△	△	○	○	○	○	X	X	X	△	X	X	X	X
㉓共感	△	△	△	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
㉔命令応答	○	X	○	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
㉕了解	○	X	○	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表28を中心に日本語と韓国語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

次は、「㉑許可」に対する両言語の使用について以下用例(11)を考察する。

(11)A : あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B : はい/△ええ/うん //△いや

네 / 예 / 그래 / 응

ne/ye/geu-rae/eung

「㉑許可」では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続くとより自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。否定応答表現として日本語では、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使われないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。否定応答表現は「いや」だけが使えるが、目下の人にしか使えないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。韓国語では、肯定応答表現の「ne/ye/geu-rae/eung」のいずれも使われることが確認できた。

次は、「㉒承諾」に対する両言語の使用について以下用例(12)を考察した。

(12)A : この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B : はい/△ええ/△うん //△いや

네/예/그래/응

ne/ye/geu-rae/eung

「⑫承諾」では、日本語は肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のような後文が続く。なお、通常「いいえ」「いえ」「いや」「うん」の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。韓国語では、「許可」と同様に肯定応答表現のみで、「ne/ye/geu-rae/eung」のいずれも使われることが分かった。

次は、「⑬共感」に関しては、以下の用例(13)を分析、考察した。

(13)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ日本語では、否定応答表現で応答することができないという結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。韓国語では応答表現を用いることは不自然で、「그렇지 geu-reo-chi(でしょう)」のような話し手の発話に対し、同意を示す表現を使うのが一般的だということが確認できた。

次は、「⑭命令応答」について以下の用例(14)を分析、考察する。

(14)A: ちゃんと宿題をやりなさい。

B: はい/うん

네

ne

本調査によると、日本語では、肯定応答の「はい」と「うん」が使われるという結果が得られた。なお、「はい」は上下関係、親疎関係を問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。韓国語では、肯定応答表現の「ne」しか使われないことが分かった。

次は、「⑮了解」について以下の用例(15)を分析、考察する。

(15)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B: はい/うん

네  
ne

本調査によると、「⑮了解」では目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。韓国語では、「⑭命令応答」と同様に肯定応答表現の「ne」しか使われないことが分かった。

AパターンとBパターンで取り上げた用法項目に比べ、本節での「⑪許可」「⑫承諾」「⑬共感」「⑭命令応答」「⑮了解」は、日本語と似ている点もある一方似ていない点もあり、韓国語学習者には容易に覚えにくく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意する必要があると思われる。

#### 7.4.4 Dパターンの場合

本節では、日本語は「はい」のみで、韓国語では「ne/ye」のみ、あるいは応答表現が使われない場合の「⑯点呼」「⑰応答の応答」という項目を分析、考察する。以下の表 29 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 29 : D パターンの場合

用法	肯定								否定						
	日本語			韓国語					日本語				韓国語		
	はい	ええ	うん	ne	ye	geu-rae	eung	eo	いいえ	いえ	いや	うん	a-ni	a-ni-o	eu-eu-eum
⑯点呼	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑰応答の応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える ×=使えない)

以下では表 29 を中心に日本語と韓国語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑯点呼」とは例えば、教室で出席をとる場合で、以下の用例 (16) を見ていく。

(16)A: 吉田くん。

B: はい

네/예

ne/ye

ここでは日本語は、「はい」しか使われないという結果が得られた。韓国語においても肯

定応答表現しか使われないが、「ne/ye」のいずれも使われることが分かった。

次は、「⑰応答の応答」について見てみる。「⑰応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するもので、以下の用例(17)を分析、考察する。

(17)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい

「⑰応答の応答」では、日本語は「はい」のみが使われるという結果が導き出せた。韓国語では日本語と違って質問の返答に対して新たに応答しないで、次に続くということが分かった。

本節での「⑯点呼」「⑰応答の応答」では、韓国語の使い方が日本語と異なっているため、学習者にとって使用が難しく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に十分注意すべきであると思われる。なぜなら、例えば「⑯点呼」では、学習者は、「はい」の代わりに親しい相手に対して「ええ」「うん」も可能と考えてしまう恐れがある。そのため、友人同士で出席をとるにしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

## 7.5 本章のまとめ

以上、日本語と韓国語の肯定および否定応答表現の用法について考察したことによって、それらの用法の特徴が分かった。

1. 日本語においても韓国語においても17用法項目のうち「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現のいずれも使われること確認できた。なお、第6章で見たシンハラ語は「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現の一つのみが使われ、限られた様子を示した。
2. 「③呼びかけ応答」「④電話応答」「⑥情報提示」に関しては、日本語も韓国語も「はい」と「ne」が使われることが分かった。これは、シンハラ語には見られない傾向だった。
3. 日本語においても韓国語においても「はい/ええ/うん」と「ne/ye/geu-rae/eung/eo」等の違いは丁寧さのみではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが今回の調査結果から確認できた。例えば、「点呼」では日本語は「はい」のみ、韓国語は、肯定応答表現の「ne/ye」のみが使われることを挙げられる。
4. Cパターン、Dパターンで取り上げた、「⑪許可」「⑫承諾」「⑬共感」「⑭命令応答」「⑮了解」「⑯点呼」「⑰応答の応答」という項目に関しては、韓国語を母語とする学習者に教



える際注意をする必要があると考えられる。

5. 韓国語の「ne/ye」、シンハラ語の「ou/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。

母語の影響で誤用が起こる可能性が高い用法項目を知っておくことで、指導者に指導を行う際にそれらの練習に重点を置き、様々な指導法を利用し、より効率的に習得させることができると思われる。次章では、日本語とモンゴル語の肯定および否定応答表現の用法についてを分析、考察する。

## 第8章 日本語とモンゴル語の肯定・否定応答表現の対照

### 8.1 はじめに

本章では、日本語とアルタイ語族のモンゴル語の肯定および否定応答表現の用法について対照分析を行い、さらに日本語の応答表現の特異性について見ていく。具体的には、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当するモンゴル語の「За (za)」「Тийм (tiim)」、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当する中国語の「Үгүй (ugui)」「бигш (bish)」の使い分けについて比較し、それらの類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。モンゴル語を選んだ理由は、近年モンゴル人日本語学習者が急増しているからである。交流基金の2009年度の結果を見てみると、出身国別では第11位だが、人口比では世界第1位であるという記述がある<sup>16</sup>。

### 8.2 調査概要

第6章で取り上げた、17の用法項目を基に、日本語とモンゴル語の応答表現の比較分析を行う。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」である。応答表現の用法においてはモンゴル語独自の用法も考えられるが、この17項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、モンゴル語独特の用法に関しては対象外とした。また、「電話応答」「点呼」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられない。しかし、モンゴル語では項目ごとに使う表現が異なるため、別々の項目として扱った。

調査の用例は第6章で取り上げた用例と同じものである。日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい例文作成に臨んだ。応答表現の使用可否判定については、日本語母語話者15名(20代～30代)、とモンゴル語母語話者3名(20代)に協力してもらい、2015年2月から8月にかけて調査を行った。

### 8.3 調査の結果および考察

日本語の応答表現は17項目に分類できたが、モンゴル語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当するモンゴル語の応答表現がある場合」と「日本語

<sup>16</sup> <http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/mongolia.html>

に相当するモンゴル語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。そのため、モンゴル語の日本語学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということを考える必要がある。調査結果によると、日本語の肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかったため、日本語の肯定応答表現を中心に次の四つのパターンを取り上げ分析、考察する。

1. 日本語では、肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合と日本語は「はいはい」モンゴル語は「Za (za)」の場合（以下Aパターンとし、8.3.1で取り上げる）

2. 日本語では、肯定応答表現のいずれも使われるが、モンゴル語では、いずれかのみ使われる場合と日本語では否定応答表現をいずれも使われる場合。

日本語では、肯定か否定表現のいずれも可能ということ覚えれば、誤用が起りにくいと考えられる。（以下Bパターンとし、8.3.2で取り上げる）

3. 日本語は「はい」のみが使われ、モンゴル語では応答表現が使われない場合。

母語のモンゴル語では、応答表現が使われないが、日本語では「はい」のみが使われる場合は誤用が起る可能性があると考えられる。（以下Cパターンとし、8.3.3で取り上げる）

4. 日本語では、例えば「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合。（以下Dパターンとし、8.3.4で取り上げる）

用例は以下のように示す。

A：日本語による質問または会話例
B：発話Aに対する応答表現の使用形式（日本語）
発話Aに対する応答表現の使用形式（モンゴル語）
モンゴル語応答表現のローマ字表記

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

### 8.3.1 Aパターンの場合

本節では日本語の肯定・否定応答表現がいずれも使われる「①真偽」「②確認応答」と「③打ち切り」の用法項目を分析、考察する。以下の表30は、それを具体的に示したものである。

表 30 : A パターンの場合

用法	肯定					否定					
	日本語			モンゴル語		日本語				モンゴル語	
	はい	ええ	うん	za	tiim	いいえ	いえ	いや	ううん	ugui	bish
①真偽	○	○	○	×	○	○	△	△	○	○	×
②確認応答	○	○	○	×	○	○	△	△	○	○	△
③打ち切り	*△	×	×	*△	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 △\*=二回使う。例えば、「はいはい」 ×=使えない)

上記の表 30 の用法項目を中心に以下では、日本語とモンゴル語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「①真偽」で日本語とモンゴル語応答表現の使用について以下、用例(1)を分析、考察する。

(1)A : あなたは学生ですか。

B : はい/ええ/うん //いいえ/△いえ/△いや/ううん

Тийм //Үгүй/биш

tiim // ugui/bish

本調査では、「①真偽」に関しては、「はい/ええ/うん」のいずれも肯定応答として解釈され、相手・場面等により使い分けられることが調査結果から確認できた。日本語では肯定応答表現のいずれも使われるが、モンゴル語では肯定応答表現の「tiim」しか使われないという結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。モンゴル語では、「ugui/bish」のいずれも使われることが分かった。

次は、「②確認応答」での両言語の使用有無について以下用例(2)を分析、考察する。

(2)A : 今日はフランス料理ですね。

B : はい/ええ/うん //いいえ/△いえ/△いや/ううん

Тийм //Үгүй/△биш

tiim // ugui/△bish

本調査では、「今日はフランス料理かどうか」を確認している発話に対して、肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが確認できた。「今日はフランス料理ではない」という意味を示す否定応答表現として「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「いえ」と「いや」を使う場合確認された情報を間違っているということだけではなく、「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が次ぐとより自然という結果が得られた。モンゴル語では、「真偽」と同様に肯定応答としては「tiim」で、否定応答表現としては「ugui/bish」のいずれも使われるが、「bish」は日本語の「いえ/いや」のように「bish itali hool (いいえ (違う)、イタリア料理です)」のように後文が続かないと不自然ということが確認できた。

次は、「③打ち切り」では両言語の使用について以下の用例(3)を分析、考察する。

(3) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: △\*はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)

△\* За за, (наадахыг чинь бүр сонссоор байгаад залхчихсан。)

△\* Za za, (naadahiig chin bur sonssoor baigaad zalhchihsan。)

「③打ち切り」に関して日本語では、親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はいはい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。モンゴル語では、「Za」を「Za za」のように二回使われ、日本語と全く似た傾向が見られた。また、日本語と同様に「Za za, naadahiig chin bur sonssoor baigaad zalhchihsan. (はいはい、それはもう聞き飽きたよ)」という聞き手の「もう聞きたくない」という表現と一緒に使われることが確認できた。

本節での分析、結果により「①真偽」と「②確認応答」での応答表の使用はモンゴル語と違っていても、日本語ではいずれも使われることと「いえ/いや」は「いえ/いや+コメント」とするほうが自然であることを覚えておくと思われる。

### 8.3.2 Bパターンの場合

本節では、日本語では、肯定応答表現のいずれも使われる場合と否定応答表現のいずれも使われる「④あいづち」「⑤独話あいづち」「⑥謙遜」という項目を分析、考察する。以下の表 31 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 31 : B パターンの場合

用法	肯定					否定					
	日本語			モンゴル語		日本語				モンゴル語	
	はい	ええ	うん	za	tiim	いいえ	いえ	いや	ううん	ugui	bish
④あいづち	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
⑤独話あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
⑥謙遜	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×

(○=使える ×=使えない)

上記の表31の用法項目を中心に以下では、日本語とモンゴル語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「④あいづち」とは相手の話を聞いていることを示し、以下用例(4)分析、考察する。

(4)A: 昨日さあ、

B: はい。/ええ。/うん。

3a

za

A: 学会に行ってきたさあ

日本語では、話し手の話を聞いていることを示す「④あいづち」に関しては否定応答表現が現れず、「はい/ええ/うん」のいずれも使われるという結果が導き出された。モンゴル語においては「za」しか使われないという結果が得られた。日本語の「はい/ええ/うん」のいずれも応答表現やあいづちとしても用いられ、ある一つの表現がいくつかの機能を持つと同様にモンゴル語の「za」にもそういう機能があることを調査結果から明らかになった。

次は、自分自身の発話に対するあいづちの「⑤独話あいづち」での両言語の使用有無について以下の用例(5)を分析、考察した。

(5)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

「⑤独話あいづち」では、日本語は肯定応答表現形式のいずれも使われるが、モンゴル語では、話し手の発話に対してはあいづちが使われるが、自分自身の発話に対してはあいづちが使われないことが分かった。

次は、「⑥謙遜」について以下の用例(6)を分析考察する。

(6)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出せた。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使われることもできる。モンゴル語では応答表現を使わず、「Зүгээр зүгээр. Zugeer zugeer (結構です)」が使われるということが確認できた。

本節での分析、考察結果により「④あいづち」「⑤独話あいづち」「⑥謙遜」では、母語のモンゴル語と違って、日本語は肯定か否定応答表現のいずれも使われるということを感じれば、誤用が起これにくいと考えられる。

### 8.3.3 Cパターンの場合

本節では、日本語は「はい」のみが使われ、モンゴル語では応答表現が使われない場合「⑦情報提示」「⑧応答の応答」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」「⑪患者応答」「⑫電話応答」の項目を分析、考察する。以下の表 32 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 32 : C パターンの場合

用法	肯定					否定					
	日本語			モンゴル語		日本語				モンゴル語	
	はい	ええ	うん	za	tiim	いいえ	いえ	いや	ううん	ugui	bish
⑦情報提示	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑧応答の応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑨呼びかけ応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑩点呼	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑪患者応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑫電話応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 32 を中心に日本語とモンゴル語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑦情報提示」に関しては、以下の用例(7)を分析、考察した。

(7)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

本調査によると日本語では、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。この場合の「はい」は質問を受け取ったという意志を示しているといえる。モンゴル語では、応答表現を使わず「ТЭН байгаа. tend baigaa (あそこにあります)」という情報だけを伝える傾向が見られた。

次は、「⑧応答の応答」について見てみる。「⑧応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するもので、以下の用例(8)を分析、考察する。

(8)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい

「⑧応答の応答」では、日本語は「はい」のみが使われるという結果が導き出された。モンゴル語では日本語と違って、質問の返答に対して新たに応答しないで、次に続くということが分かった。

次は、「⑨呼びかけ応答」について以下、用例(9)を分析、考察する。

(9)A : (訪問者) すみません。

B: はい

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、日本語は「はい」のみが使われることが分かった。モンゴル語は、肯定・否定応答表現を使わず、「Хэн бэ? Hen be? (なんでしょか)」などのなぜ呼ばれたかという用件について何うということが分かった。

次は「⑩点呼」で、例えば教室で出席をとる場合で、以下の用例(10)を見ていく。

(10)A: 吉田くん。

B: はい

ここでは日本語は、「はい」しか使われないという結果が得られた。モンゴル語では、肯定・否定応答表現を使わず、「Байна. Baina (います)」で返答するということが分かった。点呼の答えとして日本語の「はい」は、「はい、います/います」の省略であると言える。



モンゴル語の肯定応答表現の「za/tiim」には「はい」のような省略語として使われる働き（機能）がないため、「出席か欠席」に注目し、「Байна. Vaina (います)」と応答すると考えられる。そのため、モンゴル語を母語とする学習者は「⑩点呼」では、「はい」の代わりに「います」と返答する恐れがある一方「はい」の代わりに親しい相手に対して「ええ」「うん」も可能と考える恐れがある。そのため、友人同士で出席をとるにしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

次は、「⑪患者応答」で例えば、病院の受付で名前を呼ばれる場合で、以下の用例(11)を分析、考察する。

(11)A: 田中さん

B: はい。

ここでは、日本語は「はい」、モンゴル語は「⑩点呼」と同様に応答表現を使わず、「Би байна. Bi baina (私です)」が使われるという結果が得られた。ここでは、学習者は日本語の「ええ」「うん」も可能と思う可能性があるため、教える際注意する必要があると思われる。

次は、「⑫電話応答」における両言語の応答表現の使用について以下の用例(12)を分析、考察する。

(12)A: もしもし。

B: はい

「⑫電話応答」では、日本語は「はい」のみが使われる。モンゴル語では肯定・否定応答表現を使わず、「Байна уу Vaina uu (もしもし)」のみが使われるという結果が得られた。

本節での「⑦情報提示」「⑧応答の応答」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」「⑪患者応答」「⑫電話応答」では、日本語に相当する応答表現はモンゴル語ではないため、学習者にとって使用が難しく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に十分注意すべきであると思われる。

#### 8.3.4 Dパターンの場合

本節では、日本語は例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合の「⑬許可」「⑭承諾」「⑮命令応答」「⑯了解」「⑰共感」という項目を分析、考察する。以下の表 33 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 33 : D パターンの場合

用法	肯定					否定					
	日本語			モンゴル語		日本語				モンゴル語	
	はい	ええ	うん	za	tiim	いいえ	いえ	いや	ううん	ugui	bish
⑬許可	○	△	○	X	X	X	X	△	X	X	X
⑭承諾	○	△	△	X	X	X	X	△	X	X	X
⑮命令応答	○	X	○	○	X	X	X	X	X	X	X
⑯了解	○	X	○	△	X	X	X	X	X	X	X
⑰共感	△	△	△	X	△	X	X	X	X	X	X

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 33 を中心に日本語とモンゴル語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑬許可」に対する両言語の使用について以下用例(13)を考察する。

(13)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B: はい/△ええ/うん //△いや

その結果、「許可」では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続くとより自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。否定応答表現としては、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使えないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。モンゴル語では、肯定・否定応答表現を使わず、「Болно. Bolno (いいです)」が使われることが分かった。

次は、「⑭承諾」に対する両言語の使用について以下用例(14)を考察した。

(14)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/△ええ/△うん //△いや

「⑭承諾」に関しては肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん

ん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。否定応答表現として「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のように後文が続く。なお、通常「いいえ、いえ、いや、うん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。モンゴル語では、肯定・否定応答表現を使わず「Болно болно . Bolnoo bolno. (いいですよ)」が使われることが分かった。

次は、「⑮命令応答」について以下の用例(15)を分析、考察する。

(15)A: ちゃんと宿題をやりなさい。

B: はい/うん

За

za

本調査によると、「⑮命令応答」に関しては肯定応答の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。なお、「はい」は上下関係、親疎関係に問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。モンゴル語では、「za」が使われることが分かった。

次は、「⑯了解」について以下の用例(16)を分析、考察する。

(16)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B: はい/うん

△За

△za

本調査によると、ここでは目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。モンゴル語では、「За, ойлголоо. Za oilgoloo (はい、わかった)」のように、後文と一緒に使われることが分かった。

次は、「⑰共感」に関しては、以下の用例(17)を分析、考察した。

(17)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

△Тийм

△tiim

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ否定応答表現で応答するのは不自然という結果が得られた。「わあ、きれいですね」は、相手

の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。「共感」に関しては、モンゴル語では、「Тийм байгаа биз. Tiim baigaa biz (そうでしょう)」のように後文と一緒に使われることが確認できた。

以上、Aパターン、Bパターン、Cパターンで取り上げた用法項目に比べ、本節での「⑬許可」「⑭承諾」「⑮命令応答」などは、日本語と似ている点もある一方似ていない点も多くあり、学習者には容易に覚えにくく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきであると思われる。

#### 8.4 本章のまとめ

以上、日本語とモンゴル語の肯定・否定応答表現の用法について考察したことによって、それらの用法の類似点と相違点が分かった。それらは以下のようにまとめる。

1. 第6章のシンハラ語、第7章の韓国語の分析結果に比べると、多くの用法項目においてはモンゴル語は応答表現が使われないことがあきらかになった。「⑦情報提示」「⑧応答の応答」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」「⑪患者応答」「⑫電話応答」「⑬許可」「⑭承諾」という用法項目においては、日本語に相当するモンゴル語の応答表現がないため、これらの項目に関しては、モンゴル語を母語とする学習者に教える際注意をすべきであると考えられる。
2. 日本語においてもモンゴル語においても「はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん」と「za/tiim/ugui/bish」の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの形式でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。
3. 「⑤独話あいづち」「⑦情報提示」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」「⑫電話応答」に関しては、シンハラ語にもモンゴルにも同じ使用傾向が見られた。
4. モンゴル語の「za/tiim」の使用範囲が、シンハラ語の「ou/haa」よりも限られた様相を示していることが確認できた。
5. モンゴル語の「za/tiim」に比べても、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。

本章では、特に学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということに着目して日本語とモンゴル語の肯定および否定応答表現の比較分析を行った。次章では、日本語と英語の肯定および否定応答表現の用法について対照分析を行う。

## 第9章 日本語と英語の肯定・否定応答表現の対照

### 9.1 はじめに

第6章で日本語とシンハラ語、第7章で日本語と韓国語、第8章で日本語とモンゴル語の肯定および否定応答表現の対照分析、考察を行った。本章では、日本語と英語<sup>17</sup>の肯定および否定応答表現の用法について考察する。具体的に、日本語の肯定応答表現の「はい」

「ええ」「うん」とそれらに相当する英語の「yes」「yeah」「uh - huh」と日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当する英語の「no」「nope」「uh-uh」の使用について比較し、考察する。英語を選んだ理由として以下の二つを挙げられる。

1. 英語は世界で国際語として使われている。
2. 英語を母語とする日本語学習者が非常に多い<sup>18</sup>。

### 9.2 先行研究

日本語と英語のYes-No疑問文と日本語と英語のあいづちについての研究は多い。日本語と英語の応答表現についての研究は非常に少ない。日本語と英語の応答表現の研究として、Alfonso (1966)、Pope (1973)、Martin (1975) などが挙げられる。

Alfonso (1966) は、「はい」と「ええ」について次のように述べている。

「For YES, EE is used. Hai is also used, but it has a connotation of deference and is very polite; in normal situation EE is more frequent (P13).」

Alfonsoの上記の説明によると「はい」と「ええ」の使い分けの違いは、formal と informalつまり「はい」は丁寧な表現、「ええ」はくだけた表現で、「yes」は日本語の「はい」にも「ええ」にも相当するということである。しかし、第6章の日本語とシンハラ語の応答表現比較分析からは、「はい」と「ええ」の違いは丁寧さのみの違いではない。

Pope (1973) は、positivity (肯定) を表す英語の‘yes’と比較して、「はい」を‘agreement’ (賛成) を示すものとしている (P482) <sup>19</sup>。

Martin (1975) は、「はい」を‘yes’、「ええ」を‘yeah, yes’として記述している。

<sup>17</sup> 英語は、インドヨーロッパ語族のゲルマン語派に属する。

<sup>18</sup> 国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」によると、学習者の上位10ヶ国のうち、4位オーストラリア（全学習者の7.4%）、6位米国（全学習者の3.9%）である。  
[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_excerpt\\_j.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf) より。

<sup>19</sup> 日本語訳（肯定、賛成）は筆者より。

上記の先行研究では、「はい」と「ええ」、「yes」と「yeah」の違いは丁寧と非丁寧の区別のみと説明しているだけで、それらの使い分けの特徴の説明まではなされていない。

### 9.3 調査概要

第6章で取り上げた、17の用法項目を基に日本語と英語の応答表現の比較分析を行う。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」である。応答表現の用法においては英語独自の用法も考えられるが、この17項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、英語独特の用法に関しては対象外とした。また、「点呼」「電話応答」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられない。しかし、英語では項目ごとに使う表現が異なるため、別々の項目として扱った。

調査の用例は第6章で取り上げた用例と同じものである。日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい例文作成に臨んだ。応答表現の使用可否判定については、日本語母語話者15名(20代～30代)、と英語母語話者3名(30代～50代)に協力してもらい、2015年2月から8月にかけて調査を行った。

### 9.4 調査の目的

以下の2点を明らかにすることを調査の目的とする。

- a. 日本語と英語の肯定および否定応答表現は17の用法項目のうち、どれがどのように使用されているか。
- b. 日本語と英語の肯定および否定応答表現では、どのような使用特徴があるのか。また、その特徴によって、日本語の応答表現の特筆すべき点がみられるか。

### 9.5 調査の結果および考察

日本語の応答表現は17項目に分類できたが、英語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当する英語の応答表現がある場合」と「日本語に相当する英語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。それで、英語圏の日本語学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということを考える必要がある。調査結果によると、日本語の肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかったため、日本語の肯定応答表現を中心に次の四つのパターンを取り上げ分析、考察す

る。

1. 日本語・英語ともに、肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合と日本語は「はい」、英語は「yes」のみが使われる場合。

英語圏学習者にとって覚えやすく、誤用が起こりにくいと考えられる。(以下 A パターンとし、9.5.1 で取り上げる)

2. 日本語の肯定・否定応答表現のどちらか一方のいずれも使われるが、英語では、いずれかのみ使われる場合と日本語では否定表現はいずれも使われ、英語では、いずれかのみ使われる場合。

日本語では、肯定・否定応答表現のどちらか一方のいずれも可能ということ覚えれば、誤用が起こりにくいと考えられる。(以下 B パターンとし、9.5.2 で取り上げる)

3. 日本語は「はい」のみが使われ、英語では応答表現が使われない場合。

母語の英語では、応答表現が使われないが、日本語では、「はい」のみが使われるため、誤用が起こる可能性があると考えられる。(以下 C パターンとし、9.5.3 で取り上げる)

4. 日本語では例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合。(以下 D パターンとし、9.5.4 で取り上げる)

用例は以下のように示す。

A : 日本語による質問または会話例
B : 発話 A に対する応答表現の使用形式 (日本語)
発話 A に対する応答表現の使用形式 (英語)

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

### 9.5.1 A パターンの場合

本節では、日本語・英語ともに肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合の「①真偽」「②確認応答」と日本語は「はい」、英語は「yes」のみが使われる「③患者応答」の項目を分析、考察する。以下の表 34 は、それを具体的に示したものである。

表 34 : A パターンの場合

用法	肯定						否定						
	日本語			英語			日本語				英語		
	はい	ええ	うん	yes	yeah	uh-huh	いいえ	いえ	いや	ううん	no	nope	uh-uh
①真偽	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
②確認応答	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
③患者応答	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

上記の表 34 の用法項目を中心に以下では、日本語と英語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「①真偽」における日本語と英語の応答表現の使用について以下、用例(1)を分析、考察する。

(1)A：あなたは学生ですか。

B：はい/ええ/うん / /いいえ/△いえ/△いや/ううん  
yes/yeah /uh - huh / /no/nope/uh - uh

本調査では、「①真偽」に関して日本語では「はい」「ええ」「うん」のいずれも肯定応答として解釈され、相手・場面等により使い分けられることが分かった。日本語と同様に英語においても肯定応答として「yes/yeah/uh - huh」のいずれも使われることが確認できた。

「yes」は「yeah/uh-huh」より丁寧な応答表現であり一般的には目上の人にも目下の人にも使われる。「yeah/uh - huh」はくだけた表現であり、目上の人に使うと失礼な印象を与えるという結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。英語では、肯定と同様に否定応答表現においては「no/nope/uh - uh」のいずれも使われることが分かった。「no」はより丁寧な否定応答表現であり、目上の人にも目下の人にも使われるが、「nope/uh-uh」はくだけた表現であるため、目上の人に対しては使われないことが確認できた。

次は、「②確認応答」での両言語の使用有無について以下用例(2)を分析、考察する。

(2)A：今日はフランス料理ですね。

B：はい/ええ/うん / /いいえ/△いえ/△いや/ううん



yes/yeah /uh - huh /no/nope/uh - uh

本調査では、「今日はフランス料理かどうか」を確認している発話に対して、肯定応答表現として「はい/ええ/うん」と否定応答表現として「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われることが確認できた。なお、「いえ」と「いや」を使う場合「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が続かないと不自然という結果が得られた。英語では、「真偽」と同様に肯定応答として「yes/yeah/uh - huh」と否定応答表現として「no/nope/uh - uh」のいずれも使われることが確認できた。

次は、例えば病院の受付で名前を呼ばれる「③患者応答」について以下の用例(3)を分析、考察する。

(3)A : 田中さん

B: はい

yes

「③患者応答」では、日本語は「はい」、英語は「yes」しか使われないという結果が得られた。

本節での分析、考察結果により「①真偽」「②確認応答」「③患者応答」では、日本語・英語の応答表現の使用は似ているため、英語圏の学習者にとっては、誤用が起こりにくい用法項目だと考えられる。「真偽」「確認応答」の否定応答表現においては日本語では、いずれも使われるが「いえ/いや」は「いえ/いや+コメント」とするほうが自然であることを覚えておくと思われ。

### 9.5.2 Bパターンの場合

本節では、日本語では、肯定・否定応答表現のどちらか一方のいずれも使われるが、英語では、それぞれいずれかのみ使われる場合と日本語では否定表現はいずれも使われ、英語では、いずれかのみ使われる場合の「④あいづち」「⑤独話あいづち」「⑥謙遜」という項目を分析、考察する。以下の表 35 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 35 : B パターンの場合

	肯定						否定						
	日本語			英語			日本語				英語		
用法	はい	ええ	うん	yes	yeah	uh-huh	いいえ	いえ	いや	ううん	no	nope	uh-uh
④あいづち	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
⑤独話あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑥謙遜	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 35 を中心に日本語と英語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「④あいづち」とは相手の話を聞いていることを示し、以下用例(4)分析、考察する。

(4)A: 昨日さあ、

B: はい/ええ/うん

yeah

A: 学会に行ってきたさあ

日本語では、「④あいづち」に関しては否定応答表現が現れず、「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが確認できた。英語においては肯定応答表現の「yeah」しか使われないという結果が得られた。

次は、自分自身の発話に対するあいづちの「⑤独話あいづち」での両言語の使用有無について以下の用例(5)を分析、考察した。

(5)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

「⑤独話あいづち」では、日本語は肯定応答表現形式のいずれも使われるが、英語では、話し手の発話に対してはあいづちが使われるが、自分自身の発話に対してはあいづちが使われないことが分かった。

次は、「⑥謙遜」について以下の用例(6)を分析考察する。

(6)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

△no

「⑥謙遜」では、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/

ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出された。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使われることもできる。英語では、「don't mention it」のみか「no, don't mention it」のように使われることが分かった。英語では、日本語とは異なって「no」を使う際、「don't mention it」のような「どういたしまして/大したことではない」という意味を表す表現がないと不自然ということが確認できた。

本節での分析、考察結果により「④あいづち」「⑤独話あいづち」「⑥謙遜」では、英語と違って、日本語は肯定か否定応答表現のいずれも使われるということを覚えれば、誤用が起こりにくいと考えられる。

### 9.5.3 Cパターンの場合

本節では、日本語は「はい」のみが使われ、英語では応答表現が使われない場合「⑦情報提示」「⑧応答の応答」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」「⑪電話応答」の項目を分析、考察する。以下の表 36 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 36 : C パターンの場合

用法	肯定						否定						
	日本語			英語			日本語				英語		
	はい	ええ	うん	yes	yeah	uh-huh	いいえ	いえ	いや	ううん	no	nope	uh-uh
⑦情報提示	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑧応答の応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑨呼びかけ応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑩点呼	○	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×
⑪電話応答	○	×	×	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 36 を中心に日本語と英語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑦情報提示」に関しては、以下の用例(7)を分析、考察した。

(7)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

本調査によると日本語では、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。この場合の「はい」は質問を受け取ったという意志を示しているといえる。英語では、応答表現を使わず「it's over there (あそこです)」という情報だけを伝える傾向が見られた。

次は、「⑧応答の応答」について見てみる。「⑧応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するもので、以下の用例(8)を分析、考察する。

(8)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい

「⑧応答の応答」では、日本語は「はい」のみが使われるという結果が導き出せた。英語では日本語と違って「okay」か、質問の返答に対して新たに応答しないで、次に続くということが分かった。

次は、「⑨呼びかけ応答」について以下、用例(9)を分析、考察する。

(9)A : (訪問者) すみません。

B: はい

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、日本語は「はい」のみが使われることが分かった。英語では、肯定・否定応答表現を使わず、「どういう用件で呼ばれたのか」という用件について何うということが確認できた。

「⑩点呼」とは例えば、教室で出席をとる場合で、以下の用例(10)を見ていく。

(10)A: 吉田くん。

B: はい

△yeah

ここでは日本語は、「はい」しか使われないという結果が得られた。北川(1977)は点呼では、「英語の場合は'yes'は勿論、友達同士ならば'yeah'とも言えるのだから、点呼の返事としては「はい」とは似ていても、「ええ」とは似てないことになる(P67)」と述べている。なお、本調査では、「yes」は使われないという結果が導き出された。「yeah」も不自然で使うと失礼な印象を与えるという結果が得られた。通常英語では、「私はここです/ここにいます」という意味の「here(ここ)」又は「present(出席)」で応答するということが分かった。そのため、英語圏の学習者は「⑩点呼」では、「はい」の代わりに「ここです」と返答する恐れがある一方「はい」の代わりに親しい相手に対して「ええ」「うん」も

可能と考えるという恐れがある。そのため、友人同士で出席をとるにしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

次は、「⑩電話応答」における両言語の応答表現の使用について以下の用例(11)を分析、考察する。

(11)A: もしもし。

B: はい

△yes / △yeah

「⑩電話応答」では、日本語は「はい」のみが使われる。英語では肯定応答表現の「yes/yeah」が使われるが、一般の電話ではなくて例えば、会社の秘書など誰からかかってくるか決まっている状況であれば一々Helloと言わず「yes」が使われるということなので、日本語の「はい」とは条件が違う。「yeah」を使うと「何」というニュアンスで電話がかかってきて迷惑だという意味になり、失礼な印象を与えるという結果が得られた。

本節での「⑦情報提示」「⑧応答の応答」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」「⑩電話応答」では、英語の使い方が日本語と異なっているため、学習者にとって使用が難しく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に十分注意すべきであると思われる。

#### 9.5.4 Dパターンの場合

本節では、日本語は例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合の「⑫許可」「⑬承認」「⑭命令応答」「⑮了解」「⑯共感」「⑰打ち切り」という項目を分析、考察する。以下の表 37 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 37 : D パターンの場合

用法	肯定						否定						
	日本語			英語			日本語			英語			
	はい	ええ	うん	yes	yeah	uh-huh	いいえ	いえ	いや	うん	no	nope	uh-uh
⑫許可	○	△	○	○	○	○	×	×	△	×	△	×	×
⑬承認	○	△	△	○	○	○	×	×	△	×	△	×	×
⑭命令応答	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑮了解	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑯共感	△	△	△	×	△	○	×	×	×	×	×	×	×
⑰打ち切り	△*	×	×	×	△*	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 △\*=二回使う。例えば、「はいはい」 ×=使えない)

以下では表 37 を中心に日本語と英語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑫許可」に対する両言語の使用について以下用例(12)を考察する。

(12)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B: はい/△ええ/うん    //△いや  
yes/yeah/uh - huh    //△no

「⑫許可」では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続かないと不自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。否定応答表現として日本語では、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使われないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。英語では、肯定応答表現として「yes/yeah/uh - huh」と否定応答表現として「no」が使われることが分かった。日本語と同様に「no」は「no, you may not go to the post office. You have to stay here. (いや、行っちゃいけない。ここにいきやいけません)」のように「no」と一緒に許可を与えない表現などが続くことが確認できた。「nope/uh-uh」などの否定応答表現はくだけた表現なので許可を求められている(12)の状況では「nope/uh - uh」で応答すると非常に不自然であることが分かった。

次は、「⑬承諾」に対する両言語の使用について以下用例(13)を考察した。

(13)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/△ええ/△うん    //△いや  
yes/yeah/uh - huh    //△no

「⑬承諾」では、日本語は肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のような後文が続く。なお、通常「いいえ」「いえ」「いや」「うん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。英語では、肯定応答表現の「yes」「yeah」「uh - huh」のいずれも使われ、否定応答表現として「no」しか使われないことが分かった。日本語の「いや」と同様に「no」のみの返答ではなくて、「no, I am sorry I

don't have time (いや、すみません。今時間がないんですよ) のように後文が続く。「⑫許可」と同様に、依頼されている(13)のような状況においても「nope/uh - uh」で応答すると非常に不自然であることが分かった。

次は、「⑭命令応答」について以下の用例(14)を分析、考察する。

(14)A: ちゃんと宿題をやりなさい。

B: はい/うん

本調査によると、日本語では、肯定応答表現の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。なお、「はい」は上下関係、親疎関係を問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。命令に対する返答として英語は肯定・否定応答表現を使わず、「okay, alright (分かりました)」を使うということが確認できた。

次は、「⑮了解」について以下の用例(15)を分析、考察する。

(15)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B: はい/うん

調査によると「⑮了解」では目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。英語では、肯定・否定応答表現を使わず、「alright (了解)」が使われることが分かった。

次は、「⑯共感」に関して、以下の用例(16)を分析、考察した。

(16)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

△yeah/uh - huh

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ日本語では、否定応答表現で応答することができないという結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。英語では日本語と同様に肯定応答表現しか使われなくて、表現としては「yeah/uh - huh」が使われることが確認できたが、「yeah」を使うと失礼な印象を与え、不自然である。「uh - huh」は自然で、下がるイントネーションでなければならない。

次は、「⑰打ち切り」では両言語の使用について以下の用例(17)を分析、考察する。

(17) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: △\*はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)

△\*yeah

「⑰打ち切り」に関して日本語では、親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はいはい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。英語においても日本語と似た傾向が見られたが、英語では、「yeah」を「yeah yeah yeah」のように三回か、「yeah yeah」のように二回使われるが、日本語とは異なって三回がより自然という結果が導き出された。また、日本語と同様に「yeah yeah yeah ,we are tired of hearing about that (はいはい、それはもう聞き飽きたよ)」という聞き手の「もう聞きたくない」という表現と一緒に使われることもできるということが確認できた。英語では「yes」が使われないため、学習者には「⑰打ち切り」では、「はいはい」のみが可能で「ええええ」「うんうん」は使われいということをしかり教える必要がある。

Aパターン、Bパターン、Cパターンで取り上げた用法項目に比べ、本節での「⑱許可」「⑲承諾」「⑳命令応答」「㉑了解」「㉒共感」「㉓打ち切り」は、日本語と似ている点もある一方似ていない点もあり、学習者には容易に覚えにくく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきであると思われる。

## 9.6 本章のまとめ

以上、日本語と英語の肯定および否定応答表現の用法について考察したことによって、それらの用法の特徴が分かった。

1. 日本語においても英語においても17用法項目のうち「①真偽」と「②確認応答」では、肯定・否定応答表現のいずれも使われること確認できた。同じ傾向が韓国でも見られた。なお、第6章で見たシンハラ語は「①真偽」と「②確認応答」では、肯定・否定応答表現の一つのみが使われ、限られた様子を示した。
2. 「③患者応答」「⑤独話あいづち」「⑦情報提示」「⑨呼びかけ応答」「⑩点呼」に関しては、英語もシンハラ語も同じ使用傾向が見られた。
3. 日本語においても英語においても「はい/ええ/うん」と「yes/yeah/uh - huh」等の違いは丁寧さのみではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが今回の調査結果から確認できた。例えば、「打ち切り」では、日本語は「はい」のみ、英語は「yeah」のみが使われることを挙げられる。



4. Cパターン、Dパターンで取り上げた、「⑩点呼」「⑫許可」「⑬承諾」「⑭命令応答」「⑮了解」という項目に関しては、英語圏の学習者に教える際注意をすべきであると考えられる。

5. 英語の「yes/yeah」、シンハラ語の「ou/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。日本語では「はい」の使用範囲が英語の「yes」よりも広いため、多くの日本語教科書における「はい」は英語の「yes」の意味であるという説明は決して望ましいものではない。

本章では、日本語と英語を17用法項目での使用について対照分析を行った。特に学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということに着目して分析、考察した。その結果により、指導者に指導を行う際にそれらの練習に重点を置き、様々な指導法を利用し、より効率的に習得させることができると思われる。次章では、日本語とスペイン語の肯定および否定応答表現の用法について対照分析を行う。

## 第10章 日本語とスペイン語の肯定・否定応答表現の対照

### 10.1 はじめに

本章では、日本語とスペイン語<sup>20</sup>の肯定・否定応答表現の用法について考察する。具体的に、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当するスペイン語の「sí」「ajá」「ujum」と日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当するスペイン語の「no」「mm」の使用について比較し、それらの類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。スペイン語を選んだ理由は、近年スペイン人の日本語学習者が急増しているからである<sup>21</sup>。

### 10.2 先行研究

三好（2014）は、「sí」には「そのように、このように」という本来的な意味を持っていて、肯定・同意・承諾などの機能を果しているため、相手の発話の一応の文末でしか応答できないことになり、相手の発話の途中でsíを挟むことは難しいと述べ、話し相手の肯定応答詞としてsíは、基本的に「はい」に対応すると指摘している。

### 10.3 調査概要

第6章で取り上げた、17の用法項目を基に日本語とスペイン語の応答表現の比較、分析を行う。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」である。応答表現の用法においてはスペイン語独自の用法も考えられるが、この17項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、スペイン語独特の用法に関しては対象外とした。また、「点呼」「電話応答」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられない。しかし、スペイン語では項目ごとに使う表現が異なるため、別々の項目として扱った。

---

<sup>20</sup> スペイン語は、インドヨーロッパ語族のイタリック語派に属する。

<sup>21</sup> 国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」によると、機関数（59）、教師数（145）、学習者数（4,938）となっており、3年前の2009年度調査と比べると、機関数は微増にとどまっているが、教師数、学習者数は堅調に増加している。

[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_excerpt\\_j.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf) より。

調査の用例は第6章で取り上げた用例と同じものである。日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい例文作成に臨んだ。応答表現の使用可否判定については、日本語母語話者15名(20代~30代)、とスペイン語母語話者3名(20代~50代)に協力してもらい、2015年2月から8月にかけて調査を行った。

#### 10.4 調査の結果および考察

日本語の応答表現は17項目に分類できたが、スペイン語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当するスペイン語の応答表現がある場合」と「日本語に相当するスペイン語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。それで、スペイン語の日本語学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということを考える必要がある。調査結果によると、日本語の肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかったため、肯定応答表現を中心に次の四つのパターンを取り上げ分析、考察する。

1. 日本語・スペイン語ともに肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合と日本語は「はい」、スペイン語は「sí」のみが使われる場合。

スペイン語学習者にとって覚えやすく、誤用が起りにくいと考えられる。(以下Aパターンとし、10.4.1で取り上げる)

2. 日本語・スペイン語ともに肯定・否定のどちらか一方のみ使われるが、日本語では、肯定応答表現においていずれも使われる。スペイン語では、いずれかのみ使われる場合。

(以下Bパターンとし、10.4.2で取り上げる)

3. 日本語は「はい」のみが使われ、スペイン語では応答表現が使われない場合。

母語のスペイン語では、応答表現が使われないが、日本語では、「はい」のみが使われるため、誤用が起る可能性があると考えられる。(以下Cパターンとし、10.4.3で取り上げる)

4. 日本語では例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合と日本語は「はい」のみでスペイン語では肯定応答表現のいずれも使われる場合。(以下Dパターンとし、10.4.4で取り上げる)

用例は以下のように示す。

A : 日本語による質問または会話例  
 B : 発話 A に対する応答表現の使用形式 (日本語)  
 発話 A に対する応答表現の使用形式 (スペイン語)

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

10.4.1 A パターンの場合

本節では日本語・スペイン語ともに肯定・否定応答表現がいずれも使われる「①真偽」「②確認応答」と日本語は「はい」、スペイン語は「sí」のみが使われる「③情報提示」「④電話応答」「⑤患者応答」の用法項目を分析、考察する。以下の表 38 は、それを具体的に示したものである。

表 38 : A パターンの場合

用法	肯定						否定					
	日本語			スペイン語			日本語			スペイン語		
	はい	ええ	うん	sí	ajá	ujum	いいえ	いえ	いや	ううん	no	mm
①真偽	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
②確認応答	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
③情報提示	△	X	X	△	X	X	X	X	X	X	X	X
④電話応答	○	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X
⑤患者応答	○	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

上記の表 38 の用法項目を中心に以下では、日本語とスペイン語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「①真偽」における日本語とスペイン語の応答表現の使用について以下、用例(1)を分析、考察する。

- (1)A : あなたは学生ですか。
- B : はい/ええ/うん // いいえ/△いえ/△いや/ううん

sí/ajá/ujum // no/mm

本調査では、「①真偽」に関して日本語では「はい」「ええ」「うん」のいずれも肯定応答として解釈され、相手・場面等により使い分けられることが分かった。日本語と同様にスペイン語においても肯定応答として「sí/ajá/ujum」のいずれも使われることが確認できた。「sí」は「ajá/ujum」より丁寧な応答表現であり一般的には目上の人にも目下の人にも使われる。否定応答表現として日本語では、「いいえ/いえ/いや/うん」のいずれも使われるという結果が得られた。「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。スペイン語では、肯定応答表現と同様に否定応答表現においても「no/mm」のいずれも使われることが分かった。「no」はより丁寧な否定応答表現であり、目上の人にも目下の人にも使われることが確認できた。

次は、「②確認応答」での両言語の使用有無について以下用例(2)を分析、考察する。

(2)A: 今日はフランス料理ですね。

B: はい/ええ/うん // いいえ/△いえ/△いや/うん

sí/ajá/ujum // no/mm

本調査では、日本語は肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」と否定応答表現として「いいえ」「いえ」「いや」「うん」のいずれも使われることが確認できた。なお、「いえ」と「いや」を使う場合「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が続かないと不自然という結果が得られた。スペイン語では、「①真偽」と同様に肯定応答表現として「sí」「ajá」「ujum」と否定応答表現として「no」「mm」のいずれも使われることが確認できた。

次は、「③情報提示」に関しては、以下の用例(3)を分析、考察した。

(3)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

△Sí, esta aquí (はい、ここにあるよ)

本調査によると日本語では、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。この場合の「はい」は質問を受け取ったという意志を示しているといえる。スペイン語においても全く同じ傾向が見られた。スペイン語では、「Sí, esta aquí (はい、ここにあるよ)」か「Sí」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。

次は、「④電話応答」における両言語の応答表現の使用について以下の用例(4)を分析、

考察する。

(4)A: もしもし。

B: はい

Sí, aló (はい、もしもし)

「④電話応答」では、日本語は肯定応答表現のうち「はい」、スペイン語は「Sí」のみが使われることが確認できた。

次は例えば、病院の受付で名前を呼ばれる「⑤患者応答」について以下の用例(5)を分析、考察する。

(5)A: 田中さん

B: はい

sí

「⑤患者応答」では、日本語は肯定応答表現のうち「はい」、スペイン語は「sí」しか使われないという結果が得られた。

本節での分析、考察結果により「①真偽」「②確認応答」「③情報提示」「④電話応答」「⑤患者応答」では、日本語とスペイン語の応答表現の使用は似ているため、スペイン語を母語とする学習者にとっては、誤用が起こりにくい用法項目だと考えられる。「①真偽」「②確認応答」の否定応答表現においては日本語では、いずれも使われるが「いえ/いや」は「いえ/いや+コメント」とするほうが自然であることを覚えておくと思われ。

#### 10.4.2 Bパターンの場合

本節では、日本語・スペイン語ともに肯定・否定のどちらか一方のみが使われる「⑥共感」「⑦謙遜」の場合と日本語では、肯定応答表現においていずれも使われるが、スペイン語では、いずれかのみ使われる場合の「⑧あいづち」「⑨独話あいづち」の用法項目を分析、考察する。以下の表 39 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 39 : B パターンの場合

用法	肯定						否定					
	日本語			スペイン語			日本語			スペイン語		
	はい	ええ	うん	sí	ajá	ujum	いいえ	いえ	いや	ううん	no	mm
⑥共感	△	△	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×
⑦謙遜	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△
⑧あいづち	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×
⑨独話あいづち	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 39 を中心に日本語とスペイン語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

次は、「⑥共感」に関しては、以下の用例(6)を分析、考察した。

(6)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

△sí/△ajá/△ujum、Cierito (本当だ)

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ日本語では、否定応答表現で応答することは不自然という結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然ということが分かった。スペイン語においても日本語と全く似た傾向が見られた。

次は、「⑦謙遜」について以下の用例(7)を分析考察する。

(7)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

△no/△mm, esta bien (いいえ、大丈夫ですよ)

「⑦謙遜」では、日本語で「いえ」「いいえ」「いや」「ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出された。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使われることもできる。スペイン語では、「esta bien (大丈夫ですよ)」のみか「no/mm esta bien (いいえ、大丈夫ですよ)」のように使われることが分かった。スペイン語では、日本語とは異なって「no」「mm」を使う際、「esta bien」のような意味を表す表現がないと不自然ということが確認できた。

「⑧あいづち」とは相手の話を聞いていることを示し、以下用例(8)を分析、考察する。

(8)A: 昨日さあ、

B: はい/ええ/うん

ajá

A: 学会に行ってきたさあ

日本語では、「⑧あいづち」に関しては否定応答表現が現れず、「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われることが確認できた。スペイン語においては肯定応答表現の「ajá」しか使われないという結果が得られた。

次は、自分自身の発話に対するあいづちの「⑨独話あいづち」での両言語の使用有無について以下の用例(9)を分析、考察した。

(9)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

ajá

「⑨独話あいづち」では、日本語は肯定応答表現のいずれも使われ、スペイン語は「⑧あいづち」同様に肯定応答表現の「ajá」のみが使われるという結果が得られた。

本節での分析、考察結果により「⑥共感」「⑦謙遜」「⑧あいづち」「⑨独話あいづち」では、日本語は肯定・否定のどちらか一方の応答表現がいずれも使われるということを覚えれば、誤用が起こりにくいと考えられる。

#### 10.4.3 Cパターンの場合

本節では、日本語は肯定応答表現のうち「はい」のみが使われ、スペイン語では応答表現が使われない場合の「⑩点呼」「⑪応答の応答」の用法項目を分析、考察する。以下の表40は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 40 : C パターンの場合



	肯定						否定					
	日本語			スペイン語			日本語			スペイン語		
用法	はい	ええ	うん	sí	ajá	ujum	いいえ	いえ	いや	ううん	no	mm
⑩点呼	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑪応答の応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 40 を中心に日本語とスペイン語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑩点呼」とは例えば、教室で出席をとる場合で、以下の用例 (10) を見ていく。

(10)A: 吉田くん。

B: はい

ここでは日本語は、「はい」しか使われないという結果が得られた。スペイン語では、肯定・否定応答表現を使わず、「Presente (います)」で応答するということが分かった。そのため、スペイン語を母語とする学習者は「⑩点呼」では、「はい」の代わりに「います」と返答する恐れがある一方「はい」の代わりに親しい相手に対して「ええ」「うん」も可能と考える恐れがある。そのため、友人同士で出席をとるにしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

次は、「⑪応答の応答」について見てみる。「⑪応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するもので、以下の用例(11)を分析、考察する。

(11)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい

「⑪応答の応答」では、日本語は「はい」のみが使われるという結果が得られた。スペイン語では日本語と違って「okay」か、質問の返答に対して新たに応答しないで、次に続くということが分かった。

本節での「⑩点呼」「⑪応答の応答」では、スペイン語の使い方が日本語と異なっているため、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきであると思われる。

#### 10.4.4 Dパターンの場合

本節では、日本語は例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる「⑫許可」「⑬承認」「⑭命令応答」「⑮了解」と日本語は「はい」のみでスペイン語では肯定応答表現がいずれも使われる「⑯呼びかけ応答」「⑰打ち切り」という用法項目を分析、考察する。以下の表 41 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 41 : D パターンの場合

用法	肯定						否定					
	日本語			スペイン語			日本語			スペイン語		
	はい	ええ	うん	sí	ajá	ujum	いいえ	いえ	いや	ううん	no	mm
⑫許可	○	△	○	○	○	○	×	×	△	×	○	○
⑬承認	○	△	△	△	○	○	×	×	△	×	△	△
⑭命令応答	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑮了解	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑯呼びかけ応答	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
⑰打ち切り	△*	×	×	△*	○	○	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 △\*=二回使う。例えば、「はいはい」 ×=使えない)

以下では表 41 を中心に日本語とスペイン語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑫許可」に対する両言語の使用について以下用例(12)を考察する。

(12)A : あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B : はい/△ええ/うん // △いや  
sí/ajá/ujum // no/mm

「⑫許可」では、肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続かないと不自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。否定応答表現として日本語では、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使われないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。スペイン語では、肯定応答表

現の「sí」「ajá」「ujum」と否定応答表現の「no」「mm」のいずれも使われることが分かった。

次は、「⑬承諾」に対する両言語の使用について以下用例(13)を考察した。

(13)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/△ええ/△うん //△いや  
△sí/ajá/ujum // △no/△mm

「⑬承諾」では、日本語は肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のような後文が続く。なお、通常「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。スペイン語では、肯定応答表現の「sí」「ajá」「ujum」と否定応答表現の「no」「mm」のいずれも使われることが分かった。日本語の「ええ/うん」と同様に「sí, como no (はい、どうぞ)」と「いや」と同様に「no/mm, no puedo (いいえ、できません)」のように後文が続くということが確認できた。

次は、「⑭命令応答」について以下の用例(14)を分析、考察する。

(14)A: ちゃんと宿題をやりなさい。

B: はい/うん

本調査によると、日本語では、肯定応答表現の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。なお、「はい」は上下関係、親疎関係を問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。命令に対する返答としてスペイン語は肯定・否定応答表現を使わず、「okay (分かりました)」を使うということが確認できた。

次は、「⑮了解」について以下の用例(15)を分析、考察する。

(15)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B: はい/うん

調査によると「⑮了解」では目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。スペイン語では、肯定・否定応答表現を使わず、「⑭命令応答」と同様に「okay (分かりました)」が使われることが分かった。

次は、「⑯呼びかけ応答」について以下の用例(16)を分析、考察する。

(16)A : ( 訪問者) すみません。

B: はい

sí/ajá/ujum

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、日本語は肯定応答表現のうち「はい」のみが使われることが分かった。スペイン語では、肯定応答表現の「sí」「ajá」「ujum」いずれも使われることが確認できた。

次は、「⑰打ち切り」では両言語の使用について以下の用例(17)を分析、考察する。

(17) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: △\*はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)

△\*sí/ajá/ujum

「⑰打ち切り」に関して日本語では、親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はいはい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。スペイン語では、「sí」を「sí sí」のように二回使われるが、「ajá」「ujum」は一回使われるということが分かった。

Aパターン、Bパターン、Cパターンで取り上げた用法項目に比べ、本節での「⑱許可」「⑲承諾」「⑳命令応答」「㉑了解」「㉒呼びかけ応答」「㉓打ち切り」は、日本語と似ている点もある一方似ていない点もあり、スペイン語を母語とする学習者には容易に覚えにくく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきであると思われる。

## 10.5 本章のまとめ

以上、日本語とスペイン語の肯定・否定応答表現の用法について考察したことによって、それらの用法の類似点と相違点を以下にまとめる。

1. 日本語においてもスペイン語においても17用法項目のうち「①真偽」と「②確認応答」では、肯定・否定応答表現のいずれも使われること確認できた。同じ傾向が韓国と英語でも見られた。なお、第6章で見たシンハラ語は「①真偽」と「②確認応答」では、肯定・否定応答表現の一つのみが使われ、限られた様子を示した。
2. 「⑤患者応答」「⑩点呼」では、インドヨーロッパ語族のシンハラ語にも英語にもスペイン語にも同じ使用傾向が見られた。
3. 日本語においてもスペイン語においても「はい/ええ/うん」と「sí/ajá/ujum」等の違いは丁寧さのみではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではな

ということが今回の調査結果から確認できた。例えば「電話応答」と「患者応答」では、日本語は肯定応答表現のうち「はい」、スペイン語は「Si」のみが使われることを挙げられる。

4. Cパターン、Dパターンで取り上げた特に、「⑩点呼」「⑭命令応答」「⑮了解」「⑯呼びかけ応答」「⑰打ち切り」という項目に関しては、スペイン語を母語とする学習者に教える際注意をすべきであると考えられる。

本章では、日本語とスペイン語を17用法項目での使用について対照分析を行った。特に学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということに着目して分析、考察した。次章では、日本語と中国語の肯定・否定応答表現の用法について対照分析を行う。

## 第 11 章 日本語と中国語の肯定・否定応答表現の対照

### 11.1 はじめに

第 7 章から第 10 章まで日本語と朝鮮語族の韓国語、アルタイ語族のモンゴル語、インドヨーロッパ語族の英語・スペイン語の応答表現の用法の対照分析を行った結果、どの語族に属する言語から見ても日本語の「はい」の使用範囲が広いということが分かった。本章では、日本語とシナ・チベット語族の中国語の肯定・否定応答表現の用法について対照分析を行い、さらに日本語の応答表現の特異性について見ていく。具体的には、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当する中国語の「好 (hao)」「是的 (shide)」「嗯 (en)」、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当する中国語の「不是 (bushi)」「不 (bu)」の使い分けについて比較し、それらの類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。中国語を選んだ理由は、中国は世界で 1 番目に日本語学習者が多い国だからである<sup>22</sup>。

### 11.2 先行研究

日本語の「そうです」に相当する中国語の表現について考察した砂岡 (1995) は、中国語の「对 (dui)」は、「その通り」という評価、「是 (shi)」は「承認」を表すと指摘している。黄 (2002) は、日本語と比較しながら中国語の肯定応答表現の「对 (dui)」「是 (shi)」の意味分析を考察し、砂岡 (1995) で指摘されている「“对 dui” は、評価的な意味を表すというのはその通りだが、“是 shi” は「承認」というよりも「同調」という方がふさわしい」と述べている。

### 11.3 調査概要

第 6 章で取り上げた、17 の用法項目を基に、日本語と中国語の応答表現の比較分析を行う。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」である。応答表現の用法においては中国語独自の用法も考えられるが、この 17 項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、中国語独特の

<sup>22</sup>国際交流基金「2012 年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_excerpt\\_j.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf) より。

用法に関しては対象外とした。また、「点呼」「電話応答」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられない。しかし、中国語では項目ごとに使う表現が異なるため、別々の項目として扱った。

調査の用例は第6章で取り上げた用例と同じものである。日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい例文作成に臨んだ。応答表現の使用可否判定については、日本語母語話者15名(20代～30代)、と中国語母語話者5名(20代～30代)に協力してもらい、2015年2月から8月にかけて調査を行った。

#### 11.4 調査の結果および考察

日本語の応答表現は17項目に分類できたが、中国語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当する中国語の応答表現がある場合」と「日本語に相当する中国語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。そのため、中国語の日本語学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということを考える必要がある。調査結果によると、日本語の肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかったため、日本語の肯定応答表現を中心に次の四つのパターンを取り上げ分析、考察する。

##### 1. 日本語では、肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合

母語の中国語とは違っていてもいずれも可能ということ覚えやすく、誤用が起りにくいと考えられる。(以下Aパターンとし、11.4.1で取り上げる)

##### 2. 日本語では、肯定応答表現のいずれも使われるが、中国語では、いずれかのみ使われる場合と日本語では否定表現はいずれも使われ、中国語では、いずれかのみ使われる場合。

日本語では、肯定・否定応答表現どちらか一方のいずれも可能ということ覚えれば、誤用が起りにくいと考えられる。(以下Bパターンとし、11.4.2で取り上げる)

##### 3. 日本語は「はい」のみが使われ、中国語では応答表現が使われない場合。

母語の中国語では、応答表現が使われないが、日本語では、「はい」のみが使われるため、誤用が起る可能性があると考えられる。(以下Cパターンとし、11.4.3で取り上げる)

##### 4. 日本語では例えば「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合と「はい」を二回使われる場合。(以下Dパターンとし、11.4.4で取り上げる)

用例は以下のように示す。

A : 日本語による質問または会話例  
 B : 発話 A に対する応答表現の使用形式 (日本語)  
     発話 A に対する応答表現の使用形式 (中国語)  
     中国語応答表現のローマ字表記

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

11.4.1 A パターンの場合

本節では日本語の肯定・否定応答表現がいずれも使われる「①真偽」と「②確認応答」の用法項目を分析、考察する。以下の表 42 は、それを具体的に示したものである。

表 42 : A パターンの場合

用法	肯定						否定					
	日本語			中国語			日本語			中国語		
	はい	ええ	うん	hao	shide	en	いいえ	いえ	いや	ううん	bushi	bu
①真偽	○	○	○	×	○	○	○	△	△	○	○	○
②確認応答	○	○	○	×	○	○	○	△	△	○	○	○

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

上記の表 42 の用法項目を中心に以下では、日本語と中国語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「①真偽」で日本語と中国語応答表現の使用について以下、用例(1)を分析、考察する。

(1)A : あなたは学生ですか。

B : はい/ええ/うん // いいえ/△いえ/△いや/ううん  
     是的/嗯 // 不是/不  
     Shide/en // bushi/bu

本調査では、「①真偽」に関しては、「はい」「ええ」「うん」のいずれも肯定応答として



解釈され、相手・場面等により使い分けられることが調査結果から確認できた。日本語では肯定応答表現のいずれも使われるが、中国語では肯定応答表現の「shide」「en」しか使われないという結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。中国語では、「bushi」「bu」のいずれも使われることが分かった。

次は、「②確認応答」での両言語の使用有無について以下用例(2)を分析、考察する。

(2)A：今日はフランス料理ですね。

B：はい/ええ/うん //いいえ/△いえ/△いや/ううん

是的/嗯 //不是/不

Shide/en //bushi/bu

本調査では、「今日はフランス料理かどうか」を確認している発話に対して、肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われることが確認できた。「今日はフランス料理ではない」という意味を示す否定応答表現として「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「いえ」と「いや」を使う場合確認された情報を間違っているということだけではなく、「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が次ぐとより自然という結果が得られた。日本語では肯定・否定表現形式のいずれも使われるが、中国語では、「真偽」と同様に肯定応答としては「shide」「en」、否定応答表現として「bushi」「bu」が使われることが分かった。

本節での分析、結果により「真偽」と「確認応答」では、日本語・中国語の否定応答表現の使用は似ている。なお、日本語ではいずれも使われるが「いえ/いや」は「いえ/いや+コメント」とするほうが自然であることを覚えておくと思われる。

#### 11.4.2 Bパターンの場合

本節では、日本語では、肯定応答表現のいずれも使われるが、中国語では、いずれかのみ使われる場合と日本語では否定応答表現はいずれも使われ、中国語では、いずれかのみ使われる場合の「③あいづち」「④独話あいづち」「⑤謙遜」という項目を分析、考察する。以下の表 43 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 43 : B パターンの場合

用法	肯定						否定					
	日本語			中国語			日本語			中国語		
	はい	ええ	うん	hao	shide	en	いいえ	いえ	いや	ううん	bushi	bu
③あいづち	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×
④独話あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑤謙遜	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	○

(○=使える ×=使えない)

上記の表43の用法項目を中心に以下では、日本語と中国語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「③あいづち」とは相手の話を聞いていることを示し、以下用例(3)分析、考察する。

(3)A: 昨日さあ、

B: はい。/ええ。/うん。

    嗯 (en)

A: 学会に行ってきたさあ

日本語では、話し手の話を聞いていることを示す「③あいづち」に関しては否定応答表現が現れず、「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われるという結果が導き出された。中国語においては「en」しか使われないという結果が得られた。日本語の「はい」「ええ」「うん」のいずれも応答表現やあいづちとしても用いられ、ある一つの形式がいくつかの機能を持つと同様に中国語の「en」にもそういう機能があることを調査結果から明らかになった。

次は、自分自身の発話に対するあいづちの「④独話あいづち」での両言語の使用有無について以下の用例(4)を分析、考察した。

(4)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

「④独話あいづち」では、日本語は肯定応答表現形式のいずれも使われるが、中国語では、話し手の発話に対してはあいづちが使われるが、自分自身の発話に対してはあいづちが使われないことが分かった。

次は、「⑤謙遜」について以下の用例(5)を分析考察する。

(5)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

不

bu

ここでは、「ありがとうございました」に対する答えとして「いいえ」「いえ」「いや」「うん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出せた。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使われることもできる。中国語では、「bu」のみか「bu keqi (いいえ、とんでもないです)」のように使われ、日本語と同じ傾向が見られた。

本節での分析、考察結果により「③あいづち」「④独話あいづち」「⑤謙遜」では、母語の中国語と違って、日本語は肯定か否定応答表現のいずれも使われるということを覚えれば、誤用が起りにくいと考えられる。

#### 11.4.3 Cパターンの場合

本節では、日本語は「はい」のみが使われ、中国語では応答表現が使われない場合「⑥情報提示」「⑦応答の応答」「⑧呼びかけ応答」「⑨点呼」「⑩電話応答」の項目を分析、考察する。以下の表 44 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 44 : C パターンの場合

	肯定						否定					
	日本語			中国語			日本語				中国語	
用法	はい	ええ	うん	hao	shide	en	いいえ	いえ	いや	うん	bushi	bu
⑥情報提示	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑦応答の応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑧呼びかけ応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑨点呼	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑩電話応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 44 を中心に日本語と中国語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑥情報提示」に関しては、以下の用例(6)を分析、考察した。

(6)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

本調査によると日本語では、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。この場合の「はい」は質問を受け取ったという意志を示しているといえる。中国語では、応答表現を使わず「在那里za inali (あそこです)」という情報だけを伝える傾向が見られた。

次は、「⑦応答の応答」について見てみる。「⑦応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するもので、以下の用例(7)を分析、考察する。

(7)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい

「⑦応答の応答」では、日本語は「はい」のみが使われるという結果が導き出せた。中国語では日本語と違って、質問の返答に対して新たに応答しないで、次に続くということが分かった。

次は、「⑧呼びかけ応答」について以下、用例(8)を分析、考察する。

(8)A : (訪問者) すみません。

B: はい

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、日本語は「はい」のみが使われることが分かった。中国語は、肯定・否定応答表現を使わず、「qing jin (どうぞ)」などのなぜ呼ばれたかという用件について何うということが分かった。

次は「⑨点呼」で、「⑨点呼」は例えば教室で出席をとる場合で、以下の用例(9)を見ていく。

(9)A: 吉田くん。

B: はい

ここでは日本語は、「はい」しか使われないという結果が得られた。中国では、肯定・否定応答表現を使わず、「到 dao (来た)」で返答するということが分かった。点呼の答えとして日本語の「はい」は、「はい、います/います」の省略であると言える。中国語の肯定応答表現の「hao/en」には「はい」のような省略語として使われる働き(機能)がないため、「出席か欠席」に注目し、「dao (来た)」と応答すると考えられる。そのため、中国語を母語とする学習者は「⑨点呼」では、「はい」の代わりに「来た」と返答する恐れがある

一方「はい」の代わりに親しい相手に対して「ええ」「うん」も可能と考える恐れがある。そのため、友人同士で出席をとるにしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

次は、「⑩電話応答」における両言語の応答表現の使用について以下の用例(10)を分析、考察する。

(10)A: もしもし。

B: はい

「⑩電話応答」では、日本語は「はい」のみが使われる。中国語では肯定・否定応答表現を使わず、「喂，你好wei, nihao (もしもし、こんにちは)」のみが使われるという結果が得られた。

本節での「⑥情報提示」「⑦応答の応答」「⑧呼びかけ応答」「⑨点呼」「⑩電話応答」では、中国語の使い方が日本語と異なっているため、学習者にとって使用が難しく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に十分注意すべきであると思われる。

#### 11.4.4 Dパターンの場合

本節では、日本語は例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合の「⑪許可」「⑫承諾」「⑬命令応答」「⑭了解」「⑮共感」と「はい」を二回使われる「⑯打ち切り」と「はい」のみが使われる「⑰患者応答」という用法項目での中国語の応答表現の使用を分析、考察する。以下の表 45 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 45 : D パターンの場合

用法	肯定						否定					
	日本語			中国語			日本語			中国語		
	はい	ええ	うん	hao	shide	en	いいえ	いえ	いや	ううん	bushi	bu
⑪許可	○	△	○	○	×	○	×	×	△	×	×	×
⑫承諾	○	△	△	○	×	○	×	×	△	×	×	○
⑬命令応答	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○
⑭了解	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×
⑮共感	△	△	△	×	○	○	×	×	×	×	×	○
⑯打ち切り	*△	×	×	*△	*△	*△	×	×	×	×	×	×
⑰患者応答	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 △\*=二回使う。例えば、「はいはい」 ×=使えない)

以下では表 45 を中心に日本語と中国語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑩許可」に対する両言語の使用について以下用例(11)を考察する。

(11)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B: はい/△ええ/うん // △いや

好/嗯

hao/en

その結果、「許可」では肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われることが分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続くとより自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。中国語では、肯定応答表現として「hao」「en」が使われることが分かった。否定応答表現としては、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使えないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。中国語では、否定応答表現を使わず、「bu keyi(だめです)」が使われることが確認できた。

次は、「⑪承諾」に対する両言語の使用について以下用例(12)を考察した。

(12)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/△ええ/△うん //△いや

好/嗯 //不

hao/en // bu

「⑪承諾」に関しては肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。中国語では、「許可」と同様に「hao」「en」が使われることが分かった。否定応答表現として「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のように後文が続く。なお、通常「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。中国語では、否定応答表現として「bu」しか使われないことが分かった。

次は、「⑫命令応答」について以下の用例(13)を分析、考察する。

(13)A: ちゃんと宿題やりなさい。

B: はい/うん

好/嗯      /不  
hao/en      /bu

本調査によると、「命令応答」に関しては肯定応答の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。なお、「はい」は上下関係、親疎関係に問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。中国語では、「命令応答」の肯定応答表現として「許可」「承諾」と同様に「hao」「en」が使われることが分かった。また、否定応答表現として「bu」も用いられることが確認できた。

次は、「⑭了解」について以下の用例(14)を分析、考察する。

(14)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B: はい/うん

好/嗯

hao/en

本調査によると、ここでは目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。「了解」に関しては中国語では、「許可」「承諾」「命令応答」と同様に「hao」「en」が使われることが分かった。

次は、「⑮共感」に関しては、以下の用例(15)を分析、考察した。

(15)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

是的/嗯      //不

Shide/en    //bu

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ否定応答表現で応答するのは不自然という結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。「共感」に関しては、中国語では、「shide」「en」が使われることが分かった。「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、日本語では否定応答表現で返答するのは不自然だが、中国語では否定応答表現の「bu」が用いられるという結果が得られた。

次は、「⑯打ち切り」では両言語の使用について以下の用例(16)を分析、考察する。

(16)A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: \*△はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)  
\*△是的是的/\*△好好/\*△嗯嗯 (已经听腻了)  
shide shide/haohao/enen (yijing tingnile)

「打ち切り」に関して親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。中国語においても日本語と似た傾向が見られたが、中国語では、「hao」「shide」「enen」のいずれも使われ、「shideshide」「haohao」「enen」のように二回続けて使うか、「shide shide、yijing tingnile (それはもう聞き飽きたよ)」のように聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われるということが確認できた。

次は、「⑰患者応答」で例えば、病院の受付で名前を呼ばれる場合で、以下の用例(17)を分析、考察する。

(17)A: 田中さん

B: はい。  
是的是的/嗯  
shide/en

ここでは、日本語は「はい」、中国語は「shide/en」が使われるという結果が得られた。そのため、学習者は日本語の「ええ」「うん」も可能と思う可能性があるため、教える際注意する必要がある。

Aパターン、Bパターン、Cパターンで取り上げた用法項目に比べ、本節での「⑪許可」「⑫承諾」「⑬命令応答」などは、日本語と似ている点もある一方似ていない点もあり、中国語を母語とする学習者には容易に覚えにくく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきであると思われる。

## 11.5 本章のまとめ

以上、日本語と中国語の肯定・否定応答表現の用法について、特に学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということに着目して考察したことによって、明らかになったことを以下にまとめる。

1. 日本語においても中国語においても「はい/ええ/うん」と「hao/shide/en」等の違いは



丁寧さのみの違いではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。例えば、「了解」では、日本語は「はい」「うん」、中国語は「hao」「en」のみが使われることを挙げられる。

2. 中国語には「④独話あいづち」「⑥情報提示」「⑦応答の応答」「⑧呼びかけ応答」「⑨点呼」「⑩電話応答」という項目では、日本語に相当する中国語の応答表現がないため、これらの項目に関しては、中国語を母語とする学習者に教える際注意をすべきであると考えられる。

3. 「④独話あいづち」「⑥情報提示」「⑧呼びかけ応答」「⑨点呼」において、シンハラ語にも英語にも中国にも同じ使用傾向が見られた。

4. 中国語の「hao/shide」、シンハラ語の「ou/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。

本章では、日本語と中国語の応答表現の比較分析を行った。、次章では、日本語とインドネシア語の肯定および否定応答表現の用法について対照、分析を行う。

## 第12章 日本語とインドネシア語の肯定・否定応答表現の対照

### 12.1 はじめに

本章では、日本語とインドネシア語<sup>23</sup>の肯定および否定応答表現の用法について考察する。具体的には、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とそれらに相当するインドネシア語の「iya」「ya」、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とそれらに相当するインドネシア語の「tidak」「enggga」「gak」の使い分けを比較し、考察する。インドネシア語を選んだ理由は、近年インドネシア人日本語学習者が急増しており、インドネシアは世界で2番目に日本語学習者が多い国だからである<sup>24</sup>。

### 12.2 先行研究

日本語とインドネシア語のあいづちに関する研究はいくつかあるが、両言語の応答表現に着目した研究は管見のかぎり見当たらない。正保（1998）は小説の会話を対象とし、インドネシア語のあいづち語は話し手が発話を済ませた後に現れると主張している。

オキ、ディタ、アプリヤント（2015）は、日本語母語話者とインドネシア語母語話者の自然会話を基に、あいづちの頻度、タイミングの観点から分析し、インドネシア語では、話し手は発話の途中や終わりでポーズを置くことはしていたが、聞き手のあいづちを期待せず、次の発話に移行している傾向が見られたと述べている。

正保（1998）とオキ、ディタ、アプリヤント（2015）は、日本語とインドネシア語の応答表現には特別な注意を払っていない。今回、日本語とインドネシア語における応答表現を考察することにより、先述した日本語とシンハラ語・韓国語・モンゴル語・英語・スペイン語・中国語との考察から明らかになった事実とも比較できる。以下、12.3節からこれに関する具体的な研究方法について言及する。

### 12.3 調査概要

第6章で取り上げた、17の用法項目を基に日本語とインドネシア語の応答表現の比較分析を行う。具体的には、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話

<sup>23</sup> オーストロネシア語族に属する。

<sup>24</sup> 国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」[https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_excerpt\\_j.pdf](https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf) より。

応答」「患者応答」「応答の応答」である。応答表現の用法においてはインドネシア語独自の用法も考えられるが、この17項目はあくまでも日本語を基準に作成したものであるため、インドネシア語独特の用法に関しては対象外とした。また、「点呼」「電話応答」「患者応答」という三つの項目は「呼びかけ応答」というカテゴリーに含まれているが、日本語ではどの項目においても「はい」しか用いられない。しかし、インドネシア語では項目ごとに使う表現が異なるため、別々の項目として扱った。

調査の用例は第6章で取り上げた用例と同じものである。日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい例文作成に臨んだ。応答表現の使用可否判定については、日本語母語話者15名(20代~30代)、とインドネシア語母語話者3名(20代)に協力してもらい、2015年2月から8月にかけて調査を行った。

#### 12.4 調査の目的

以下の2点を明らかにすることを調査の目的とする。

- a. 日本語とインドネシア語の肯定および否定応答表現は17の用法項目のうち、どれがどのように使用されているか。
- b. 日本語とインドネシア語の肯定および否定応答表現では、どのような使用特徴があるのか。また、その特徴によって、日本語の応答表現の特筆すべき点がみられるか。

#### 12.5 調査の結果および考察

日本語の応答表現は17項目に分類できたが、インドネシア語の応答表現がすべて一対一で対応している訳ではなく、「日本語に相当するインドネシア語の応答表現がある場合」と「日本語に相当するインドネシア語の応答表現がない場合」があることが調査結果から確認できた。そのため、インドネシア人日本語学習者にとってどの項目に誤用が起りやすいかということを考える必要がある。調査結果によると、日本語の肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかったため、日本語の肯定応答表現を中心に形式の使用が多い順に次の四つのパターンを取り上げ分析、考察する。

1. 日本語・インドネシア語ともに、肯定応答表現のいずれも使われる場合。(以下Aパターンとし、12.5.1で取り上げる)
2. 日本語では、肯定応答表現のいずれも使われるが、インドネシア語では、いずれも使われない場合。(以下Bパターンとし、12.5.2で取り上げる)
3. 日本語の「はい」のみが使われ、インドネシア語では応答表現が使われない場合。

母語のインドネシア語では、応答表現が使われないが、日本語では、「はい」のみが使わ

れるため、誤用が起こる可能性があると考えられる。(以下Cパターンとし、12.5.3で取り上げる)

4. 日本語では例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合と日本語は「はい」のみで、インドネシア語は肯定応答表現のいずれも使われる場合と日本語は否定応答表現のいずれも使われ、インドネシア語では肯定応答表現のいずれも使われる場合。

この場合は、一番誤用が起こりやすいと考えられる。(以下Dパターンとし、12.5.4で取り上げる)

用例は以下のように示す。

A : 日本語による質問または会話例
B : 発話 A に対する応答表現の使用形式 (日本語)
発話 A に対する応答表現の使用形式 (インドネシア語)

さらに、それぞれの使用される応答表現の変異形を半角「/」で分け、肯定・否定を全角スラッシュ二つ「//」で分ける。また、応答表現のみでは不自然で後文が必要な表現には「△」をつける。表現を二回使う例えば「はいはい」は、「△\*」をつけて表示する。

### 12.5.1 A パターンの場合

本節では、日本語とインドネシア語の肯定応答表現のいずれも使われる「①真偽」「②確認応答」の項目について分析、考察する。以下の表 46 は、それを具体的に示したものである。

表 46 : A パターンの場合

	肯定					否定					
	日本語			インドネシア語		日本語				インドネシア語	
用法	はい	ええ	うん	iya	ya	いいえ	いえ	いや	ううん	tidak	engga
①真偽	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
②確認応答	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

上記の表 46 の用法項目を中心に以下では、日本語とインドネシア語応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「①真偽」とは物事が真か偽か尋ねるための真偽疑問文に対する応答表現の使用ができるかどうかのことで、以下の用例(1)を分析、考察した。

(1)A：あなたは学生ですか。

B：はい/ええ/うん //いいえ/△いえ/△いや/ううん  
iya/ya // tidak/engga/gak

本調査では、「真偽」に関して日本語では「はい」「ええ」「うん」のいずれも肯定応答として解釈され、相手・場面等により使い分けられることが分かった。日本語と同様にインドネシア語でも肯定応答表現として「iya」「ya」のいずれも使われることが確認できた。「iya」は、より丁寧な応答表現であり一般的には目上の人にも目下の人にも使われる。否定応答表現としては日本語では、「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。インドネシア語では日本語と同等に「tidak」「engga」「gak」のいずれも使われることが分かった。

次は、「②確認応答」での両言語の使用有無について以下用例(2)を見てみたい。

(2)A：今日はフランス料理ですね。

B：はい/ええ/うん //いいえ/△いえ/△いや/ううん  
iya/ya // tidak

本調査では、「今日はフランス料理かどうか」を確認している発話に対して、肯定応答表現として「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われることが確認できた。「今日はフランス料理ではない」という意味を示す否定応答表現として「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」のいずれも使われることが分かった。なお、「いえ」と「いや」を使う場合確認された情報を間違っているということだけではなく、「いえ/いや、今日は中華料理です」のような後文が続くとより自然という結果が得られた。上記のような「確認応答」では、目上の人に対して「ええ」が使われても失礼な印象を与えなく「はい」よりも「ええ」が使われやすいという日向(1980)と一致した結果が導き出された。インドネシア語では、「①真偽」と同様に肯定応答としては「iya」「ya」のいずれも使われることが確認できた。否定応答表現として「tidak」のみが使われることが分かった。また、「bukan(違う)」もよく使われると

いう結果が導き出した。

本節での分析、考察結果によると「①真偽」と「②確認応答」では、日本語でもインドネシア語でも、肯定応答表現のいずれも使われるため、学習者には覚えやすく、誤用が起こりにくいと考えられる。否定表現においても日本語では、いずれも使われるが「いえ/いや」は「いえ/いや+コメント」とするほうが自然であることを覚えておくと使いやすいと思われる。

### 12.5.2 Bパターンの場合

本節では、日本語では肯定応答表現形式のいずれも使われるが、インドネシア語でいずれも使われない場合の「③あいづち」「④独話あいづち」の二つの項目を分析、考察する。以下の表 47 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 47 : B パターンの場合

	肯定					否定					
	日本語			インドネシア語		日本語				インドネシア語	
用法	はい	ええ	うん	iya	ya	いいえ	いえ	いや	ううん	tidak	engga
③あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
④独話あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える ×=使えない)

以下では表 47 を中心に日本語とインドネシア語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「③あいづち」とは相手の話を聞いていることを示すものである。「③あいづち」については、以下用例(3)分析、考察する。

(3)A: 昨日さあ、

B: はい/ええ/うん

A: 学会に行ってきてさあ

日本語では、話し手の話を聞いていることを示す「③あいづち」に関しては否定応答表現が現れず、「はい」「ええ」「うん」のいずれも使われるという結果が導き出された。インドネシア語においては、頷きなどの頭の動きで会話を促すという結果が得られた。

次は、自分自身の発話に対するあいづちの「④独話あいづち」での両言語の使用有無について以下の用例(4)を分析、考察した。

(4)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

「④独話あいづち」では、先述した「③あいづち」と同様に日本語は肯定応答表現形式の「はい/ええ/うん」のいずれも使われるという結果が導き出した。インドネシア語では、話し手の発話に対しても自分自身の発話に対してもあいづちが使われなく、頷きなどの頭の動きで会話を促すことが分かった。Apriyanto, Okie (2011) では、インドネシア語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者の接触場面における日本語会話でのあいづちを分析した結果、インドネシア語を母語とする学習者があいづちをあまり打たないことで会話が進まないという問題や、内容を聞いていないあるいは分かっていないという誤解起こると述べている。

本節での分析、考察結果により「③あいづち」「④独話あいづち」では、母語のインドネシア語は、応答表現が使われないが、日本語は肯定応答表現のいずれも使われるということ覚えれば、誤用が起こりにくいと考えられる。

### 12.5.3 Cパターンの場合

本節では、日本語の「はい」のみが使われ、インドネシア語では応答表現が使われない「⑤情報提示」「⑥点呼」「⑦電話応答」「⑧応答の応答」の項目を分析、考察する。以下の表 48 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 48 : C パターンの場合

用法	肯定					否定					
	日本語			インドネシア語		日本語				インドネシア語	
	はい	ええ	うん	iya	ya	いいえ	いえ	いや	ううん	tidak	engga
⑤情報提示	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑥点呼	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑦電話応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑧応答の応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

以下では表 48 を中心に日本語とインドネシア語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑤情報提示」に関しては、以下の用例(5)を分析、考察した。

(5)A: 受付はどこですか。

B: △はい、あそこです。

本調査によるとここでは、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、又は「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。この場合の「はい」は質問を受け取ったという意志を示しているといえる。インドネシア語では、肯定・否定応答表現を使わず「disana (あそこです)」という情報だけを伝えることが確認できた。

次は例えば、教室で出席をとる場合の「⑥点呼」について用例(6)を見ていく。

(6)A: 吉田くん。

B: はい

本調査では日本語は「はい」のみ使われ、インドネシア語では肯定・否定応答表現を使わず、「hadir (います)」と返答するということが分かった。点呼の答えとして日本語の「はい」は、「はい、います/います」の省略であると言える。インドネシア語の肯定応答表現の「iya/ya」には「はい」のような省略語として使われる働き(機能)がないため「出席か欠席か」に注目し、「hadir (います)」と応答すると考えられる。

次は、「⑦電話応答」における両言語の応答表現の使用について以下の用例(7)を分析、考察する。

(7)A: もしもし。

B: はい

「⑦電話応答」では、日本語は「はい」のみが使われることが確認できた。インドネシア語では、肯定・否定応答表現を使わず、「halo (もしもし)」のみが使われるという結果が得られた。

次は、「⑧応答の応答」について見てみる。「⑧応答の応答」とは、聞き手の「はい」という答えを受けて更にそれに対して応答するもので、以下の用例(8)を分析、考察する。

(8)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい



「⑧応答の応答」では、日本語は「はい」のみが使われるという結果が導き出された。インドネシア語では、英語の「Okay」か返答に対して新たに応答しないで、次に続くということが分かった。

本節での分析、考察結果により、「⑤情報提示」「⑥点呼」「⑦電話応答」「⑧応答の応答」という項目では、日本語の「はい」に相当するインドネシア語の応答表現はないことが確認できた。従って、上記の用法項目においてインドネシア語を母語とする学習者に誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきである。なぜなら、例えば「⑥点呼」では、学習者は、「はい」の代わりに「います」と返答する恐れがある一方「はい」の代わりに親しい相手に対して「ええ」「うん」も可能と考える恐れがある。そのため、友人同士で出席をとるにしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

#### 12.5.4 Dパターンの場合

本節では、日本語は例えば、「ええ+コメント」、「はい」「うん」の二つのみ使われる「⑨共感」「⑩承諾」「⑪許可」「⑫命令応答」「⑬了解」場合と日本語は「はい」のみで、インドネシア語は肯定応答表現のいずれも使われる「⑭呼びかけ応答」「⑮患者応答」「⑯打ち切り」と日本語は否定応答表現のいずれも使われる「⑰謙遜」の項目について分析、考察する。以下の表 49 は、それらの使用を具体的に示したものである。

表 49 : D パターンの場合

用法	肯定					否定					
	日本語			インドネシア語		日本語				インドネシア語	
	はい	ええ	うん	iya	ya	いいえ	いえ	いや	ううん	tidak	engga
⑨共感	△	△	△	○	○	×	×	×	×	○	○
⑩承諾	○	△	△	○	○	×	×	△	×	×	×
⑪許可	○	△	○	○	○	×	×	△	×	△	×
⑫命令応答	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
⑬了解	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
⑭呼びかけ応答	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×
⑮患者応答	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×
⑯打ち切り	*△	×	×	*△	*△	×	×	×	×	×	×
⑰謙遜	×	×	×	△	△	○	○	○	○	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 \*△=二回使う。例えば、「はいはい」 ×=使えない)

以下では表 49 を中心に日本語とインドネシア語の応答表現の使用有無について詳しく説明していく。

「⑨共感」に関しては、以下の用例(9)を分析、考察した。

(9)A: わあ、きれいですね。

B: △はい/△ええ/△うん、そうですね。

iya/ya                      //    tidak/engga/gak

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ日本語では、否定応答表現で応答することができないという結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。インドネシア語では、「iya」「ya」のいずれも後文を問わず使われることが分かった。「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、日本語では否定応答表現で返答するのは不自然だが、インドネシア語では否定応答表現の「tidak」「engga」「gak」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「engga」「gak」は若者言葉であり、友人同士や家族に対してしか使われないという結果が導き出された。

次は、「⑩承諾」に対する両言語の使用について以下用例(10)を考察した。

(10)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/△ええ/△うん    //    △いや

iya/ya

「⑩承諾」では、日本語は肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。インドネシア語では、「iya/ya」のみか「iya/ya, boleh (ええ/うん、いいよ)」のように使われることが確認できた。否定応答表現として日本語では、「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のような後文が続く。なお、通常「いいえ、いえ、いや、うん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。インドネシア語では、直接的な否定応答表現を使わず「maaf, tidak bisa (すみません、できません)」のように使われることが分かった。

次は、「⑪許可」に対する両言語の使用について以下用例(11)を考察する。

(11)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか？

B: はい/△ええ/うん //△いや  
iya/ya // △tidak

「⑩許可」では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続くとより自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。インドネシア語では、肯定応答表現として「iya/ya」のみか「iya/ya, bole nanti(はい、あとでね)」のように後文と一緒に使われることが確認できた。否定応答表現として日本語では、「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使われないという結果が得られた。また、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。インドネシア語では、「tidak」のみではなくて「tidak, maaf(いえ、すみません)」のように謝罪表現も一緒に使われるということが調査結果から確認できた。

次は、「⑫命令応答」について以下の用例(12)を分析、考察する。

(12)A: ちゃんと宿題をやりなさい。

B: はい/うん  
iya/ya

本調査によると、日本語では、肯定応答の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。なお、「はい」は上下関係、親疎関係を問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。従来の研究で指摘されている通り今回の調査結果からも「⑫命令応答」では、「ええ」は使われないことが分かった。インドネシア語では、肯定応答表現として「iya」「ya」のいずれも使われることが分かった。「⑫命令応答」として、日本語もインドネシア語も否定応答表現が用いられないという結果が得られた。

次は、「⑬了解」について以下の用例(13)を分析、考察する。

(13)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B: はい/うん

本調査によると、「⑬了解」では目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。インドネシア語では特に応答表現を使わず、頷くことで会話を促すということが分かった。

次は、「⑭呼びかけ応答」について以下、用例(14)を分析、考察する。

(14)A : (訪問者) すみません。

B: はい

iya/ya

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、「はい」のみが使われることが確認できた。日本語は「はい」のみが、インドネシア語では「iya/ya」のいずれも使われることが分かった。

次は、例えば病院の受付で名前を呼ばれる「⑮患者応答」について以下の用例(15)を分析、考察する。

(15)A : 田中さん

B: はい

iya/ya

「⑮患者応答」では、日本語は「はい」、インドネシア語は「iya/ya」という肯定応答表現のみか「iya/ya, saya (はい、私です)」のように使われるという結果が得られた。日本語では、教室で出席をとる「⑥点呼」でも「はい」、「患者応答」でも「はい」であるが、インドネシア語は「⑥点呼」では応答表現が使われないが、「患者応答」で名前を呼ばれた際「iya/ya」のいずれも使われることは興味深い。「⑥点呼」で名前を呼ばれるというのは、「出席か欠席かの確認」に注目しているため、インドネシア語でいる場合は、「hadir (います)」と返答する。なお、病院で名前を呼ばれるというのは「出席か欠席かの確認」ではなくて「順番を待っていることに対して次はあなたです」ということを表明しているため、「iya/ya」が使われる。従って、日本語は「呼びかけている」という行動に注目して答えているのに対し、インドネシア語は行動ではなくて、「その行為は何を意味しているか又は何を表しているか」ということに注目して答えていると言える。

次は、「⑯打ち切り」では両言語の使用について以下の用例(16)を分析、考察する。

(16) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: △\*はいはい、(それはもう聞き飽きたよ。)

△\* iya iya/ya ya, (sudah bosan mendengarnya)

「⑯打ち切り」に関して日本語では、親しい相手に対しては、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はいはい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以

「上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。インドネシア語では、「iya/ya」のいずれも使われ、「iya iya」「ya ya」のように二回続けて使うか、「iya iya/ya ya, sudah bosan mendengarnya (それはもう聞き飽きたよ)」のように聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが確認できた。

次は、「⑰謙遜」について以下の用例(17)を分析考察する。

(17)A: どうもありがとうございます。

B: いいえ/いえ/いや/ううん

△iya/ya

「⑰謙遜」では、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出せた。また、「応答表現+どういたしまして/とんでもないです」のような「お礼を言われるほどのことではない」という意味を表す表現と一緒に使われることもできる。「謙遜」に関して日本語は否定応答表現を使われているのに、インドネシア語では、「iya/ya,sama-sama (はい、どういたしまして)」が使われ、日本語と違う傾向が見られた。

Aパターン、Bパターン、Cパターンの用法項目に比べ、本節での「⑨共感」「⑩承諾」「⑪許可」「⑫命令応答」「⑬了解」は、日本語と似ている点もある一方似ていない点もあり、学習者には容易に覚えにくく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に注意すべきであると思われる。また、「⑭呼びかけ応答」「⑮患者応答」「⑯打ち切り」「⑰謙遜」では、母語の使い方が日本語と異なっているため、学習者にとって使用が難しく、誤用が起りやすいと考えられ、教える際に十分注意する必要があると思われる。

## 12.6 本章のまとめ

以上、日本語とインドネシア語の肯定・否定応答表現の用法を考察したことによって、それらの類似点、相違点が分かった。誤用が起こる可能性が高い用法項目を知っておくことで、指導者は指導を行う際にそれらの練習に重点を置き、様々な指導法を利用し、より効率的に習得させることができると思われる。本章で明らかになったことを以下のようにまとめた。

1. 日本語においてもインドネシア語においても「はい/ええ/うん」と「iya/ya」等の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの形式でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。
2. Cパターン、Dパターンで取り上げた、「⑤情報提示」「⑥点呼」「⑦電話応答」「⑧応答

の応答」「⑨共感」「⑩承諾」「⑪許可」「⑫命令応答」「⑬了解」「⑭呼びかけ応答」「⑮患者応答」「⑯打ち切り」「⑰謙遜」という項目に関しては、インドネシア語を母語とする学習者に教える際、注意をすべき点であると考えられる。

3. 日本語の「いや」とインドネシア語の「iya」は正反対の意味になっているため、日本語の「いや」の使用は、インドネシア語を母語とする学習者には使いにくいと考えられ、教える際注意する必要がある。

4. インドネシア語の「iya/ya」とシンハラ語の「ov/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。

5. 17用法項目から見ると日本語では、「①真偽」と「②確認応答」でしか「はい・いいえ」の対応関係は見られなかった。

6. 日本語の「はい」又は英語の「yes」のようにインドネシア語ではもともと応答表現の専門語はなく、「ya」はオランダ語からの借用語である。

第2部の第6章では、日本語とシンハラ語の応答表現の用法を17項目に分け、対照、分析を行った。第7章から第12章までは、第6章の17用法項目を基に学習者にとってどの用法項目に誤用が起りやすいかということに注目して分析してきた。その結果、シンハラ語「ov」、韓国語「ne」、モンゴル語「za」、英語「yes」、スペイン語「sí」、中国語「hao」、インドネシア語「iya」に比べて、日本語「はい」の使用範囲が広いということが確認できた。系統論的又は類型論的に日本語と似ていると似てない言語の対照分析結果から見ると、「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものと言える。シンハラ語、韓国語、モンゴル語、英語、スペイン語、中国語、インドネシア語では、肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかった。自然会話に基づき日本語の肯定および否定応答表現の出現総数について分析した奥津（1988）と中島（2001）で指摘している「日本語は日常会話においては、肯定的な応答が多く、否定的な応答は極めて少ない」という結果は日本語だけではなく、シンハラ語にも韓国語にもモンゴル語にも英語にもスペイン語にも中国語にもインドネシア語にも通じる結果となった。良い人間関係を保つために、できる限り相手の発話に対して肯定的に応答することは日本語においても他の言語においても共通していると言える。また、「はい・いいえ」は「対称的」なようであるが、17用法項目から見ると、「真偽」と「確認応答」でしか対称関係は見られなかったため、実は「はい・いいえ」は「非対称的」といえる。

第2部では、対照言語学的分析の観点から、日本語とシンハラ語・韓国語・モンゴル語・英語・スペイン語・中国語・インドネシア語の肯定および否定応答表現について対照研究を行ってきた。第3部では、今までの研究結果を踏まえながら、日本語教育との結びつきについて見ていきたい。

# 第三部

総論（日本語教育現場における応答表現の諸問題および指導法）

第13章 学習者の応答表現に関する使用意識

第14章 初級日本語教科書に現れる応答表現の問題点および指導法

第15章 総合的な考察



## 第13章 学習者の応答表現に関する使用意識

### 13.1 はじめに

従来の研究では日本語の「肯定応答表現」と「否定応答表現」に用いる「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」などの機能と意味分析に注目した研究が多く見られる。しかし、非母語話者の日本語学習者の肯定および否定応答表現の使用意識の観点から論じた研究は非常に少ない。また、日本語教育現場においても応答表現の使用の特徴が十分に応用されているとは言えない。そこで、本章では、シンハラ語を母語とする JFL 環境の学習者を対象に、アンケート調査を通して、学習者がどのように応答表現を使用するのかという使用状況などについて考察する。

### 13.2 先行研究

金山・二宮 (2006) は、アンケート調査を通して、母語話者と非母語話者の「はい」「ええ」に関する認識・解釈、使用状況を比較し、非母語話者は母語話者に比べ、「ええ」の使用頻度が低いと述べている。また、アンケートの結果を踏まえ「ええ」の機能・効果には予測以上の幅があり、特に母語話者には個々の認識にも顕著な違いがあると指摘している。

金山・二宮 (2011) は、非母語話者 13 名の回答結果を分析・考察し、学習歴および日本滞在歴により応答表現に関する意識がどのように違うかを分析し、9 年以上の被験者と 9 年未満の被験者とでは正答率に倍以上の開きが見られたと述べている。また 9 年未満の被験者は、主に親疎や上下関係などの改まり度に注目して「はい」「ええ」を使い分けていると指摘している。

### 13.3 調査概要

#### 13.3.1 調査対象者

本章で用いるデータは、スリランカ国内の日本語学校（ササカワセンター）で日本語を学ぶ、10 代、20 代のシンハラ語を母語とする日本語学習者の 25 名を対象とした、アンケート調査によるデータである。調査協力者は 1 名除いて全員来日経験がなく、授業で使用する教科書は『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）である。調査対象者の情報は以下の表 50 の通りである。

表 50：調査対象者の情報

学習歴（年）	日本滞在歴	合格レベル	性別	年齢
3	2 か月	3 級	女	27
4		N5	女	26
3		N4	女	19
3		N5	男	19
3		N5	女	20
2		N5	男	21
3		N4	女	23
3		N5	女	23
2		N5	女	21
2		N5	女	20
3		N4	女	23
2		N5	男	24
2		N5	男	20
3		N4	女	24
2		N5	女	22
2		N5	女	24
2		N5	女	21
2		N5	女	23
2		N5	女	22
2		N5	女	21
2		N5	女	20
2		N5	男	25
3		4 級	男	27
2		N5	女	23
2		N5	女	24

### 13.3.2 研究方法

第 6 章で取り上げた、「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話

応答」「患者応答」「応答の応答」という応答表現の17用法項目の用例を基に、アンケートの設問を作成した。第6章で取り上げた用例は、日常会話でよく使用される表現を念頭に入れ、日本語母語話者3名に協力してもらい作成したものである。

調査を実施するにあたっては、問題用紙を配布し、協力者に「Bの応答として合っている物を全て選択」し、回答してもらった。時間制限は設けなかったが、長くても30分で回答してもらった。

アンケートの一例は以下の通りである。

① 「<sup>しんぎ</sup>真偽」

A: あなたは学生ですか。

B: はい／ええ／うん／いいえ／いえ／いや／ううん

② 「<sup>かくにんおうとう</sup>確認応答」

A: 今日はフランス<sup>りょうり</sup>料理ですね。

B: はい／ええ／うん／いいえ／いえ／いや／ううん

### 13.4 調査結果および考察

第6章の本調査の結果では、いくつかの用法項目においては、例えば「いえ/いや/ええ+コメント」とするほうが相手に対して親切でより自然な会話の流れになるという結果が得られたが、学習者には回答する際混乱してしまう可能性があると考えた。そのため、アンケートではコメントが必要かどうかということに関しては対象外とした。アンケートの17問に対する回答結果を以下の四つのパターンを取り上げ分析、考察する。

1. 日本語の肯定・否定応答表現のいずれもが使われる場合。

肯定・否定応答表のいずれも使われる項目は学習者にとって覚えやすいと考えられる。  
(以下Aパターンとし、13.4.1で取り上げる)

2. 日本語では、肯定・否定のどちらか一方の応答表現のみが使われる場合。

各応答表現のいずれもが使用可能であると覚えれば、誤用が起こりにくいと考えられる。  
(以下Bパターンとし、13.4.2で取り上げる)

3. 日本語の「はい」のみが使われる場合

「はい」のみが使われる場合は誤用が起こる可能性があると考えられる。(以下Cパターンとし、13.4.3で取り上げる)

4. 日本語ではいずれも使われるが例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合。

この場合は、誤用が起こりやすいと考えられる。(以下Dパターンとし、13.4.4で取り上げる)

### 13.4.1 Aパターンの場合

本節では、日本語で肯定・否定応答表現のいずれも使われる「①真偽」と「②確認応答」の項目において学習者の回答の結果を分析、考察する。「①真偽」のアンケートの間は以下の通りである。

「①<sup>しんぎ</sup>真偽」

(1)A：あなたは学生ですか。

B：はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

問1は、真偽疑問文の例である。本調査では、「はい、ええ、うん、いいえ、いえ、いや、ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、学生ではありません」のように「いえ/いや」の後にコメントが続かないと不自然であるという傾向が見られた。しかし、アンケートでは、コメントが必要かどうかということに関しては対象外とした。学習者の回答結果では、7名は「はい、いいえ、ううん」、4名は「はい、いいえ」、3名は「はい、ええ、うん、いいえ、いえ、いや、ううん」、2名が「はい、ええ、いいえ、ううん」などを選択していた。肯定・否定応答表現においてはいずれも可能であっても2名は「はい」のみを選択していた。以下の図4では、表現別の使用を示している。

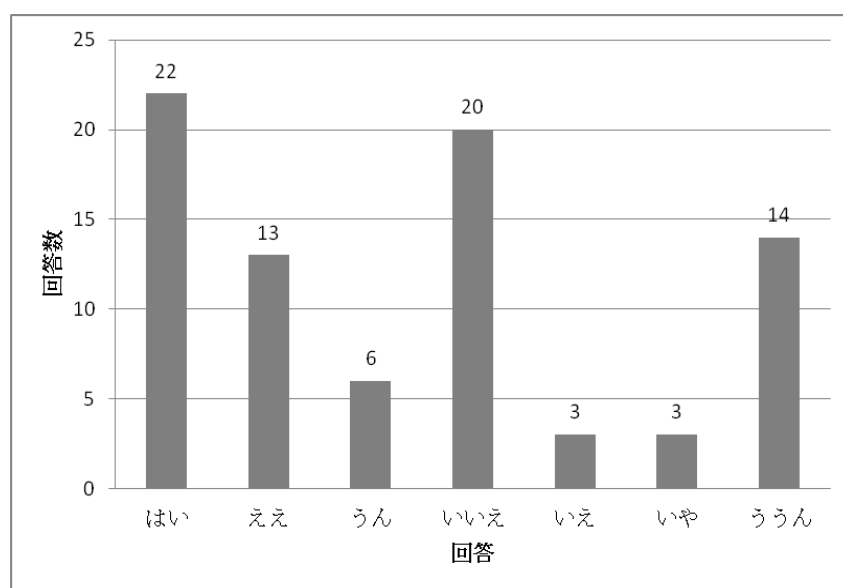


図4：問1の表現使用

図4を見ると、「①真偽」の応答として25名のうち22名は「はい」、20名は「いいえ」を選択している。「①真偽」に関しては、肯定応答表現の「はい」と否定応答表現の「いいえ」の選択が最も多いことが確認できた。また、「ええ」と「ううん」も多く選択しているが、「うん、いえ、いや」の選択が少ない。次は「②確認応答」の回答結果について見てみる。アンケートの間は以下の通りである。

「②確認応答」  
(2)A：今日はフランス料理りょうりですね。  
B：はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

問2は、「②確認応答」の例である。本調査では、「はい、ええ、うん、いいえ、いえ、いや、ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、「いえ」と「いや」は「いえ/いや、今日は中華料理です」のように「いえ/いや」の後にコメントが続くとより自然であるという傾向が見られた。しかし、アンケートでは、コメントが必要かどうかということに関しては対象外とした。学習者の回答結果では、9名が「はい、ええ」、4名が「はい、ええ、いいえ」、3名が「はい、ええ、うん、いいえ」などを選択していた。以下の図5では、表現の使用を示している。

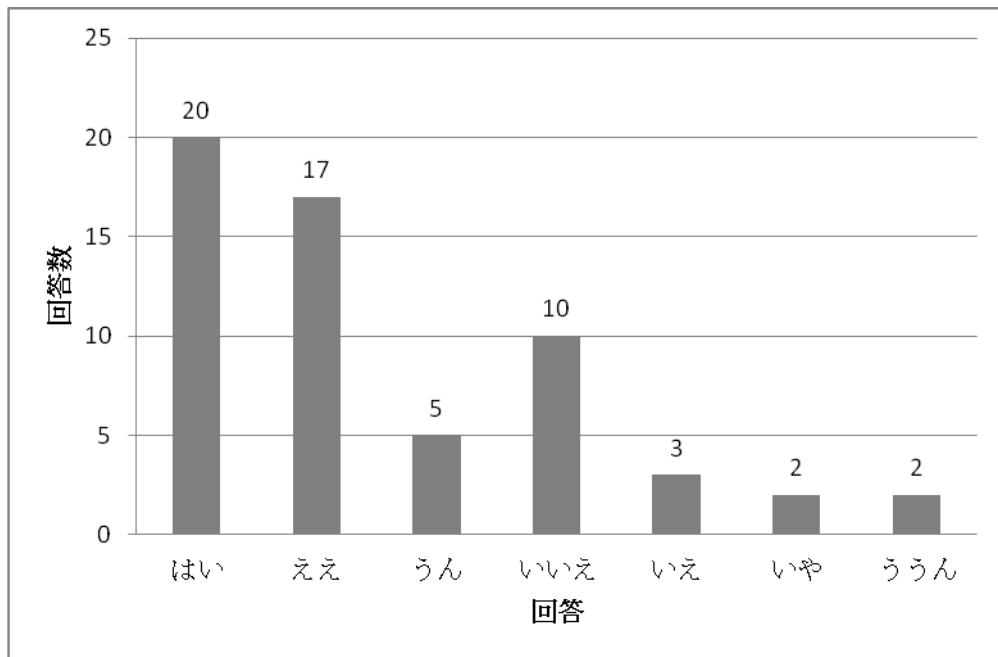


図 5 : 問 2 の表現使用

図 5 で示した通り、「②確認応答」の応答として 25 名のうち 20 名が「はい」を選択し、肯定応答表現の「はい」の選択が最も多いことが確認できた。25 名のうち 17 名は「ええ」を選択し、2 番目に多かった。否定応答表現として、25 名のうち 10 名は「いいえ」を選択し「いいえ」の選択が最も多かった。否定応答表現の「いえ、いや、うん」のいずれの選択も非常に少なかった。「②確認応答」と「①真偽」では、「はい」の選択が最も多いことが確認できた。以下、第 6 章の日本語とシンハラ語の比較分析で得られた結果を表 51 で示す。

表 51 : A パターンの場合 (日本語とシンハラ語)

用法	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	うん	nae/nehe	bae/behe	epaa
①真偽	○	○	○	○	×	×	○	△	△	○	○	×	×
②確認応答	○	○	○	○	×	×	○	△	△	○	○	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

本節での分析により、日本語教科書では応答表現としてより早い段階から「はい・いいえ」をペアとして教えるため、学習者が「はい」「いいえ」をよく使用していると考えられる。また、上記の表 51 で示している通りシンハラ語は、「①真偽」と「②確認応答」では肯定応答表現としては「ov」、否定応答表現として「nae:/nehe」のみが使われるため、それぞれに対応する「はい」「いいえ」の使用が多かったということも考えられる。

#### 13.4.2 B パターンの場合

本節では、日本語で肯定応答表現のみが使われる「③あいづち」「④独話あいづち」と否定応答表現のみが使われる「⑤謙遜」のそれぞれの用法項目での学習者の応答表現の使用状況を分析、考察する。「③あいづち」のアンケートの問は以下の通りである。

「③あいづち」
(3)A: 昨日 <sup>きのう</sup> さあ、
B: はい/ええ/うん
A: 学会 <sup>がっかい</sup> に行ってきたさあ

本調査では、話し手の話を聞いていることを示す「③あいづち」に関して、否定応答表現が現れず、「はい/ええ/うん」のいずれも使われるという結果が導き出された。学習者の回答結果では、1名が「はい、ええ、うん」、2名が「はい、ええ」、2名が「はい、うん」、5名が「はい」を選択していた。25名のうち10名のみは肯定応答表現のみを選択していた。無回答は4名で、残り11名は例えば、「はい、ええ、いいえ」など肯定・否定両方の応答表現を選択していた。学習者にとって「あいづち」では、肯定応答表現のみが使われるという認識がしていないといえる。以下の図6では、表現の使用を示している。

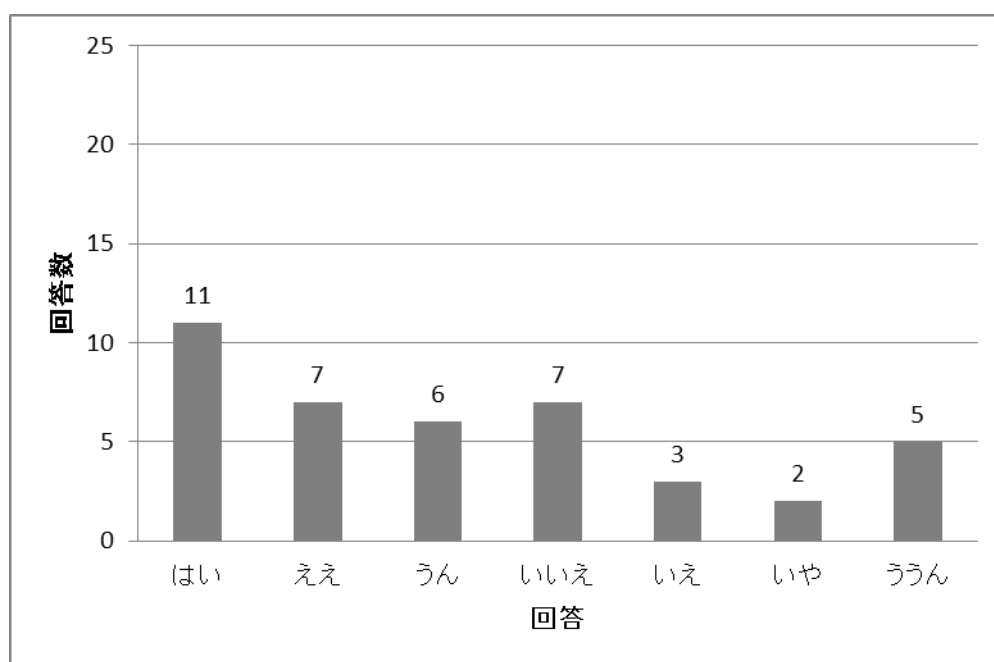


図6：問3の表現使用

図6に示された通り、「③あいづち」の応答としては肯定応答表現の「はい」の選択が最も多いことが確認できた。否定応答表現の使用は少ないが、7名が「いいえ」、5名が「ううん」を選択していた。3名は「はい、いいえ」を選択していた。初級教科書では、「あいづち」に関して初級教科書で詳しい説明がないこと、日本人と会話できる機会がスリランカ国内で非常に少ないこと、「あいづち」がシンハラ語で使われないことなどの理由で、学習者の「あいづち」に関する認識の違いが見られたと言える。次は、自分自身の発話に対するあいづちの「④独話あいづち」での学習者の使用傾向について見ていく。アンケートの問は以下の通りである。

「④独話あいづち」

(4)A: なぜ首都大で勉強したいんですか。

B: 自分は、研究が好きだし、(はい/ええ/うん) 東京に住みたいから、

本調査によると「④独話あいづち」では、先述した「あいづち」と同様に、日本語は肯定応答表現の「はい/ええ/うん」のいずれも使われるという結果が導き出された。学習者の回答結果では、1名が「はい、ええ、うん」、2名が「はい、ええ」、1名が「はい、うん」、5名が「はい」を選択していた。25名のうち9名のみは肯定応答表現のみを選択していた。無回答は5名で、残り11名は「はい、ええ、いいえ、ううん」などのように肯定と否定の両方を選択していた。学習者にとっては「独話あいづち」では、肯定応答表現のみが使われるという認識がしていないといえる。以下の図7では、表現の使用を示している。

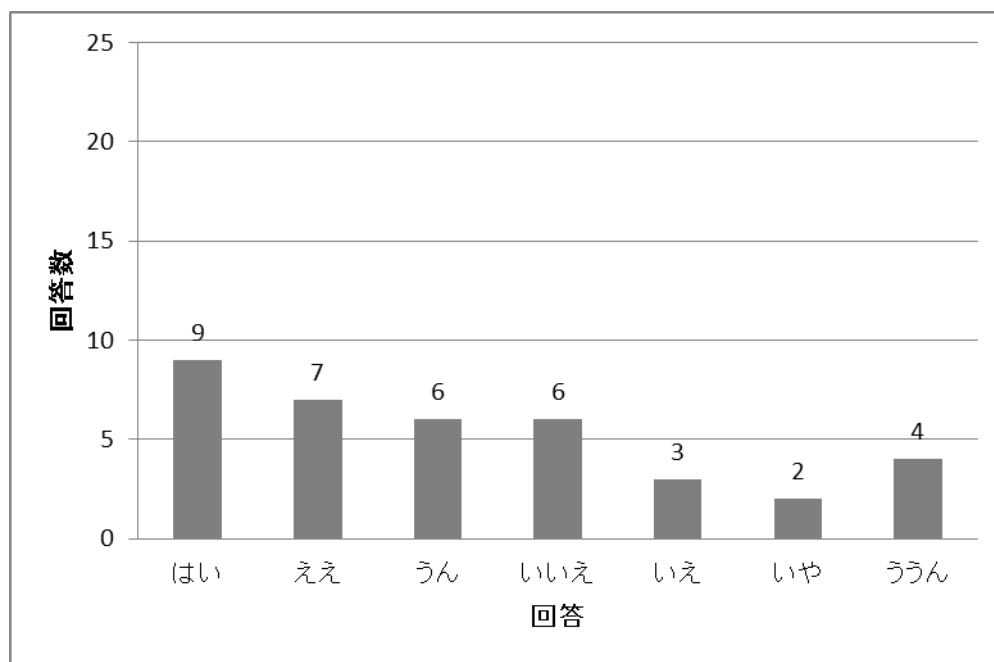


図7：問4の表現使用

図7で示した通り、「④独話あいづち」の応答としては、肯定応答表現の「はい」の選択が最も多いことが確認できた。その他、7名は「ええ」、6名は「うん」と「いいえ」、4名は「ううん」を選択していた。初級段階では、「④独話あいづち」に関して認識していないため、正しく回答できなかったと思われる。次は、「⑤謙遜」での学習者の使用傾向について見てみる。アンケートの問は以下の通りである。



「⑤謙遜」

(5)A: どうもありがとうございます。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査では、「⑤謙遜」において、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/ううん」のいずれも使われ、その中で「いえ」「いや」が「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出された。学習者の回答結果では、12名が「いいえ」、4名が「いいえ、ううん」、3名が「いいえ、いえ、ううん」を選択していた。25名のうち19名は否定応答表現のみの正答を選択していた。残り6名は「はい、ええ、いいえ、ううん」などのように肯定と否定の両方を選択していた。多くの学習者にとって「⑤謙遜」は、否定応答表現しかが使われないと認識されているといえる。以下の図8では、各々表現の使用を示している。

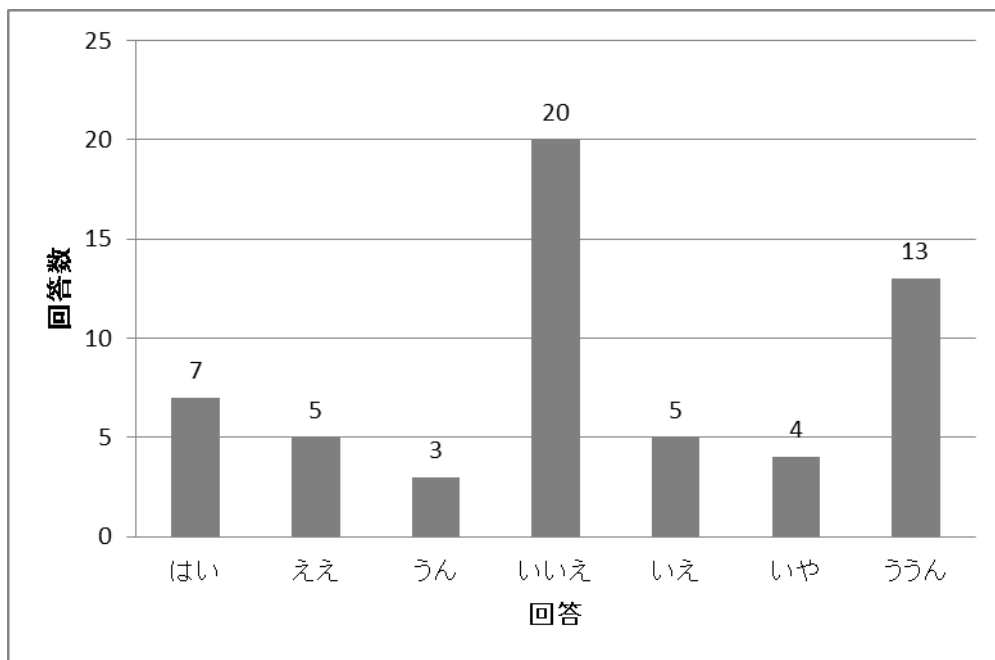


図8：問5の表現使用

図8で示した通り、「⑤謙遜」の応答としては否定応答表現の「いいえ」の選択が最も多く、次に「ううん」が多いことが確認できた。多くの学習者にとって「⑤謙遜」では、否定応答表現のみが使われると認識されているといえる。以下、第6章の日本語とシンハラ語の比較、分析で得られた結果を表52で示す。

表 52 : B パターンの場合 (日本語とシンハラ語)

用法	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	うん	nae/nehe	bae/behe	epaa
③あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
④独話あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑤謙遜	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×

(○=使える ×=使えない)

本節での分析により、初級段階で導入されていない「③あいづち」「④独話あいづち」について学習者の認識の違いが見られたが、「⑤謙遜」では、多くの学習者が正しく回答していた。表52に示した通りシンハラ語では「③あいづち」と「④独話あいづち」において応答表現が使われないため、「③あいづち」という言葉を初級段階で耳にしたことがあっても、使い方において「よくわからない」ということになったと考えられる。

#### 13.4.3 C パターンの場合

本節では、日本語の「はい」のみが使われる「⑥電話応答」「⑦呼びかけ応答」「⑧点呼」「⑨患者応答」「⑩応答の応答」「⑪情報提示」「⑫打ち切り」の用法項目での学習者の応答表現の使用状況を分析、考察する。「⑥電話応答」のアンケートの間は以下の通りである。

<p>「⑥電話<sup>でんわおうとう</sup>応答」</p> <p>(6)A: もしもし。</p> <p>B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん</p>
--

本調査によると、「⑥電話応答」では、日本語は「はい」のみが使われることが確認できた。学習者の回答結果をみると、14名は「はい」と答えていた。2名は無回答で残り9名は「はい、ええ」「はい、いいえ」などのように肯定・否定両方を選択していた。「もしもし」に対する応答は「はい」であることを多くの学習者が認識しているといえる。以下の図8では、各々表現の使用を示している。

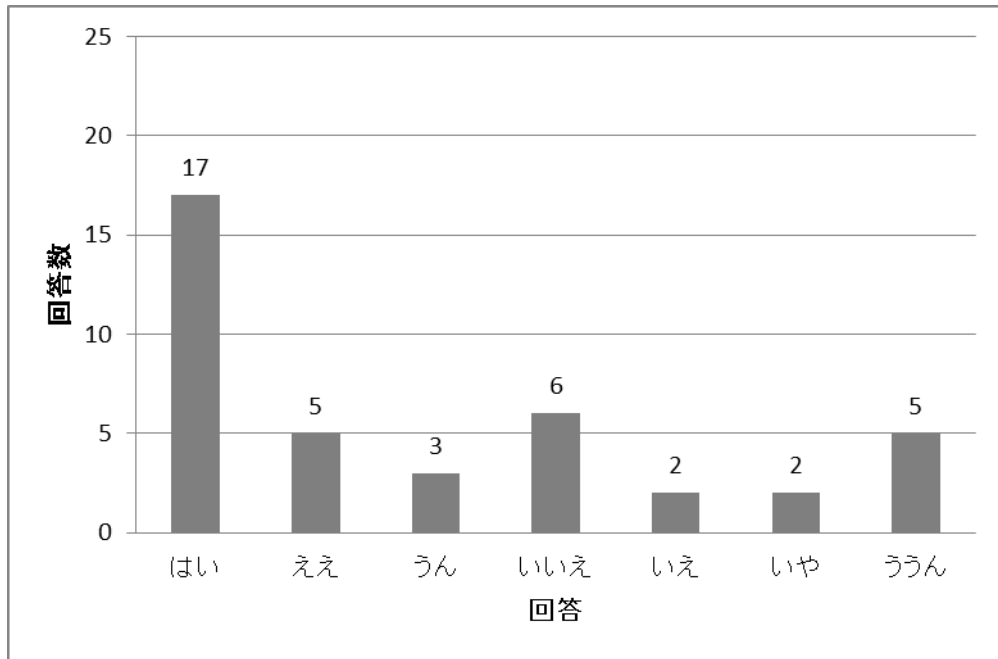


図 8 : 問 6 の表現使用

図 8 をみると分かるように、「⑥電話応答」の応答として肯定応答表現の「はい」の選択が最も多いことが確認できた。否定応答表現の選択はあっても非常に少ない。次は、「⑦呼びかけ応答」で、アンケートの間は以下の通りである。

「⑦<sup>よびかけおとう</sup>呼びかけ応答」  
 (7)A : (訪問者<sup>ほうもんしゃ</sup>) すみません。  
 B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査では、先行発話が呼びかけ語から成り立つ場合、日本語は「はい」のみが使われることが分かった。学習者の回答結果をみると、13名が「はい」と答えていた。2名が無回答であった。また、残り10名が肯定・否定両方を選択し、その中で、3名が「はい、いいえ」、2名が「はい、ええ」などを選択していた。呼びかけに対する応答は「はい」しか使われないことは23名のうち13名が認識している。学習者の各々表現の使用は以下の図9で示している。

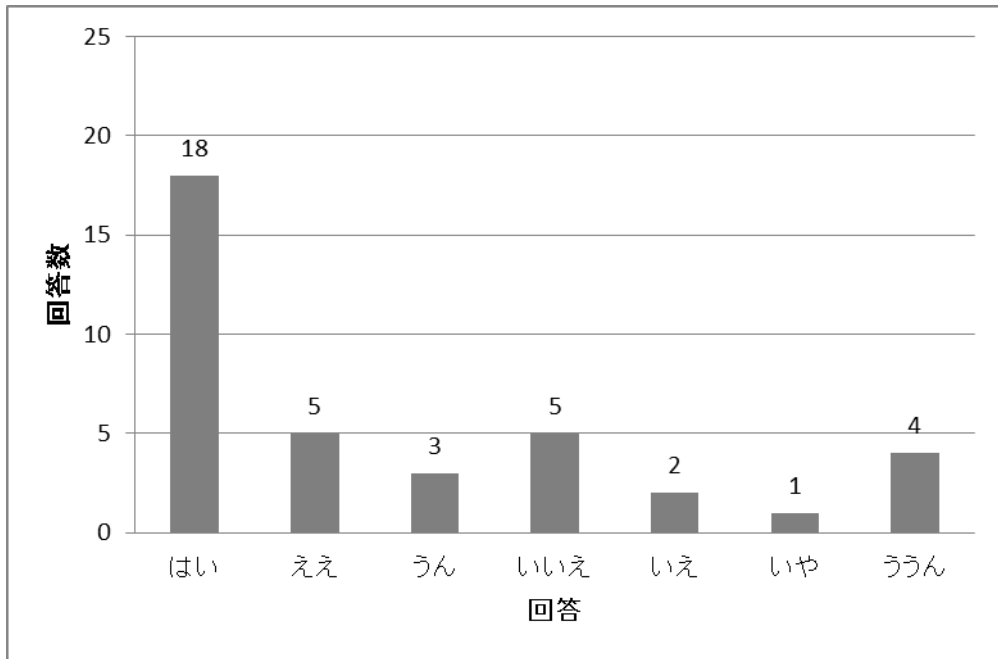


図9：問7表現の使用

図9で示している通り、「⑦呼びかけ応答」の応答としては、肯定応答表現の「はい」の選択が最も多くなっている。5名が「ええ」「いいえ」、4名が「ううん」を選択しているが、多くの学習者は「はい」を適切な回答として認識している。次は、「⑧点呼」での学習者の回答結果について見ていく。アンケートの問は以下の通りである。

「⑧点呼」  
 「教室で先生が出席をとっている」  
 (8)A: 吉田くん。  
 B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査では、「⑧点呼」の応答として日本語では「はい」しか使われないという結果が得られた。学習者の回答結果をみると、6名しか「はい」のみを選択していなかった。4名は無回答で残り15名は肯定・否定応答表現を一緒に選択していた。例えば、6名は「はい、いいえ」5名は「はい、ええ」3名は「はい、うん」などを選択していた。「⑧点呼」に対しての応答は「はい」のみということは多くの学習者が認識していない傾向が見られた。正答数が少なかった理由としては、初級教科書の不十分な説明も考えられるが、「点呼」の応答がシンハラ語と英語において肯定・否定応答表現ではなく、それぞれ「innawa: (います)」と「present/absent」で返答することが考えられる。学習者の各々表現の使用は以下の図1

0で示している。

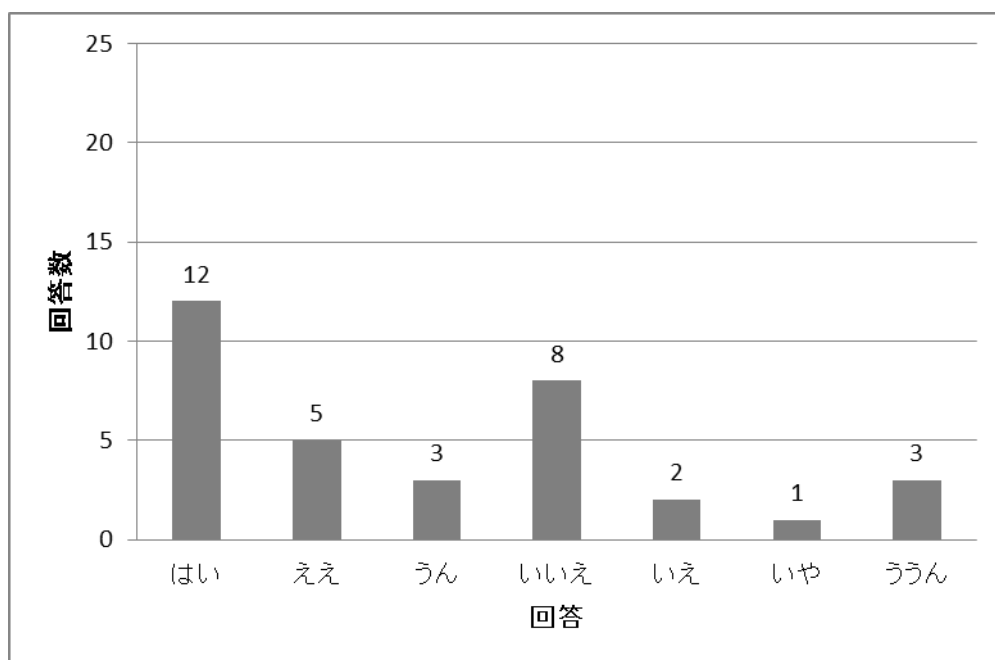


図 10：問 8 の表現使用

図 10 で示している通り、「点呼」では、12 名が「はい」、8 名が「いいえ」、5 名が「ええ」を選択している。初級段階では、母語の影響を受ける可能性が高いため、「点呼」の応答はシンハラ語を母語とする学習者に教える際、注意すべき用法項目である。次は、「⑨患者応答」での学習者の回答結果について考察する。アンケートの問は以下の通りである。

⑨患者応答

「病院の受付で名前を呼ばれた場合」

(9)A：田中さん

B：はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査により「⑨患者応答」として適切な回答は「はい」のみであることが分かった。学習者の回答結果をみると、13名が「はい」のみと答えた。先述した、「⑧点呼」で名前を呼ばれた場合には、6名しか「はい」と答えていなかったのに対し、「⑨患者応答」で名前を呼ばれた場合には、13名が「はい」と答えていたのが興味深い。その他、2名が無回答、4名が「はい、いいえ」、2名が「はい、ええ」、2名が「ええ」、1名が「いいえ」を選択して

いた。日本語教科書では、「はい・いいえ」をペアーとして扱っているため、学習者が「はい」と同様にどの用法項目においても「いいえ」も適切だと考え、誤用を招いていると考えられる。学習者の各表現の使用は以下の図11で示している。

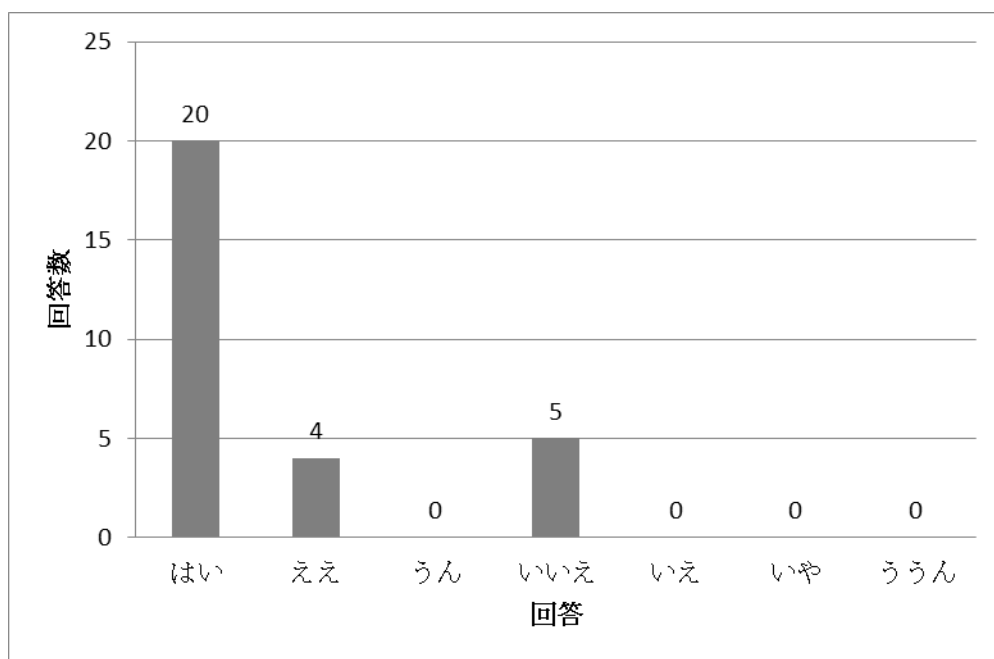


図 11 : 問 9 の表現使用

図 11 をみると、「⑨患者応答」では、「はい」の選択が最も多いことが確認できた。シンハラ語では、「⑧点呼」においては肯定・否定の応答表現が使われないが、「⑨患者応答」で名前を呼ばれた際には肯定応答の「ov」が使われるため、「⑨患者応答」での正答数が多くなったと思われる。次は、「⑩応答の応答」について見てみる。アンケートの問は以下の通りである。

「⑩応答の応答」

(10)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査によると、ここでは「はい」のみが使われるという結果が導き出された。学習者の回答結果をみると、5名は「はい」のみと答えた。2名は無回答で、残り18名は「はい、いいえ」、「はい、ええ」、「ええ」、などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下

の図12で示している。

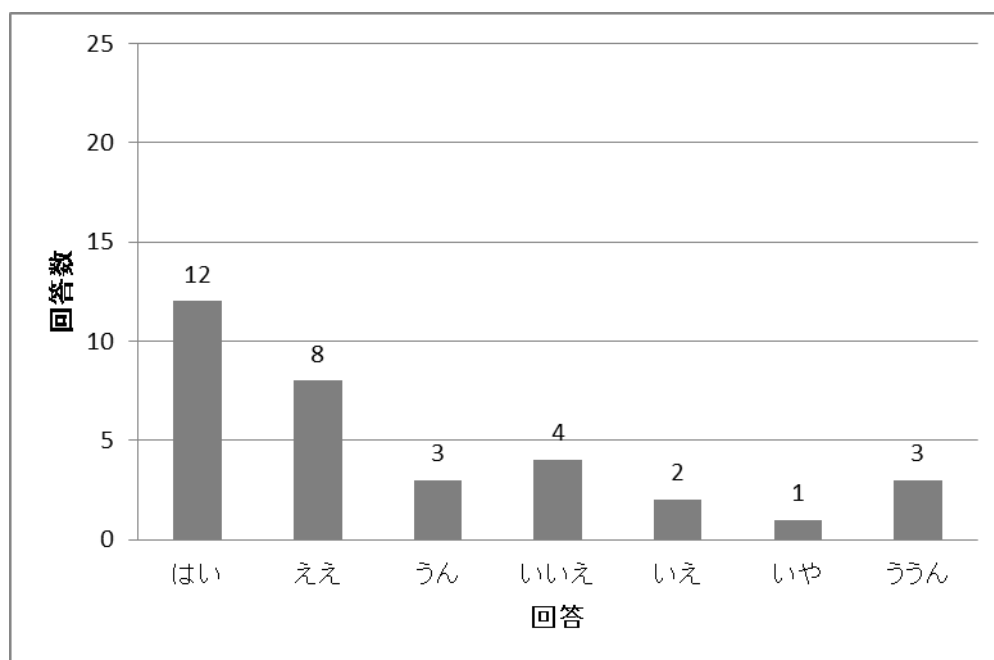


図12：問10の表現使用

図12を見ると分るように、適切な回答の「はい」の選択が最も多かった。なお、8名は医は「ええ」、4名は「いいえ」を選択している。次は、「㊦情報提示」での学習者の回答結果について考察する。アンケートの問は以下の通りである。

「㊦<sup>じょうほうていじ</sup>情報提示」

(11)A: 受付<sup>うけつけ</sup>はどこですか。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん、あそこです。

本調査によると日本語では、「はい、あそこです」のように「はい+情報」か、または「はい」を使わないで情報だけを伝えるという結果が得られた。学習者の回答結果をみると、5名が「はい」のみと答えた。8名が無回答、2名が「はい、いいえ」、2名が「はい、ええ」を選択していた。無回答の学習者が一番多かったのは「㊦情報提示」である。このような場合シンハラ語では応答表現を使わず、「あそこです」という情報だけを伝えるため、無回答数が多く現れたと考えられる。また、日本語においても「あそこです」という情報のみを伝えることが誤用ではないため、そのことを学習者が認識していることも考えられる。学習者の各表現の使用状況は以下の図13で示している。

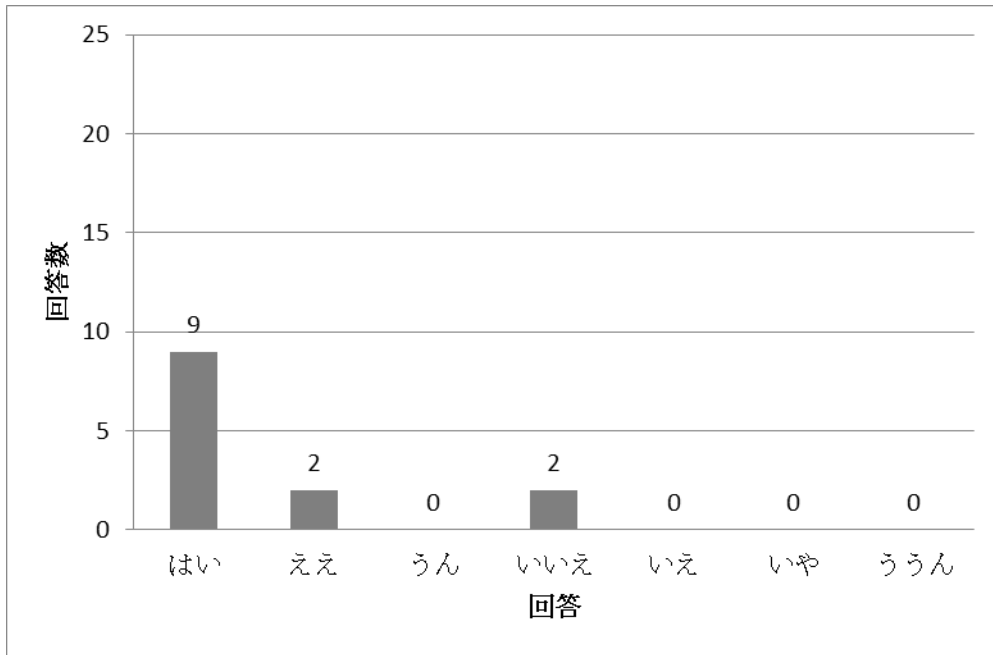


図13：問11の表現使用

図13の通り「⑪情報提示」に対する応答としては「はい」の選択が最も多いことが確認できた。次に、「⑫打ち切り」での学習者の回答結果を考察する。アンケートの問は以下の通りである。

「⑫打ち切り」

(12) A: 僕が学年一位ぼくがくねんいちいになれたのはですね、もともとの出来できが良いから…

B: はいはい/ええええ/うんうん/いいえいいえ/いえいえ/いやいや/ううんううん、それはもう聞き飽あきたよ。

「⑫打ち切り」に関して日本語では、「はい」を「はいはい」のように二回続けて言うか、「はいはい、それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉と一緒に使われることが調査結果から確認できた。学習者の回答結果をみると、8名が「はいはい」のみと答え、4名が無回答、残り13名のうち3名が「はいはい、ううんううん」、2名「はいはい、ええええ」などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下の図14で示している。



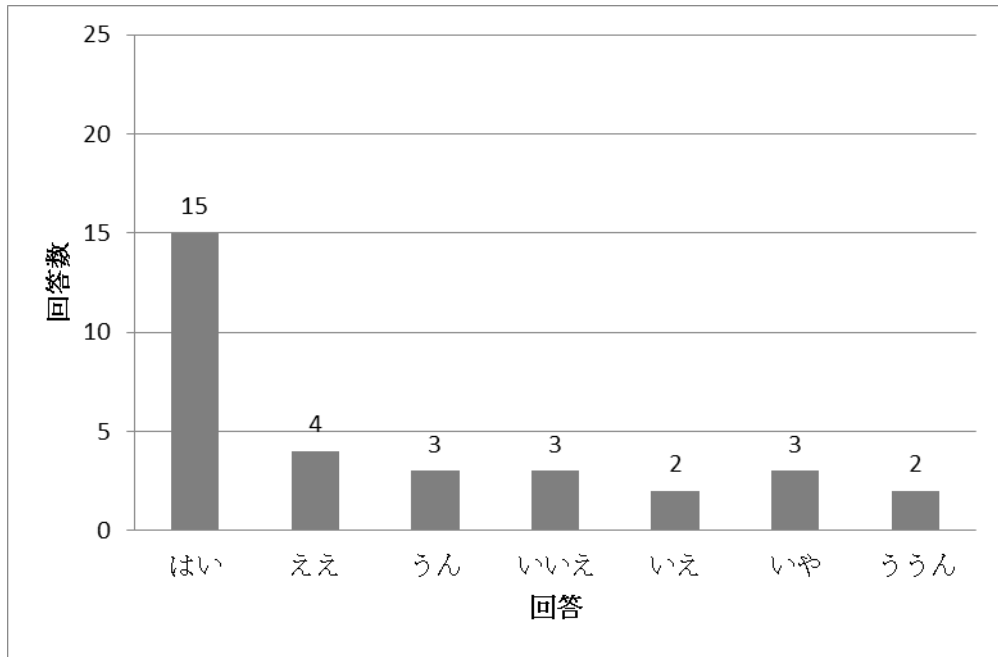


図14：問12の表現使用

図14を見ると分るように、「⑫打ち切り」の応答としては「はいはい」の選択が最も多いことが確認できたが、「ええええ」「うんうん」「いいえいいえ」の選択も見られた。本調査によると「ええええ」「うんうん」「ううんううん」などは非常に不自然であることが分かった。単純な指導だけでは、完全な習得や運用にはつながらず、誤用を招く可能性がある。

本節での分析から、「⑧点呼」「⑨患者応答」「⑩情報提示」などの用法項目においては、学習者が母語の影響を受けて回答する傾向が見られた。例えば、以下の表53で示しているように「⑧点呼」においては正答数が少なかったが、「⑨患者応答」においては正答数が多かったのは母語の影響からだと考えられる。また、教科書での不十分な説明も誤用の可能性として考えられる。

表53：Cパターンの場合（日本語とシンハラ語）

用法	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	ううん	nae/nehe	bae/behe	epaa
⑥電話応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑦呼びかけ応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑧点呼	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑨患者応答	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑩応答の応答	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
⑪情報提示	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑫打ち切り	*△	×	×	×	×	*△	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える \*△=二回使う。例えば、「はいはい」 ×=使えない)

#### 13.4.4 D パターンの場合

本節では、日本語で「ええ+コメント」又は「はい」「うん」などが使われる場合の「⑬許可」「⑭承諾」「⑮命令応答」「⑯了解」「⑰共感」の用法項目での学習者の応答表現の使用状況を分析、考察する。「⑬許可」のアンケートの間は以下の通りである。

##### 「⑬許可」

(13)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん、あそこです。

「⑬許可」では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが調査結果から分かった。なお、「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続かないと不自然である結果が得られた。否定応答表現として日本語では、「いや」だけが使われるが、「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない表現などを加えることでより自然になるということが分かった。なお、アンケートでは、「いいですよ」のようなコメントが必要かどうかということは、調査の対象外とした。学習者の回答結果では、5名が「はい」のみ、3名が「はい、うん」、2名が「はい、ええ」、2名が「うん」のみと答えた。3名が無回答で、残り10名のうち、3名が「はい、いいえ」、2名が「はい、いえ」、2名が「はい、ううん」などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下の図15で示している。

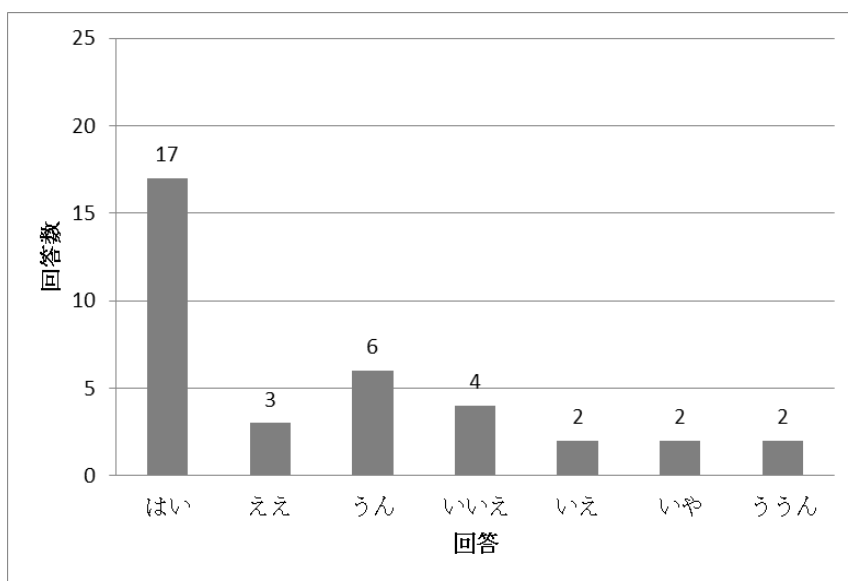


図15：問13の表現使用

図15を見ると分るように、「はい」と「うん」の選択が最も多いことが確認できた。多くの学習者にとって「⑬許可」に対する応答としては「はい」が適切である認識していることが分かった。次に「⑭承諾」での、学習者の回答結果を考察する。アンケートの間は以下の通りである。

「⑭承諾」  
 (14)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。  
 B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑭承諾」において、日本語では肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。しかし、「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文がないと不自然であるという結果が得られた。否定応答表現として「いや」のみではなく、「いや、すみません。今時間がないんです」のような後文が続くとより自然になるという結果が得られた。なお、通常は「いいえ、いえ、いや、ううん」等の直接的な否定応答表現ではなく、間接的な断り表現が使われることも確認できた。学習者の回答結果では、6名が「はい」のみ、2名が「はい、ええ、うん」、2名が「はい、ええ」、2名が「はい、うん」、と答えた。また、3名が無回答、3名が「はい、ええ、いいえ」、2名が「はい、ええ、うん、いいえ、いえ」、2名が「はい、うん、ううん」などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下の図16で示している。

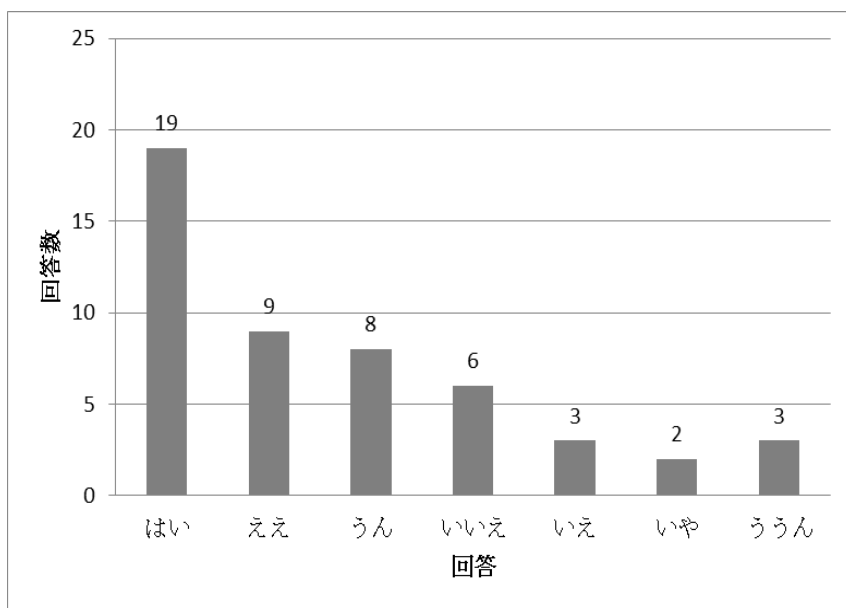


図16：問14の表現使用

図16の通り、「はい」の選択が最も多く、「ええ」と「うん」も多く選択していることが確認できた。多くの学習者にとって「⑭承諾」に対する応答としては「はい」が適切だと認識しているようである。次に「⑮命令応答」での学習者の回答結果について見てみる。アンケートの問は以下の通りである。

「⑮<sup>めいれい</sup>命令応答」  
(15)A: ちゃんと<sup>しゅくだい</sup>宿題やりなさい。  
B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査により、肯定応答表現の「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。「はい」は上下関係、親疎関係を問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。なお、アンケートでは、親疎関係や上下関係を問わず使われる項目だけに注目した。学習者の回答結果では、10名が「はい」のみ、3名が「はい、うん」と答えた。また、2名が無回答で、2名が「はい、ええ、うん」、3名が「はい、ええ」、2名が「はい、いいえ」などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下の図17で示している。

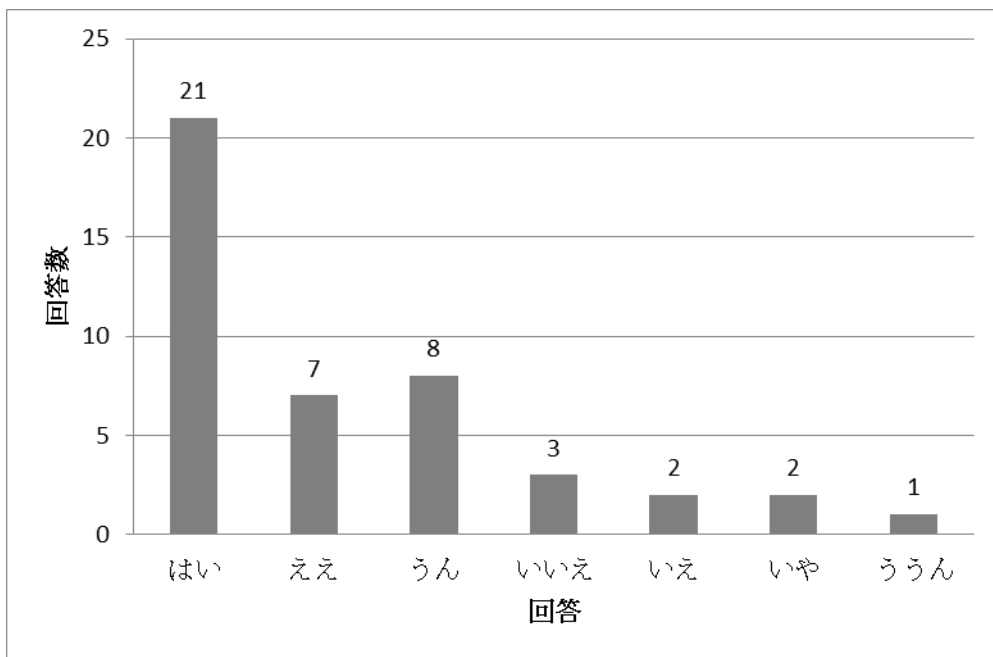


図17：問15の表現使用

図 17 を見ると分るように、「⑮命令応答」の応答としては肯定応答表現の「はい」の選択が最も多いことが確認できた。多くの学習者にとって「⑮命令応答」に対する応答として「はい」が適切だと認識しているようである。25名のうち8名が「ええ」を選択していることは、学習者に対する教師の指導不足が考えられる。「⑮命令応答」の返答としては、目上の人から受けた命令であっても友人同士や家族から受けた命令であっても「ええ」は不適切であることを学習者にしっかり教える必要がある。次に「⑯了解」での学習者の回答結果について見ていく。アンケートの問は以下の通りである。

「⑯<sup>りようかい</sup>了解」  
 (16)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが<sup>かみ</sup>変えられます。  
 B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

本調査により「⑯了解」において目上の人に対しては「はい」、友人同士では「うん」が使われることが確認できた。学習者の回答結果をみると、7名が「はい」、3名が「うん」と答え、4名が無回答で、3名が「はい、いいえ」、2名が「はい、ええ、いや」、2名が「はい、うん、いいえ」などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下の図18で示している。

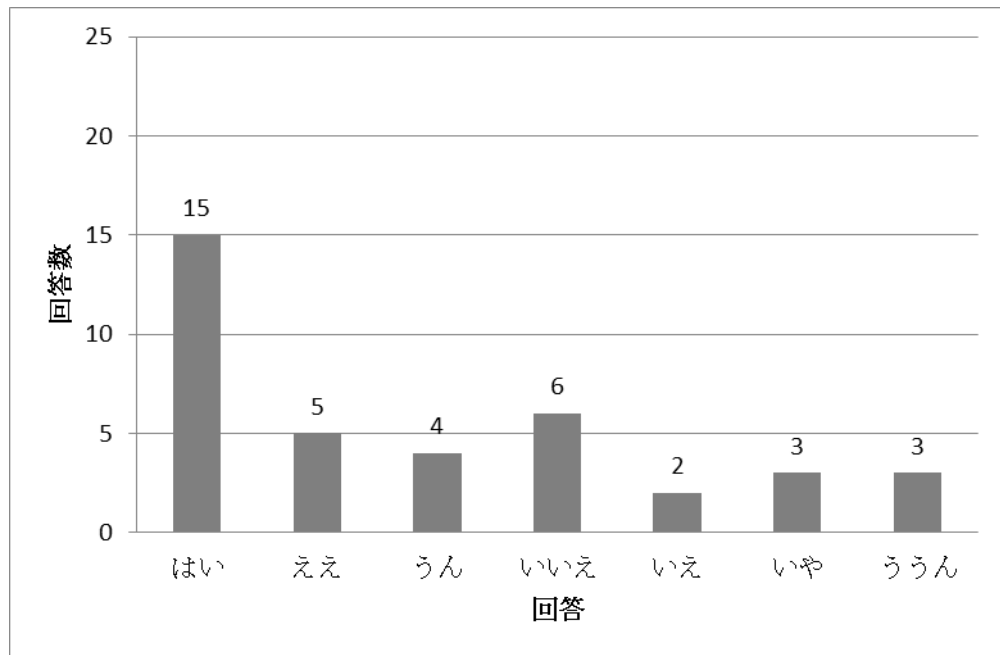


図 18 : 問 16 の表現使用

図 18 を見ると分るように、「はい」の選択が最も多いことが確認できた。多くの学習者にとっては「⑩了解」に対する応答としては、「はい」が適切であると認識していても「ええ」「いいえ」が不適切であるということが認識はないと言える。次に「⑰共感」での学習者の回答結果について見ていく。アンケートの問は以下の通りである。

「⑰<sup>きょうかん</sup>共感」

(17)A: わあ、きれいですね。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん、そうですね。

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ、否定応答表現で応答するのは不自然であるという結果が得られた。また、「わあ、きれいですね」は、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。なお、アンケートではコメントが必要かどうかということを対象とした。学習者の回答結果をみると、8名が「はい」、4名が「ええ」、3名が「うん」と答えた。2名が無回答で、3名が「はい、いいえ」、2名が「はい、ええ、いえ」などを選択していた。学習者の各表現の使用状況は以下の図19で示している。

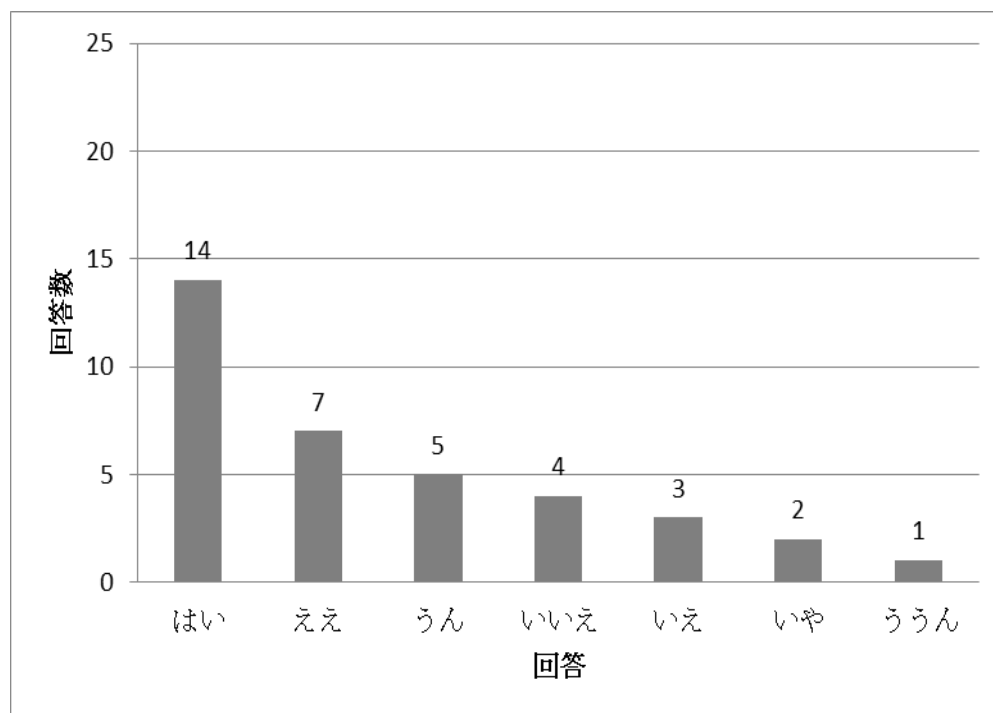


図 19：問 17 の表現使用

図 19 を見ると分るように、「はい」の選択が最も多いことが確認できた。多くの学習者にとって「⑰共感」に対する応答としては「はい」が適切であると認識されている。その一方で、6 名の学習者が「いいえ」が不適切であることが認識できていないことも分かった。

本節での分析、どの用法項目においても「はい」の回答数が多かった。また、どの用法項目においても「はい・いいえ」をペアーとして選択していた回答が見られた。以下の表 54 で示している通りシンハラ語は、「⑰共感」では「ov」のみが使われるため、「はい」の使用が多くなったとも考えられる。

表 54：D パターン（日本語とシンハラ語）

用法	肯定						否定						
	日本語			シンハラ語			日本語				シンハラ語		
	はい	ええ	うん	ov	haa	hari	いいえ	いえ	いや	うん	nae/nehe	bae/behe	epaa
⑬許可	○	△	○	×	○	○	×	×	△	×	×	×	△
⑭承諾	○	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×	○	×
⑮命令応答	○	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×
⑯了解	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
⑰共感	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 ×=使えない)

### 13.5 本章のまとめ

以上、アンケート調査を通して、学習者の応答表現の使用意識について得られた結果を以下にまとめる。

1. 17の用法項目のうち「⑤謙遜」以外、どの項目においても、「はい」の回答数が多かった。
2. どの用法項目においても「はい・いいえ」をペアーとして選択している回答が見られた。これは、初級教科書では、「はい・いいえ」をペアーとして扱っているため、学習者は「はい」が使われるなら、「いいえ」も可能だと考えて、選択したと考えられる。
3. 特に、「⑧点呼」「⑨患者応答」「⑩情報提示」などの用法項目の回答数には母語のシンハラ語の影響を受けて回答している傾向が見られた。
4. 応答表現のうち「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」の使用認識は十分

であるとは言えない。

本章では、応答表現に関する学習者の使用意識を考察した結果、応答表現が適切に使用されていないという結果が得られた。その原因の一つとして、日本語教科書では、応答表現の使用に関する説明が不十分であることが考えられる。そこで、次章では日本語教育現場でよく使われている教科書を中心に、教科書の分析を進める。



## 第14章 初級日本語教科書に現れる応答表現の問題点および指導法

### 14.1 はじめに

「はい」「ええ」「いえ」「いや」などの肯定および否定応答表現は日常会話において極めて使用頻度が高く、日本語教科書においても初級段階のより早い時期に初出している。しかし、どの教科書においても「はい」「ええ」「うん」は共に英語の「yes」の意味又は「ええ」「うん」は「はい」よりくだけた表現、「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」は英語「no」の意味、又は「いえ」「いや」「ううん」は「いいえ」よりくだけた表現を表すと説明しているが、それらの使い分けの特徴の説明まではなされていない。そのため、筆者自身を含め日本語学習者にとっては「はい」「ええ」「いいえ」「いえ」「いや」などの肯定および否定応答表現の使用が最初は困難である。第13章の調査結果から、日本語学習者が応答表現を適切に使用できていない結果が得られた。その原因の一つとして、日本語教科書においては、十分な説明がされていないことが考えられる。そこで、教科書ではどのように応答表現が扱われているかを分析する必要がある。初級教科書に現れる応答表現の扱い方の問題点について考察した研究はいくつかあるが、肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」と否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」という応答表現の全体を把握し、調査した研究は管見のかぎり見当たらない。そこで、本章では先行研究を参照に、日本語教科書に現れる肯定および否定応答表現の「意味説明・導入課」「導入時の文型」等を調査し、応答表現の指導について考察することを目的とする。

### 14.2 先行研究

日本語教科書に現れる応答表現の扱い方について調査した研究として小早川（2006）、二宮，金山（2007）などが挙げられる。それぞれの研究での対象とした教材、研究方法などを以下の表55に示す。

表 55：日本語教科書に現れる応答表現の問題点を考察した研究

研究	研究内容
<p>小早川 2006</p>	<p><b>対象教材：</b>『Japanese for Today』『An Introduction to Modern Japanese』『日本語初歩』『中国からの帰国者のための生活日本語』『Japanese for Busy People I, II』『Japanese:The Spoken Language Part1』『初級日本語』『Japanese for everyone』『Situational Functional Japanese Vol1,2,3』『みんなの日本語 I, II』『初級日本語 [げんき] I, II』『新文化初級日本語 I, II』という12点の初級教科書の本文会話</p> <p><b>調査方法：</b>奥津 (1988)、中島(2001)の自然会話データを参照に、教科書の本文会話に現れた「いいえ系 (イエエ、イヤ、イエ)」応答詞の機能、用法、各語の割合を調査し、考察</p> <p><b>調査結果：</b>教科書の「いいえ系」の8割弱が「問いに対する否定応答」で、中でも「問いに対する否定応答」として、「いいえ」が非常に多い。しかし、自然データでは、「いえ」又は「いや」が最も多く、「いいえ」は儀礼応答としての出現が最も多い。また、「いいえ系」の提示方法として以下の案を示している。</p> <p>初めから「いいえ」ではなく「いえ」を丁寧な基本の「いいえ系」応答詞として提示する。</p> <p>「いいえ」は「いえ」の強調形で否定の意味合いが強いことを明示する。</p> <p>「いいえ」は「問いに対する否定応答」という提示を避け、「遠慮」「謝罪」「感謝」等に対する儀礼用法を中心に提示する。</p> <p>「いや」はカジュアルな場面、親しい者同士の会話で提示する。</p>
<p>二宮・ 金山 2007</p>	<p><b>対象教材：</b>『ICUの日本語Vol1～3』『げんき I, II』『Situational Functional Japanese Vol1～3』『Japanese for Busy PeopleVol1～3』『新日本語基礎 I, II』『Japanese for everyone』『ようこそ I, II』という七つの日本語教科書</p> <p><b>調査方法：</b>上記の七つの教科書の「ええ」の意味説明、「ええ」が導入される課及び導入時の文型及びコンテキスト、二宮・金山 (2005)の考察における分類にしたがって、各教科書の「ええ」「はい」の現れ方の考察</p>

<p>二宮・金山 2007</p>	<p><b>調査結果：</b>できれば早い時期に「はい」「ええ」に違いがあることを意識させる。「はい」「ええ」の意味や英訳については、以下の8点について述べている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ええ」は「はい」のカジュアル表現といった説明は避ける。</li> <li>2. 「ええ」と「はい」の違いは待遇差だけではないという説明を加える。</li> <li>3. 「はい」「ええ」は単に肯定応答ではなく、「はい」には認知応答「ええ」には同意応答・共鳴応答などの機能があることを説明する。</li> <li>4. 先行文がないとき、呼びかけに対しては「はい」であり、「ええ」は使えないということを明示すべきである。</li> <li>5. 命令文に対しては、「はい」で応答するが自然で適切であることを明示すべきである。</li> <li>6. 「～ね」を伴う先行文に対しては、「ええ」が現われやすいことを指摘することにより、「ええ」の同意応答としての機能が明確に指導できる。</li> <li>7. 「ええ」は同意表現であり、相手の発話内容に同意するか否かというプロセスがあるため、「はい」より主体的・積極的な表現だということに言及する。</li> <li>8. 「ええ」が幅のある表現であるという説明を加える。</li> </ol>
-----------------------	---

小早川（2006）は、「いいえ」「いえ」「いや」に着目し、確認、謝罪、感謝などの機能別に各語の出現数を示し、「いいえ系」の提示方法について説明している。二宮・金山（2007）は、「ええ」に着目し、それら指導法について述べている。本論では、肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」と否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」という応答表現の全体を把握し、第6章の17用法項目に関して教科書ではどのように扱われているかを調べ、応答表現の指導について考察していく。以下、14.3節からこれに関する具体的な研究方法について言及する。

### 14.3 研究方法

日本語教科書の選定に当たって、妥当な基準の一つとして「よく使われている」すなわち「よく売れている」ということがある（森 2011）。この基準に従い、日本国外・国内でよく使われている『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ（以下MNⅠ、Ⅱ）』『げんきⅠ、Ⅱ（以下

GEN I、II)』『Japanese for Busy people I、II (JFBP I、II)』という教科書を選定した。

上記の教科書の肯定および否定応答表現を取り上げ、下記の項目について調査し、その説明や問題点について検討する。

1. 肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」と否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」の「意味説明・導入課」「導入時の文例」
2. 第6章で取り上げた肯定および否定応答表現の17の用法項目（「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」）による教科書での応答表現の扱い方

#### 14.4 分析および考察

##### 14.4.1 教科書における「肯定応答表現」の意味説明・導入文型

本節では、二宮・金山（2007）を参照に日本語教科書の肯定応答表現の扱い方について考察する。以下の表56は、各教科書の「肯定応答表現」の意味説明および導入時の文型をまとめたものである。

表56：日本語教科書における「肯定応答表現」の意味説明および文型

教科書	意味説明・導入課・導入時の文型
MN I	<p>はい - yes (L1)</p> <p>[あなたは] マイク・ミラーさんですか。</p> <p><u>はい</u>、[わたしは] マイク・ミラーです。</p> <p>ええ - yes (L6)</p> <p>あしたテニスをしませんか。</p> <p><u>ええ</u>、いいですね。</p> <p>うん - yes (L20) (an informal equivalent of はい)</p> <p>アイスクリーム [を] 食べる？</p> <p><u>うん</u>、食べる。</p>

<p>GEN I</p>	<p>はい - yes (L1)</p> <p>Teacher: スミスさん?</p> <p>Student: <u>はい</u> (第1課 表現ノート)</p> <p>ええ - yes (L1)</p> <p>たけし: あの、りゅうがくせいですか。</p> <p>メアリー: <u>ええ</u>、アリゾナだいがくのがくせいです。(第1課 あたらしいともだち)</p> <p>うん - yes (L8)</p> <p>Q: よく魚を食べる?</p> <p>A: <u>うん</u>、食べる。</p> <p>はい/ええ: Both hai and ee mean “yes” in response to yes-no questions. Compared to “hai”, “ee” is more conversational and relaxed. In more informal situations “un” is used.</p> <p>Hai is also used to respond to a knock at the door or the callings of one’s name, meaning “Here” as follows. (“ee” cannot be replaced in this case.)</p> <p>Teacher: スミスさん? Mr .Smith</p> <p>Student: はい Here (L1 P17)</p> <p>In casual conversations, はいandいいえ are usually replaced by the less formal うんandううん.</p>
<p>JFBP I</p>	<p>はい is virtually the same as “yes” (Unit 1 grammar)</p> <p>ex: グレイさん、べんごしですか。</p> <p><u>はい</u>、べんごしです。</p> <p>ええ - Yes (less formal than はい) (L2)</p> <p>たかはし: わたしのめいしです。</p> <p>スミス: どうもありがとうございます。(flipping over Takahashi’s business card to examine the other side) これはたかはしさんのなまえですか。</p> <p>たかはし: <u>ええ</u>、そうです。たかはししんごです。</p>

JFBP II	うん - un-huh, yeah (informal) L17 男A: もうあの映画見た？ 男B: うん、もう見た。(L17、P197)
---------	---

表56で示しているように、ほとんどの教科書は「はい」「ええ」は第1課か第2課で導入されている。しかし、「うん」は「みんなの日本語初級 I」は第20課と「げんき初級 I」は第8課で初出している。ほとんどの教科書は「はい」「ええ」「うん」のいずれも「yes」又は「はい」よりくだけた表現と説明している。しかし、「げんき初級 I」に詳しい説明が英語でなされている。「呼びかけ」や「名前を呼ばれた時／出席をとる」のような場合「はい」で返答するが、この場合「ええ」は使えないという詳しい説明がある。「げんき初級 I」では「はい」と「ええ」の使い分けが明確に提示されている。「はい」「ええ」は常に置き換えることができるわけではないということをより早い時期に意識することは学習者にとっては大事なことだと考えらる。「げんき初級 I」と比べると日本語教育現場で一番よく使われている「みんなの日本語」の説明は不十分である。特に『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』においても、教える際のポイントの説明が不十分である。また、「導入される時の文型」はどの教科書でも「真偽疑問文」に対する応答として導入されている。

<p>「か」を文末につけると疑問文になる。叙述の内容が正しい場合は「はい」、間違っている場合は「いいえ」で答える。(L1 P22)</p> <p>ええ - 「はい」と同じ意味で、会話でよく使われる。(L6 P86)</p>
---

『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』

以上、教科書での肯定応答表現の「意味説明・導入課・導入時の文型」について考察した。第9章の日本語と英語の応答表現分析結果によると、日本語においても英語においても「はい/ええ/うん」と「yes/yeah/uh - huh」などの違いは丁寧さのみではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。また、日本語では「はい」の使用範囲が英語の「yes」よりも広いということも確認できた。そのため、教科書の「はい」「ええ」「うん」は英語の「yes」の意味という説明は決して望ましいものではないと言える。次節では、日本語教科書の否定応答表現の扱い方について考察する。

#### 14.4.2 教科書における「否定応答表現」の意味説明・導入文型

本節では、二宮・金山（2007）を参照に日本語教科書の否定応答表現の扱い方について考察する。以下の表 57 は、各教科書の「否定応答表現」の意味説明および導入時の文型をまとめたものである。

表 57：日本語教科書における「否定応答表現」の意味説明および文型

教科書	意味説明・導入課・導入時の文型
MN I	<p>いいえ - no (L1)</p> <p>ミラーさん学生ですか。</p> <p><u>いいえ</u>、[わたしは] 私は学生じゃありません。</p> <p>ううん - no (L20) (an informal equivalent of いいえ)</p> <p>そこにはさみ [が] ある？</p> <p><u>ううん</u>、ない。</p>
GEN I	<p>いいえ - No, not at all (第1課 表現ノート)</p> <p>いいえ - Iie is primarily “No” a negative reply to a question. In the dialogue, it is used to express the English phrase “Don`t mention it” or “You`re welcome”, with which you point out that one is not require to feel obliged for what you have done for them.</p> <p>メアリー：ありがとうございます。</p> <p>たけし：<u>いいえ</u>。(L1)</p> <p>ううん - No (L8)</p> <p>Q: よく魚を食べる？</p> <p>A: <u>ううん</u>、食べない。</p> <p>In casual conversations, はいandいいえ are usually replaced by the less formal うんandううん. (L8 P192)</p>
GEN II	<p>いや - No (L23)</p> <p>お母さん：メアリーがいなくなるとさびしくなるね。</p> <p>メアリー：でも、来年大学を卒業したら、また日本に戻ってきますから。お父さん、お母さん、本当にお世話になりました。</p> <p>お父さん：<u>いや</u>、私たちもメアリーがいて、とても楽しかったよ。</p> <p>第23課で「いえ」の文例はあるが、説明はなされていない。</p>

JFBP I	<p>いいえ - no (Unit 1 grammar)</p> <p>いいえ is virtually the same as “no”. It is better, however, to think of はい as meaning, “That`s right,” and いいえ as meaning, “That`s Wrong.” Otherwise negative questions can be a problem. Namely, to the question, じゃ、バナナがありませんか, “so you have no bananas? the reply is はい、ありません, “That`s right, we have none.” Or いいえ、あります, “That`s right, we have some.”</p> <p>Ex. Q: これはめいしですか。</p> <p>Aa: <u>はい</u>、めいしです。</p> <p>Ab: <u>いいえ</u>、めいしではありません。ほんです。(L2)</p>
JFBP II	<p>ううん - Nope, no (informal) L17</p> <p>男A: もうあの映画見た?</p> <p>男B: ううん。まだ。(L17、P197)</p>

表57で示しているように、どの教科書においても「いいえ」は第1課で導入されている。「ううん」は「みんなの日本語初級 I」は第20課と「げんき初級 I」は第8課で初出し、「いいえ」「ううん」は英語の「no」又は「いいえ」よりくだけた表現と説明している。しかし、「げんき初級 I」では詳しい説明が英語でなされている。「げんき初級 I」では、「いいえ」は疑問文に対する否定応答表現であり、「ありがとうございました」に対する返答として、「いいえ、とんでもないです/どういたしまして」の意味も含めているという詳しい説明がある。「げんき初級 I」と比べると、日本語教育現場で一番よく使われている「みんなの日本語」の説明は不十分である。特に『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』においても、教える際のポイントの説明が不十分である。

「か」を文末につけると疑問文になる。叙述の内容が正しい場合は「はい」、間違っている場合は「いいえ」で答える。(みんなの日本語初級 I 教え方の手引き、L1 P22)

「導入される時の文型」は「みんなの日本語初級 I」「Japanese for Busy People I」は、「真偽疑問文」に対する応答、「げんき初級 I」は「真偽疑問文」と「ありがとうございました」の応答として導入されている。



「みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ」では、「いえ」「いや」は導入されていない。「げんき初級Ⅱ」では、「いや」のみが導入されており、第23課で初出し、英語の「no」と訳し、「本当にお世話になりました」の応答として、導入されている。「Japanese for Busy PeopleⅠ」では、「いいえ」のみを導入されている。

以上、教科書での否定応答表現の「意味説明・導入課・導入時の文型」について考察した。自然会話データに基づき否定応答詞の出現総数および比率を分析した中島(2000)は、多い方から「いや」「いえ」「ううん」「いいえ」の順になっていると述べている。小早川(2006)は、自然会話データでは、問に対する応答として最も多く出現するのは、「いえ」または「いや」であり、「いいえ」は儀礼応答としての出現が多いと指摘している。しかし、教科書での扱いを見ると、「みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ」も「げんき初級ⅠⅡ」も「Japanese for Busy PeopleⅠ」も「いえ」を導入していない。「げんき初級Ⅱ」だけは「いや」を最後の第23課で導入している。どの教科書においても「いいえ」と「ううん」のみを「初級教科書Ⅰ、Ⅱ」ともに扱い中級に入るまで「いいえ」と「ううん」という自然会話と異なるインプットがされる。それで、教師による詳しい説明がなければ、初級学習者は否定応答表現の様々な用法を理解できず、混乱や誤解を招く恐れがあると考えられる。

#### 14.4.3 日本語教科書における応答表現の扱い方

本節では、第6章で取り上げた、応答表現の17の用法項目（「真偽」「確認応答」「許可」「承諾」「共感」「あいづち」「独話あいづち」「命令応答」「了解」「謙遜」「打ち切り」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」）の結果に基づき、各日本語教科書における応答表現の扱い方を以下の四つのパターンを取り上げ、考察していく。

1. 日本語では、肯定・否定応答表現がいずれも使われる場合（以下Aパターンとし、14.4.4で取り上げる）
2. 日本語では、肯定応答表現のいずれも使われる場合と否定表現のみが使われる場合。（以下Bパターンとし、14.4.5で取り上げる）
3. 日本語は「はい」のみが使われる場合。（以下Cパターンとし、14.4.6で取り上げる）
4. 日本語では例えば、「ええ+コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合。（以下Dパターンとし、14.4.7で取り上げる）

上記の四つのパターンにおいて考察の際使う表で示している記号は以下の通りである。

はい：「はい」が提示されている。

ええ：「ええ」が提示されている。

うん：「うん」が提示されている。

いいえ：「いいえ」が提示されている。

いえ：「いえ」が提示されている。

いや：「いや」が提示されている。

ううん：「ううん」が提示されている。

×：該当する文例はあるが、「はい/ええ」などの応答表現が使われていない。

—：該当する文例がない。

#### 14.4.4 A パターンの場合

本節では日本語の肯定応答表現がいずれも使われる「真偽」「確認応答」での教科書の応答表現の現れ方について考察する。以下の表 58 は、それを具体的に示したものである。

表 58：教科書における応答表現の現れ方（A パターン）

用法	MN I	MN II	GEN I	GEN II	JFBP I	JFBP II
① 真偽	はい	はい	はい	はい	はい	はい
	ええ	ええ	ええ	ええ	ええ	ええ
	うん	うん	うん	うん	いいえ	うん
	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ		いいえ
	ううん	ううん	ううん	ううん		ううん
② 確認応答	ええ	ええ	ええ	ええ	ええ	ええ

以下、調査対象の教科書に見られたの文例を一部抜粋して分析、考察していく。まず、

「①真偽」の文例を以下のように示す。

##### 1. 「みんなの日本語初級 I」

〔あなたは〕 マイク・ミラーさんですか。

はい、〔わたしは〕 マイク・ミラーです。(L1 (文型)、P6)

2. 「みんなの日本語初級Ⅰ」

学生のとて、アルバイトをしましたか。

ええ、時々しました。(L23 (文型)、P196)

3. 「げんきⅠ」

たけし：あの、りゅうがくせいですか。

メアリー：ええ、アリゾナだいがくのがくせいです。(第1課 あたらしいともだちP39)

4. 「げんきⅠ」

Q：元気？

A：うん、元気。/ううん、元気じゃない。(第8課 練習P199)

5. 「Japanese for Busy PeopleⅠ」

おとこのひと：もしもし、たなかさんのおたくですか。

おんなのひと：いいえ。ちがいます。(L12 P80)

第6章で得られた結果によると、「①真偽」に関しては、「はい/ええ/うん」と「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、どの教科書においても「いえ」と「いや」の文例を導入されていない。「はい/ええ/うん/いいえ/ううん」の文例は、どの教科書にも見られず。「げんきⅠ」は、初めて会った友達同士の上記の「iii文例」においては、「ええ」を使っているが、親しくない、初めて会った人に対しては「ええ」よりも「はい」で返答するのがより自然だと思われる。「みんなの日本語Ⅰ」と「げんきⅠ」では、「うん」「ううん」は、動詞文の普通体会話の導入の場面で、質問文の「か」がなく、例えば、上記の「文例4」のように、導入され、「みんなの日本語Ⅰ」と「げんきⅠ」の教師用の「教え方の手引き」でも説明がなされている。次は、教科書の「確認応答」の文例について見てみる。

6. 「みんなの日本語 初級Ⅰ」

ミラー：ホームステイですか。いいですね。

小川幸子：ええ。

7. 「みんなの日本語 初級Ⅱ」

鳥の声が聞こえますね

ええ、もう春ですね。(L27 会話、P10)

8. 「げんき I」

メアリー：寒くなりましたね。

たけし：ええ。(省略) (L10会話、P228)

9. 「Japanese for Busy People I」

たなか：きょうはいいてんきですね。

スミス：ええ。ほんとうにいいてんきですね。(L13、P90)

日向(1980)は、「ね」を伴う確認文の場面では、AB 共に同じ情報を共有していることが前提となり、「ええ」が現れやすいと指摘し、確認文に対しては待遇的に「はい」「ええ」「うん」が使い分けられると述べている。本調査では、「確認応答」として「はい/ええ/うん」と「いいえ/いえ/いや/ううん」のいずれも使われるという結果が得られた。なお、どの教科書においても確認に対する応答として、一番よく現れやすい「ええ」しか見られなかった。次は、B パターンの場合の教科書の文例を考察する。

#### 14.4.5 B パターンの場合

本節では、肯定応答表現のいずれも使われる「③あいづち」「④独話あいづち」と、否定表現のみを使われる「⑤謙遜」の場合での教科書の応答表現の現れ方について考察する。以下の表 59 は、それを具体的に示したものである。

表 59：教科書における応答表現の現れ方 (B パターン)

用法	MN I	MN II	GEN I	GEN II	JFBP I	JFBP II
③あいづち	—	—	—	—	—	—
④独話あいづち	—	—	—	—	—	—
⑤謙遜	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ いや いえ	いいえ	いいえ

以下、調査対象の教科書に見られた文例を一部抜粋して分析、考察していく。「⑤あいづち」と「⑥独話あいづち」は、どの教科書においても導入されていなかった。「⑤謙遜」の文例を以下のように示す。

10. 「みんなの日本語 初級Ⅰ」

マリア・サントス：きょうはどうもありがとうございました。

山田友子：いいえ。また いらっしゃってください。（L8会話、P67）

11. 「げんきⅠ」

メアリー：ありがとうございます。

たけし：いいえ。（L1会話、P38）

12. 「げんきⅡ」

客：すみません。しょうゆを落としちゃたんです。ごめんなさい。

山下先生：いえ、大丈夫です。（L18 P140）

本調査では、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや/ううん」のいずれも使われ、「いえ」「いや」は「いえいえ」「いやいや」のように連続しても使われるという結果が導き出された。「げんきⅡ」以外の教科書には「いいえ」しか導入されていなかった。「げんきⅡ」では、「いや」「いえ」の文例も見られた。次は、Cパターンの場合の教科書の文例を考察する。

#### 14.4.6 Cパターンの場合

本節では、日本語は「はい」のみが使われる「情報提示」「応答の応答」「呼びかけ応答」「点呼」「患者応答」「電話応答」「打ち切り」の用法項目において教科書の応答表現の現れ方について考察する。以下の表 60 は、それを具体的に示したものである。

表 60：教科書における応答表現の現れ方（C パターン）

用法	MN I	MN II	GEN I	GEN II	JFBP I	JFBP II
⑥情報提示	×	×	×	×	×	×
⑦応答の応答	×	×	×	×	×	×
⑧呼びかけ応答	はい	—	はい	—	はい	はい
⑨点呼	×	はい	はい	—	×	×
⑩患者応答	×	×	×	×	×	×
⑪電話応答	×	×	×	×	×	×
⑫打ち切り	×	×	×	×	×	×

本調査では、「⑥情報提示」と「⑦応答の応答」では、「はい」のみが使われるという結果が得られた。なお、「⑥情報提示」と「⑦応答の応答」に対する応答表現が導入された教科書はなかった。

「⑧呼びかけ応答」に対する応答表現として本調査では、「はい」のみが使われるという結果が導き出された。全ての教科書の初級 I では、「はい」が使われていた。「げんき初級 I」表現ノートや教師用「教え方の手引き」では、「呼びかけ」に対する返答は「はい」であって、「ええ」は使えないという詳しい説明がなされている。「みんなの日本語 I」「Japanese for Busy People I」では、詳しい説明がなされていない。「⑧呼びかけ応答」に対する一例を以下に示す。

13. 「みんなの日本語 初級 I」

A: すみません。

B: はい。(L14練習、P123)

14. 「みんなの日本語 初級 I」

A: ちょっとすみません。

B: はい。(L15練習、P131)

15. 「Japanese for Busy People II」

チャン：すみません。

駅員：はい。何でしょうか。（L2、P14）

「⑨点呼」では本調査によると、「はい」のみが使われるという結果が得られた。「みんなの日本語初級Ⅰ」「げんき初級Ⅰ」では、「⑨点呼」に対する応答表現が導入された文例が見られた。一例を以下に示す。

16. 「みんなの日本語 初級Ⅱ」

A: ミラーさん。

B: はい。

A: コートのボタンがてれそうですよ。（L43練習P151）

「げんき初級Ⅰ」表現ノートや教師用「教え方の手引き」では、「名前を呼ばれた時／出席をとる」に対する返答は「はい」であって、「ええ」は使えないという詳しい説明がなされている。「みんなの日本語初級Ⅱ」では、詳しい説明がなされていない。

「⑩患者応答」「⑪電話応答」では、「はい」のみが使われるという結果が本調査で得られたが該当する文例対象教科書ではなかった。「⑫打ち切り」では、「はい」が「はいはい」のように二回使われるということが調査結果から確認できたが、どの教科書においても導入されていなかった。

#### 14.4.7 Dパターンの場合

本節では、日本語は例えば、「ええ＋コメント」又は「はい」「うん」のみが使われる場合の「許可」「承諾」「命令応答」「了解」「共感」での教科書の応答表現の現れ方について考察する。以下の表 61 は、それを具体的に示したものである。

表 61：教科書における応答表現の現れ方（D パターン）

用法	MN I	MN II	GEN I	GEN II	JFBP I	JFBP II
⑬許可	はい ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ
⑭承諾	—	はい ええ	—	はい ええ	—	はい ええ
⑮命令応答	はい	はい	—	—	はい	はい
⑯了解	はい	はい	はい	はい	はい	はい
⑰共感	ええ	ええ	ええ	ええ	ええ	ええ

まず、「⑬許可」に対する教科書の文例を見てみる。文例は以下に示す。

17. 「みんなの日本語 初級 I」

このカタログをもらってもいいですか。

ええ、いいですよ。どうぞ。（L15例文、P126）

18. 「みんなの日本語 初級 II」

すみません。この服を着てみていいですか。

はい、こちらでどうぞ。

19. 「げんき I」

メアリー：クレジットカードで払ってもいいですか。

旅行会社の人：はい。（L10会話、P228）

20. 「げんき I」

A: たばこを吸ってもいいですか。

B: ええ、いいですよ。（L6、P158）

21. 「Japanese for Busy People I」

はやし：すみません。ペンがありません。このペンをつかっていいですか。

てんいん：はい、どうぞ。（L23、P144）

本調査では、「⑬許可」に関しては肯定応答表現の「はい/ええ/うん」のいずれも使われ



ることが分かった。「ええ」は「ええ、いいですよ」のように「ええ」の後に許可を与える表現が続かないと不自然で、「うん」は友人同士や目下の人に使われることが確認できた。否定応答表現として「いや」だけが使われるが、目下の人にしか使われないという結果が得られた。全ての教科書の初級Ⅰ、Ⅱでは、「㊸許可」に対する応答表現として「はい」「ええ」が使われていた。全ての対象教科書初級Ⅰ教師用の「教え方の手引き」では、許可を求める表現を導入する際現れ、許可をする場合は「いいですよ、どうぞ」などと一緒に用いるという説明がなされていた。許可しない場合は、「すみません、ちょっと…」などを用いるという説明が見られた。「みんなの日本語Ⅰ」教師用の「教え方の手引き」では、許可しない場合は、「「いいえ、いけません。/だめです」は使われないが、規則などで許可できない場合には使われることを学習者に例を挙げながら説明するように指摘している。

次は「㊹承諾」に対する教科書の文例を見てみる。

#### 22. 「みんなの日本語 初級Ⅱ」

ミラー：すみませんが、電話番号を教えてくださいませんか。

管理人：ええ、いいですよ。（L26会話、P3）

#### 23. 「みんなの日本語 初級Ⅱ」

A:これ、お願いします。

B:はい。（L27練習、P15）

#### 24. 「みんなの日本語 初級Ⅱ」

もう夜遅いですから、静かにしていただけますか。

はい、すみません。（L44文型P154）

本調査では、「㊹承諾」の肯定応答表現として「はい/ええ/うん」のいずれも使われることが分かった。「ええ」と「うん」は「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」の後に後文が続くと自然であるという結果が得られた。否定応答表現として「いや」のみではなくて「いや、すみません。今時間がないんです」のような後文が続く。なお、通常「いいえ、いえ、いや、ううん」等の直接的な否定応答表現を使わず、間接的な断り表現が使われることが確認できた。調査対象全ての教科書のⅡでは、「㊹承諾」に対する応答表現として「はい」「ええ」が使われて、教師用の「教え方の手引き」では、「いいですよ」と一緒に用いるという説明がなされていた。断る場合は、「すみません、ちょっと…」などを用いるという説明が見られた。

次は「㊺命令応答」に対する教科書の応答表現の現れ方について見てみる。文例は以下

の通りである。

25. 「みんなの日本語初級Ⅰ」

ここであそんではいけません。

はい。(L15例文、P126)

26. 「Japanese for Busy PeopleⅠ」

たなか：すみません。メニューをみせてください。

ウィットレス：はい、どうぞ。

27. 「Japanese for Busy PeopleⅡ」

加藤：渡辺さんが知っていますから、渡辺さんに聞いてください。

鈴木：はい。(L7、P72)

本調査によると、「⑮命令応答」に対する答えとして「はい」と「うん」が使われるという結果が導き出された。「はい」は上下関係、親疎関係を問わず使われるが、「うん」は友人同士、家族など親しい相手から受けた命令にしか使われないことが確認できた。調査対象教科書では、「～てください」に対する応答は「はい」になっていたが、「命令応答」として「はい」が適切であるというはなされていなかった。「みんなの日本語初級Ⅰ」では「～いけません」に対する答えとして「はい」の文例はあったが、応答表現の使い分けにおいて説明がなかった。「げんきⅠ、Ⅱ」では、「わかりました」のみで応答している文例が見られた。

次は「⑯了解」に対する教科書の応答表現の現れ方について見てみる。文例は以下の通りである。

28. 「みんなの日本語 初級Ⅰ」

A: 薬はこれとこれです。

B: はい。(L19練習、p168)

29. 「げんきⅠ」

山下先生：教科書を持ってきてくださいね。毎日使いますから。

ロバート：はい、すみません。(L6会話、P146)

30. 「げんきⅡ」

店長：うん。そのスイッチを押すとつくよ。

ジョン：はい。(L18会話、P140)

### 31. 「Japanese for Busy People I」

はやし：あさの7じにとうきょうえきのかいさつぐちで、あいましょう。

スミス：はい、わかりました。じゃ、どようびに。(L16、P103)

本調査によると、「⑩了解」では目上の人に対しては「はい」、友人同士なら「うん」が使われることが確認できた。調査対象の教科書は全て、「はい」が使われているが、「はい」が適切で、「ええ」と否定応答表現が不適切という説明がなされていない。次は、「⑰共感」に対する教科書の文例を見してみる。文例は以下の通りである。

### 32. 「みんなの日本語 初級Ⅱ」

カリナ：紅葉がきれいですね。

ガイド：ええ。金閣寺は紅葉と雪の季節が特に美しいと」言われています。(L37会話P97)

### 33. 「Japanese for Busy People I」

スミス：きれいなかびんですね。

たなか：ええ、たんじょうびにともだちのクラークさんにももらいました。(L15、P98)

本調査では、「感嘆文+ね」は相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていないければ、否定応答表現で応答するのは一般的ではないという結果が得られた。また、相手の同意を求めているため、「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現が続かないと不自然であるということが分かった。調査対象の教科書は全て、「ええ」のみが使われていた。どの教科書においても使いわけの説明がなされていない。

## 14.5 本章のまとめ

以上の結果を踏まえ、初級学習者に応答表現を導入する際の指導法について、以下のよう  
に提案する。

1. 「はい」は英語「yes」、「いいえ」は英語の「no」という英語の意味説明は避ける。

本論文の第9章の日本語と英語の肯定・否定応答表現の比較、分析の結果によると、日本語では「はい」の使用範囲が英語の「yes」よりも広いということが確認できた。そのため、

日本語教科書における「はい」は英語の「yes」の意味であるという説明は決して望ましいものではない。否定応答表現の「いいえ」においても「真偽」と「確認応答」という二つの用法項目でしか「いいえ」と「no」の対応関係が見られなかった。そのため、日本語教科書における「はい」「いいえ」の英語の意味説明では、学習者に用法の習得や使用が困難となるのは当然なことである。

2. 「はい・いいえ」をペアーとして扱うことを避ける。

本論文の第13章では、アンケート調査を通して、学習者の応答表現に関する使用意識について考察したところ、「真偽」「点呼」「呼びかけ応答」などどの用法項目においても「はい・いいえ」をペアーとして選択した回答が見られた。教科書では、「はい・いいえ」をペアーとして扱うことで、学習者は「はい」が使われるなら「いいえ」も可能と考えるしまう可能性がある。

3. 「ええ」「うん」は単なる「はい」の「informal、less polite（くだけた、非丁寧な表現）」、「いえ」「いや」「ううん」は「いいえ」の「informal、less polite（くだけた、非丁寧な表現）」という説明は避ける。

本論文の第6章の日本語とシンハラ語の肯定・否定応答表現の比較、分析の結果によると、「はい/ええ/うん」、「いいえ/いえ/いや/ううん」の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが明らかになった。特に、「はい」と「ええ」、「いいえ」と「いや」に関しては「丁寧さのみが違う」という説明は決して望ましいものではない。「はい」「ええ」は常に置き換えることができるということにより早い時期に意識することは学習者にとっては大事なことだと考えらる。

4. 肯定応答表現のうち「はい」のみが使われる「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」「情報提示」と「打ち切り」の用法項目においては「はい」のみが適切であるという説明を加える。

本論文の第6章の日本語とシンハラ語、第7章から第12章までの韓国語、モンゴル語、英語、スペイン語、中国語、インドネシア語では、上記の多くの用法項目においては、応答表現が用いられず、他の表現が用いるという結果が得られた。例えば、「点呼」では、シンハラ語もモンゴル語も英語もスペイン語も中国語もインドネシア語も応答表現を使わず、「います」という意味の表現が使われている。韓国語においても韓国語の肯定応答表現の

うち「ne/ye」のいずれも可能になっている。初級段階では、母語の影響を受ける可能性が高いため、「点呼」に対する返答は「はい」のみで、友人同士で（出席をとる/名前を呼ばれる）にしても「ええ」「うん」は点呼の返事にはならないということを学習者にはしっかり教える必要がある。

5. 「命令応答」「了解」の用法項目においては「はい」は適切であり、「ええ」は使われないという説明を加える。

日向（1980）、二宮・金山（2006）、本論文の第6章の日本語とシンハラ語の応答表現の比較、分析の結果では、「命令応答」として「ええ」を使うと自分に向けられた命令に対して「自分もそう思う」という意味になり非常に不自然だと指摘している。初級段階では、どの教科書においても命令文として「～てください」が導入されているため、先生から受けた命令ではなく、様々な人物設定や場面設定により、「ええ」は不適切であることを提示することができる。学習者が正しく産出できるようになるには、会話練習を繰り返して行う必要性もあると思う。

6. 異なる用法項目を一緒に導入することによって、より効果的な指導を行う。

例えば、

「みんなの日本語初級 I、P83」の第 10 課の会話には以下のような会話例がある。

ミラー：すみません。アジアストアはどこですか。

女の人：アジアストアですか。

あそこに白いビルがありますね。

あのビルの中です。

ミラー：そうですか。どうもすみません。

女の人：いいえ。

上記の会話例を以下のようにすれば、同時にいくつかの用法での応答表現の使用の違いを明らかにするのに効果的であると思われる。

ミラー：すみません。

女の人：はい。（命令応答）

ミラー：アジアストアはどこですか。

女の人：アジアストアですか。

ミラー：はい。（真偽）

女の人：あそこに白いビルがありますよね。

ミラー：ええ。(確認応答)

女の人：あのビルの中です。

ミラー：そうですか。どうもすみません。

女の人：いいえ。(謙遜)

#### 7. 否定応答表現の「いえ」と「いや」をより早い時期に提出する。

本章の全ての対象教科書では、「いいえ」と「ううん」をより早い時期に初出しているが、「いえ」と「いや」を導入されているのは「げんき初級Ⅱ」のみである。自然会話データに基づき否定応答表現の出現総数および比率を分析した中島(2000)は、多い方から「いや」「いえ」「ううん」「いいえ」の順になっていると述べている。小早川(2006)は、自然会話データでは、問に対する応答として最も多く出現するのは、「いえ」または「いや」であり、「いいえ」は儀礼応答としての出現が多いと指摘している。そのため、自然会話と異なるインプットより自然会話により近いインプットをされることは大事だと思う。

#### 8. 先行発話に対する応答ではない「はい」を導入の際、説明を加える。

例えば、

「げんき I L4, P102」

お父さん：人がたくさんいましたか。

メアリー：はい。お寺で写真をたくさん撮りました。デパートにも行きました。はい、おみやげです。

お父さん：ありがとう。

教科書においては、「はい」は英語の「yes」という意味であると指摘しながら、肯定の意味を表す「はい」と「はい」の特別な機能(ものを渡す時)を表す「はい」を同時に導入することは決して望ましいものではない。なぜなら、この場合、英語では「yes」ではなくて、「here」が使われるからである。

#### 9. 肯定応答表現の「はい/ええ/うん」と否定応答表現の「いいえ/いえ/いや/ううん」の提案はより分かりやすく示す。

「はい」：問いに対する肯定応答又は同意応答

「ええ」：同意応答、「～ね」を伴う確認文・感嘆文に対する応答

「ええ+文」としての使用が多い。例えば、「ええ、そうですね。」

「うん」：肯定応答（目上の人には使わない）

「いいえ」：謝罪、感謝に対する儀礼応答、問いに対する否定応答

「いえ」：問いに対する否定応答

「いえ+文」としての使用が多い。例えば、「いえ、学生ではありません。」

「いや」：問いに対する否定応答（友人同士や家族など親しい相手に使うことが多い。

目上の人にも使える）

「いや+文」としての使用が多い。例えば、「いや、そんなことはありません」

「ううん」：問いに対する否定応答（目上の人には使わない）

以上、本研究の結果を踏まえ、応答表現の指導法について提示した。次章では、各章の総合的考察の結果をまとめる。

## 第15章 総合的な考察

### 15.1 各章のまとめ

第1章では、研究背景、本研究の目的と本論文の構成について述べた。まず、応答表現に関する従来の研究では肯定・否定応答表現に用いる「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いや」「ううん」について機能と意味分析に注目した研究が多く、対照言語学的な観点からはほとんど研究されてこなかった現状を述べた。その後、本研究の目的と研究の構成を示した。

第2章では、先行研究と本研究の位置づけについて述べた。これまでの先行研究をまとめた上で、本研究の位置づけについて述べた。また、本研究の課題と研究方法について説明した。

第3章では、小説にみる日本語の応答表現とそれらのシンハラ語訳を用いて、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」とシンハラ語の「ov」「haa」「hari」、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とシンハラ語の「nae:/nehe」「bae:/behe」「epaa」の使用状況に着目して考察を行った。その結果以下のことが明らかになった。

1. 日本語の「ええ」は、先行発話は「確認文」又は「聞き手の感情・意見などを含む後文が続く真偽疑問文」で現れやすいということが分かった。
2. 日本語の「うん」とシンハラ語の「hari」は、親しい発話同士の会話で現れやすいということが確認できた。
3. シンハラ語の「ov」は親しさとは関係なく、命令又は依頼以外で用いられることが分かった。
4. 日本語の「はい」は「相手の発話内容に対しての同意」を示していると言える。
5. シンハラ語の「ov」「haa」「hari」等は同意の役割を果たしているのに、日本語の「ええ」「うん」は同意以外に発話者の感情・意見を含む表現であると言ってもよい。

第4章では、小説にみるシンハラ語の応答表現とそれらの日本語訳を用いて、両言語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、シンハラ語の「ov」に相当する日本語の表現は「はい」と「ええ」である。シンハラ語の否定応答表現の「nae:/bae:」に相当する日本語の表現は「いいえ」で、「epaa」に相当する日本語の表現は「いや」ということが確認できた。

第5章では、日本語母語話者とシンハラ語母語話者の日本語学習を対象としたアンケート



の結果分析によって、日本語とシンハラ語の疑問文に答える際の応答表現の使い方について考察した。その結果、日本語とシンハラ語の「肯定疑問文」に対する答え方は同一であるのに「否定疑問文」に対する答え方が異なることが分かった。

第6章では、日本語の応答表の用法を「真偽」「確認応答」「許可」「点呼」など17項目に分け、日本語母語話者とシンハラ母語話者を対象に調査を行い、さらに、日本語とシンハラ語の応答表現について考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 日本語においては17項目のうち「真偽」と「確認応答」の場面で使用される応答表現形式の種類が最も多いのに、シンハラ語では肯定・否定表現の一つしか使われないことが確認できた。
2. 日本語においてもシンハラ語においても「はい/ええ/うん」と「ov/haa/hari」等の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの形式でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが明らかになった。
3. 「真偽」「確認」「あいづち」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話の応答」などの17項目のうち「謙遜」以外の他のいずれの項目においても「はい」が使われることからのシンハラ語の「ov/haa」に比べて、「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが分かった。
4. 「あいづち」「独話あいづち」「謙遜」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」と「電話の応答」という項目においてシンハラ語に相当する応答表現がないため、シンハラ語を母語とする学習者に教える際、注意をすべきである。
5. 日本語にも、シンハラ語にも、肯定的な応答が多く、否定的な応答は極めて少ないということが確認できた。

第7章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、日本語と韓国語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 日本語においても韓国語においても17用法項目のうち「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現のいずれも使われることが確認できた。なお、第6章で見たシンハラ語は「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現の一つのみが使われ、限られた様子を示した。
2. 「呼びかけ応答」「電話応答」「情報提示」に関しては、日本語も韓国語も「はい」と「ne」が使われることが分かった。これは、シンハラ語には見られない傾向だった。
3. 日本語においても韓国語においても「はい/ええ/うん」と「ne/ye/geu-rae/eung/eo」等の違いは丁寧さのみのではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが今回の調査結果から確認できた。

4. 「許可」「承諾」「共感」「命令応答」「了解」「点呼」「応答の応答」という項目に関しては、韓国語を母語とする学習者に教える際、注意をする必要があると考えられる。
5. 韓国語の「ne/ye」、シンハラ語の「ou/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。

第8章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、日本語とモンゴル語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、以下のことが分かった。

1. 第6章のシンハラ語、第7章の韓国語の分析結果に比べると、多くの用法項目においてはモンゴル語は応答表現が使われないことが明らかになった。「情報提示」「応答の応答」「呼びかけ応答」「点呼」「患者応答」「電話応答」「許可」「承諾」という用法項目においては、日本語に相当するモンゴル語の応答表現がないため、これらの項目に関しては、モンゴル語を母語とする学習者に教える際、注意をすべきである。
2. 日本語においてもモンゴル語においても「はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん」と「za/tiim/ugui/bish」の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの形式でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。
3. 「独話あいづち」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」に関しては、シンハラ語にもモンゴルにも同じ使用傾向が見られた。
4. モンゴル語の「za/tiim」の使用範囲が、シンハラ語の「ou/haa」よりも限られた様相を示していることが確認できた。

第9章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、日本語と英語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 日本語においても英語においても17用法項目のうち「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現のいずれも使われること確認できた。同じ傾向が韓国でも見られた。なお、第6章で見たシンハラ語は「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現の一つのみが使われ、限られた様子を示した。
2. 「患者応答」「独話あいづち」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」に関しては、英語もシンハラ語も同じ使用傾向が見られた。
3. 日本語においても英語においても「はい/ええ/うん」と「yes/yeah/uh - huh」等の違いは丁寧さのみのではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが今回の調査結果から確認できた。
4. 「点呼」「許可」「承諾」「命令応答」「了解」という項目に関しては、英語圏の学習者に教える際注意をすべきである。

5. 英語の「yes/yeah」、シンハラ語の「ou/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。日本語では「はい」の使用範囲が英語の「yes」よりも広いため、多くの日本語教科書における「はい」は英語の「yes」の意味であるという説明は決して望ましいものではないことが分かった。

第10章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、日本語とスペイン語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 日本語においてもスペイン語においても17用法項目のうち「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現のいずれも使われること確認できた。同じ傾向が韓国と英語でも見られた。なお、第6章で見たシンハラ語は「真偽」と「確認応答」では、肯定・否定応答表現の一つのみが使われ、限られた様子を示した。

2. 「患者応答」「点呼」では、インドヨーロッパ語族のシンハラ語にも英語にもスペイン語にも同じ使用傾向が見られた。

3. 日本語においてもスペイン語においても「はい/ええ/うん」と「sí/ajá/ujum」等の違いは丁寧さのみではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが今回の調査結果から確認できた。

4. 「点呼」「命令応答」「了解」「呼びかけ応答」「打ち切り」という項目に関しては、スペイン語を母語とする学習者に教える際、注意をすべきである。

第11章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、日本語と中国語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、以下のことが分かった。

1. 日本語においても中国語においても「はい/ええ/うん」と「hao/shide/en」等の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの表現でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。

2. 中国語には「独話あいづち」「情報提示」「応答の応答」「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」という項目では、日本語に相当する中国語の応答表現がないため、これらの項目に関しては、中国語を母語とする学習者に教える際、注意をすべきである。

3. 「独話あいづち」「情報提示」「呼びかけ応答」「点呼」において、シンハラ語にも英語にも中国語にも同じ使用傾向が見られた。

4. 中国語の「hao/shide」、シンハラ語の「ou/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。

第12章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、日本語とインドネシア語の肯定・否定応答表現の比較、分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 日本語においてもインドネシア語においても「はい/ええ/うん」と「iya/ya」等の違いは丁寧さのみの違いではなく、どの形式でもどの場面でも置き換えることができるわけではないということが確認できた。
2. 「情報提示」「点呼」「電話応答」「応答の応答」「共感」「承諾」「許可」「命令応答」「了解」「呼びかけ応答」「患者応答」「打ち切り」「謙遜」という項目に関しては、インドネシア語を母語とする学習者に教える際、注意をすべき点である。
3. 日本語の「いや」とインドネシア語の「iya」は正反対の意味になっているため、日本語の「いや」の使用は、インドネシア語を母語とする学習者には使いにくいと考えられ、教える際には注意する必要がある。
4. インドネシア語の「iya/ya」とシンハラ語の「ov/haa」の使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものであるということが再確認できた。
5. 17用法項目から見ると日本語では、「①真偽」と「②確認応答」でしか「はい・いいえ」の対応関係は見られなかった。
6. 日本語の「はい」又は英語の「yes」のようにインドネシア語ではもともと応答表現の専門語はなく、「ya」はオランダ語からの借用語である。

第2部の「肯定および否定応答表現の対照研究」では、シンハラ語の「ov」、韓国語「ne」、モンゴル語の「za」、英語の「yes」、スペイン語の「si」、中国語の「hao」、インドネシア語の「iya」に比べて、日本語の「はい」の使用範囲が広いということが確認できた。系統論的又は類型論的に日本語と似ている言語と似ていない言語の対照分析結果から見ると、「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものと言える。シンハラ語も韓国語もモンゴル語も英語もスペイン語も中国語もインドネシア語も肯定応答表現の使用に比べて、否定応答表現の使用は非常に少なかった。良い人間関係を保つために、できる限り相手の発話に対して肯定的に応答することは日本語においても他の言語においても共通していると言える。また、「はい・いいえ」は「対称的」なようであるが、17用法項目から見ると、「真偽」と「確認応答」でしか対称関係は見られなかったため、実は「はい・いいえ」は「非対称的」ということが確認できた。

第13章では、第6章で取り上げた17用法項目を基に、シンハラ語を母語とするJFL環境の学習者を対象に、アンケート調査を通して、学習者がどのように応答表現を使用するのかという学習者の使用意識について考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 17の用法項目のうち「謙遜」以外、どの項目においても、「はい」の回答数が多かった。
2. どの用法項目においても「はい・いいえ」をペアーとして選択していた回答が見られた。これは、初級教科書では、「はい・いいえ」をペアーとして扱っているため、学習者は「はい」が使われるなら、「いいえ」も可能と考えて、選択したと考えられる。
3. 「点呼」「患者応答」「情報提示」などの用法項目の回答数には母語のシンハラ語の影響を受けて回答している傾向が見られた。
4. 応答表現のうち「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」の使用認識は不十分であるということが分かった。

第14章では、日本語教科書に現れる肯定および否定応答表現の「意味説明・導入課」「導入時の文型」等を調査し、応答表現の指導について考察した。そこで得られた結果を踏まえ、初級学習者に応答表現を導入する際の指導法について、以下のように提案した。

1. 「はい」は英語「yes」、「いいえ」は英語の「no」という英語の意味説明は避ける。
2. 「はい・いいえ」をペアーとして扱うことを避ける。
3. 「ええ」「うん」は単なる「はい」の「informal、less polite（くだけた、非丁寧な表現）」、「いえ」「いや」「ううん」は「いいえ」の「informal、less polite（くだけた、非丁寧な表現）」という説明は避ける。
4. 肯定応答表現のうち「はい」のみが使われる「呼びかけ応答」「点呼」「電話応答」「患者応答」「応答の応答」「情報提示」と「打ち切り」の用法項目においては「はい」のみが適切であるという説明を加える。
5. 「命令応答」「了解」の用法項目においては「はい」は適切であり、「ええ」は使われないという説明を加える。
6. 異なる用法項目を一緒に導入することによって、より効果的な指導を行う。
7. 否定応答表現の「いえ」と「いや」をより早い時期に提出する。
8. 先行発話に対する応答ではない「はい」を導入の際、説明を加える。
9. 肯定応答表現の「はい/ええ/うん」と否定応答表現の「いいえ/いえ/いや/ううん」の提案は以下の通りである。

「はい」：問いに対する肯定応答又は同意応答

「ええ」：同意応答、「～ね」を伴う確認文・感嘆文に対する応答

「ええ+文」としての使用が多い。例えば、「ええ、そうですね。」

「うん」：肯定応答（目上の人には使わない）

「いいえ」：謝罪、感謝に対する儀礼応答、問いに対する否定応答

「いえ」：問いに対する否定応答

「いえ+文」としての使用が多い。例えば、「いえ、学生ではありません。」

「いや」：問いに対する否定応答（友人同士や家族など親しい相手に使うことが多い。

目上の人にも使える）

「いや+文」としての使用が多い。例えば、「いや、そんなことはありません」

「ううん」：問いに対する否定応答（目上の人には使わない）

## 15.2 今後の課題

本研究ではまず、小説の分析とアンケート調査を通して日本語とシンハラ語の肯定および否定応答表現の使用状況について比較、分析を行った。そして、応答表現の用法の枠を広め、応答表現の用法を17項目に分類し、さらに日本語とシンハラ語の応答表現の比較、分析を行い、両言語の応答表現の類似点と相違点が明らかにした。そして、日本語とシンハラ語の17用法項目分析で得られた結果を基に、日本語と韓国語・モンゴル語・英語・スペイン語・中国語・インドネシア語との比較、分析を行う。最後に、日本語教育における肯定および否定応答表現の取り扱いについて考察した。その結果、日本語「はい」の特徴をより明確に示した。最後に第3部では、今までの研究結果を踏まえながら日本語教育との結びつきについて考察した。

今回は、応答表現の用法を17項目に分け、比較・分析を行ったが、さらに用法項目を増やし、今回対象外とした言語も含め、比較・分析を行う必要がある。また、本研究の第13章では、シンハラ語を母語とする学習者の応答表現の使用意識について調べたが、他の言語を母語とする学習者の応答表現に関する使用意識についても、検討していかなければならない課題であり、今後検証を進めていきたい。

## 謝辞

本論文を作成するにあたり、多くの方々にお世話になりました。ここに感謝の意を記したいと思います。

まず、指導教官であり本論文の主査であるダニエル・ロング先生。入学した時点から、ロング先生には終始温かい激励とご指導、ご鞭撻をいただきました。研究を進めるための環境を整えていただき、加えて、対照言語研究の道に導いていただいたことに心より感謝申し上げます。対照言語学的観点から研究をどう進めればいいのかということ、考察の仕方、議論の進め方など、貴重なご指導をいただき、言語研究の楽しみ、研究方法、議論を広げていく方法などを学ばせていただきました。いつも温かく見守っていただき、論文のとりまとめに至るまで、先生のご指導ご鞭撻がなければ、こうして博士論文を執筆することはできませんでした。心より感謝の意を表したいと思います。副査である首都大学東京日本語教育学教室西郡仁朗先生、および首都大学東京社会人類学教室高桑史子先生には、貴重なご指導ご支援をいただき、研究成果のとりまとめにあたって非常に大きな示唆をいただきました。ここに深く感謝いたします。

さらに、首都大学東京日本語教育学教室奥野由紀子先生、神田明延先生、浅川哲也先生、長谷川守寿先生、助教の劉志偉先生、小口悠紀子先生に、数々のご指導、ご助力を賜りました。心から感謝いたします。

また、研究成果のとりまとめにあたって多くのご教示を賜りました、埼玉大学人文社会科学研究所小出慶一先生、八木恵子先生、金井勇人先生、中本進一先生、そして、比奈地康晴先生に心より感謝申し上げます。様々な貴重なデータをご提供頂き、またご指導ご鞭撻を賜りました、安田女子大学日本文学科宮岸哲也先生にも心より御礼を申し上げます。

本研究の遂行にあたって、スリランカケラニヤ大学・日本語教育学教室の先生の方々、Japanese Language Educational Association of Sri Lanka (ササカワセンター)の校長ワルナクラスーリヤ先生、メニケー先生、在スリランカ日本大使館バンダラナーヤカ氏をはじめ大使館の方々の厚意には、感謝の気持ちを表現しきれません。

そして、応答表現の判定・用法項目の分析にあたっては、先輩である塚原佑紀氏、今村圭介氏、大学院生である斎藤敬太氏には貴重なご助言をいただきました。さらに、本論文の調査にあたっては、大学院生である張鋭氏、李舜炯氏、趙レイブun氏、渡辺真由子氏、沼里聡氏、志喜屋カロリーナ氏、ガンバ氏、アンギア氏、スリランカササカワセンターの初級クラスの学生の皆様にご協力頂きました。

日本語教育学教室の皆様、ロングゼミの皆様のご協力がなければ、こうして博士論文を完成することはできませんでした。心より深く感謝いたします。ここに御礼を申し上げられなかった方々も含め多くの協力支援をいただきました。心より感謝したいと思います。

最後に、これまで私を温かく応援してくれた両親に、心から感謝し、本論文を捧げます。そして何よりも私を明るく励まし続けてくれた夫ヤサス、娘マヌキ、サヌキの支えがなければ、こうして論文を執筆することはできませんでした。心から感謝します。



## 参考文献

- 青柳にし紀 (2001) 「「はい」と「ええ」の意味・機能 —音声、イントネーションの視点から—」『信州大学留学生センター紀要』2, pp. 23-34, 信州大学留学生センター
- 安達太郎 (1989) 「日本語の問い返し疑問について」『日本語学』Vol. 8, No. 8, pp. 30-40, 明治書院
- 池上禎造 (1952) 「「はい」と「いいえ」」『国語国文』Vol. 21, No. 8, pp. 55-58, 京都大学国文学会
- 石神照雄 (1981) 「感動詞について」『信州大学教養部紀要』15, pp. 1-11, 信州大学教養部
- 沖久雄 (1993) 「肯定応答詞と否定応答詞の体系」『日本語学』Vol. 12, No. 4, pp. 58-67, 明治書院
- オキ, ディタ, アプリヤント (2015) 「日本語とインドネシア語のあいづちの使用に関する対照研究：頻度とタイミングをめぐって」『日本語・日本文化研究25』pp. 133-143
- 奥津敬一郎 (1989) 「応答詞「はい」と「いいえ」の機能」『日本語学』Vol. 8, No. 8, pp. 4-14, 明治書院
- 大島資生 (1995) 「応答句の「そうです」の機能について」『日本語研究』15, pp. 109-119, 東京都立大学国語学研究室
- 大島弘子 (2001) 「「ほら」の機能について」『日本語教育』108, pp. 34-41, 日本語教育学会
- 大浜るい子 (2004) 「日本語の自然会話における真偽疑問文と応答詞「はい」の関係について」『日本語教育』123, pp. 37-45, 日本語教育学会
- 金山泰子・二宮理佳 (2007) 「「はい」「ええ」の使い分けに関する意識調査」『ICU日本語教育研究』3, pp. 3-31, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金山泰子・二宮理佳 (2009) 「「はい」「ええ」の使い分けに関する調査 —漫画を使用したアンケートを通して—」『ICU日本語教育研究』5, pp. 19-44, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金山泰子・二宮理佳 (2011) 「非母語話者の「はい」と「ええ」の使い分けについて」『ICU日本語教育研究』7, pp. 19-32, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金山泰子・二宮理佳 (2013) 「「ええ」の機能に関する考察 —文学作品の用例分析を通して—」『ICU日本語教育研究』9, pp. 33-44, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金田純平 (2015) 「文末の感動詞・応答詞 感動詞・間投詞対照を視野に入れて」, 友定賢治 (編)『感動詞の言語学』, pp. 15-37, ひつじ書房

- 上村隆一 (1987) 「Yes-No 疑問文に対する応答— 日英比較の立場から—」『言語学の視界』 pp. 309-326, 大学書林
- 北川千里 (1977) 「「はい」と「えゝ」」『日本語教育』 33, pp. 65-72, 日本語教育学会
- 北澤尚 (1988) 「感動詞とは何だろうか— 叙法についての一考察—」『東横国文学』 20, pp. 1-19, 東横学園女子短期大学国文学会
- 金水敏 (1983) 「感動詞」, 大曾根章介他 (編) 『研究資料日本古典文学12 文法』 pp. 131-134, 明治書院
- 串田秀也 (2002) 「会話の中の「うん」と「そう」—話者性の交渉との関わりで—」, 定延利之 (編) 『「うん」と「そう」の言語学』, pp. 5-46, ひつじ書房
- 串田秀也 (2005) 「「いや」のコミュニケーション学—会話分析の立場から」『言語』Vol. 34, No. 11, pp. 44-51, 大修館書店
- 串田秀也・林 誠 (2015) 「WH質問への抵抗—感動詞「いや」の相互行為上の働き—」, 友定賢治 (編) 『感動詞の言語学』, pp. 169-211, ひつじ書房
- 久野暉 (1973) 『日本文法研究』 大修館書店、東京PP179-184
- 熊取谷哲夫 (1992) 「「はい」と「もしもし」と「じゃ」の談話分析」『日本語学』Vol. 11, No. 9, pp. 14-25, 明治書院
- 玄宜青 (1997) 「中国語における応答詞“对”“是”について」『法政大学教養部紀要 (99)』, pp. 275-285, 法政大学教養部
- 小出慶一 (2012) 「「いや」の否定性と談話での機能」『埼玉大学紀要 (教養学部)』 47(2), pp. 145-156, 埼玉大学教養学部
- 黄麗華 (2002) 「中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら—」, 定延利之 (編) 『「うん」と「そう」の言語学』, pp. 47-60, ひつじ書房
- 小早川麻衣子 (2006) 「初級日本語教科書に現れた応答詞—「いいえ」系応答詞の提示にみる問題点—」『日本語教育』 130, pp. 110-119
- 小林可奈子 (1996) 「感動詞についての一考察」『鹿児島短期大学研究紀要』 58, pp. 1-11, 鹿児島短期大学
- 佐々木英樹 (1990) 「日本語の否定疑問文に対する応答文— 英語教育の立場から—」『駒沢女子短期大学研究紀要』 第23号, pp. 93-101
- 定延利之 (2002) 「「うん」と「そう」に意味はあるか」, 定延利之 (編) 『「うん」と「そう」の言語学』, pp. 75-112, ひつじ書房
- 鈴木一彦 (1973) 「感動詞とは何か」, 鈴木一彦・林巨樹 (編) 『品詞別日本文法講座6接続詞・感動詞』, pp. 137-175, 明治書院

- 鈴木雅光 (2004) 「yes-no疑問文の応答について」 *Bulletin of the Graduate School, Toyo University* 41, pp. 503-518
- 須藤潤 (2005) 「会話参加者間の社会的関係による感動詞の音声的特徴 — 応答における「あ」のバリエーション—」『*社会言語科学*』Vol. 8, No. 1, pp. 181-193, 社会言語科学会
- 須藤潤 (2007) 「日本語感動詞「うん」の意味・機能の分類から音声的特徴の分析へ」『*音声研究*』Vol. 11, No. 3, pp. 94-106, 日本音声学会
- 須藤潤 (2008) 「「うん系」感動詞の韻律的特徴に関する一考察 — 「受け入れ」にかかわる意味・機能をめぐって—」『*ポリグロシア*』15, pp. 99-108, 立命館アジア太平洋大学立命館アジア太平洋研究センター
- 正保勇 (1998) 「インドネシア語のあいづち」『*日本語学*』7巻13号pp. 31-37, 明治書院
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」, 音声文法研究会 (編)『*文法と音声*』, pp. 257-279, くろしお出版
- 田窪行則 (2005) 「感動詞の言語学的位置づけ」『*言語*』Vol. 34, No. 11, pp. 14-21, 大修館書店
- 土屋菜穂子 (2000) 「感動詞の分類—対話コーパスを資料として—」『*青山学院大学文学部紀要*』41, pp. 239-255, 青山学院大学文学部
- 土井晃一・大森晃 (1994) 「間投詞的応答表現「はい」の発話行為論の枠組を用いた分析」『*情報処理学会研究報告 自然言語処理 (NL)*』63(1994-NL-102), pp. 41-48, 情報処理学会
- 富樫純一 (2002) 「「はい」と「うん」の関係をめぐって」, 定延利之 (編)『*「うん」と「そう」の言語学*』, pp. 127-157, ひつじ書房
- 富樫純一 (2005) 「肯定・検索・問い返し—感動詞「ええ」の統一的記述を求めて—」『*文藝言語研究 言語篇*』48, pp. 77-93, 筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻
- 富樫純一 (2006) 「否定応答表現「いえ」「いいえ」「いや」」, 矢澤真人・橋本修 (編)『*現代日本語文法 現象と理論のインタラクション*』, pp. 23-46, ひつじ書房
- 富樫純一 (2013) 「感動詞・応答詞の分析手法」『*日本語学 臨時増刊号 (特集 ことばの名脇役たち)*』Vol. 32-5, pp. 26-35, 明治書院
- 友定賢治 (2015) 「否定応答詞の考察「うんにゃ」を中心に」, 友定賢治 (編)『*感動詞の言語学*』, pp. 133-148, ひつじ書房
- 中島悦子 (1999) 「応答詞疑問表現の諸相」『*ことば*』20, pp. 181-190, 現代日本語研究会

- 中島悦子 (2000) 「応答詞疑問表現の機能」『国士館短期大学紀要』25, pp. 57-84, 国士館短期大学人文学会
- 中島悦子 (2000) 「あいづちに使用される「はい」と「うん」 —あらたまり度・待遇度から見た出現実態—」『ことば』21, pp. 104-113, 現代日本語研究会
- 中島悦子 (2001) 「自然談話における応答詞の使い分け—「はい」と「うん」、「いいえ」と「ううん」—」『国士館短期大学紀要』26, pp. 75-99, 国士館短期大学人文学会
- 中島悦子 (2001) 「自然談話における応答詞「そう」—その機能および条件・制約—」『ことば』22, pp. 91-102, 現代日本語研究会
- 二宮理佳・金山泰子 (2006) 「「ええ」の機能についての一考察 —「はい」との比較を通して—」『ICU日本語教育研究』2, pp. 51-64, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 二宮理佳・金山泰子 (2008) 「初級教科書に現われる「ええ」についての調査報告 —初級における応答表現指導についての一考察—」『ICU日本語教育研究』4, pp. 39-57, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 二宮理佳・金山泰子 (2010) 「「はい」「ええ」の使い分けに関する考察 —テレビ映像を使用したインタビュー調査を通して—」『ICU日本語教育研究』6, pp. 3-24, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 野口忠司 (1986) 『シンハラ語基礎1500語』東京大学書林
- 野田尚史 (2015) 「日本語非母語話者の感動詞の不自然な運用」, 友定賢治 (編)『感動詞の言語学』, pp. 149-165, ひつじ書房
- 日向茂男 (1981) 「談話における「はい」と「ええ」の機能」『国立国語研究所報告65研究報告集2』, pp. 215-229, 秀英出版
- 坊農真弓 (2002) 「プロソディからみた「うん」と「そう」」, 定延利之 (編)『「うん」と「そう」の言語学』, pp. 113-126, ひつじ書房
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 三宅武郎 (1959) 「感動詞と応答詞—副詞の体系 (1) —」『実践国語教育』Vol. 20, No. 225, pp. 100-102, 実践国語教育研究所
- 三宅和子 (1998) 「談話における「はい」の機能—応答詞としての「はい」からリズムとりの「はい」まで—」『東洋大学短期大学紀要』30, pp. 13-25, 東洋大学短期大学
- 三宅和子 (2001) 「「はい」「ええ」「うん」の言語行動」『第13回日本語教育連絡会議報告・発表論文集』, pp. 49-56, 日本語教育連絡会議
- 三好準之助 (2014) 「日本語の「はい」とスペイン語のsíについて」『京都産業大学論集, 人文科学系列 47号』pp. 21-50, 京都産業大学外国語学部

- 森山卓郎 (1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1, pp. 63-88, 大阪大学文学部日本学科 (言語系)
- 森山卓郎 (1989) 「コミュニケーションにおける聞き手情報—聞き手情報配慮非配慮の理論—」, 仁田義雄・益岡隆志 (編) 『日本語のモダリティ』 pp. 95-120, くろしお出版
- 森山卓郎 (1989) 「文の意味とイントネーション」宮地裕 (編) 『講座日本語と日本語教育1 日本語学要説』 pp. 172-196, 明治書院
- 森山卓郎 (1993) 「否定の応答付加表現をめぐって」『日本語教育』81, pp. 166-177, 日本語教育学会
- 森篤嗣 (2011) 「日本語教育文法のための研究手法」(森篤嗣・庵功雄 (編)) 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』 pp. 13-55, ひつじ書房
- 山内貞男 (1966) 「応答の副詞—JaとNein—の論理 日本語における「はい」「いいえ」と対照して」『桃山学院大学紀要』3(2), pp. 87-99, 桃山学院大学
- 山口堯二 (1984) 「感動詞・間投詞・応答詞」, 鈴木一彦・林巨樹 (編) 『研究資料日本文法4』 pp. 126-157, 明治書院
- 山根智恵 (1994) 「「はい」、「ええ」、「うん」の形態と機能—電話の会話をもとに—」『岡大 国文論稿』22, pp. 346-354, 岡山大学文学部国語国文学研究室
- 山根智恵 (2003) 「談話における「いや」の用法」『岡大 国文論稿』31, pp. 136-145, 岡山大学文学部言語国語国文学会
- 山元一晃 (2008) 「教室談話における教師の「ハイ」の機能 —話題の完成という観点から—」『筑波応用言語学研究』15, pp. 127-138, 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科応用言語学コース
- 吉田吏沙 (2012) 「真偽疑問文に対する否定応答の分類 —「いいえ」の有無と話し手の意図を基準として—」『国文目白』51, pp. 1-13, 日本女子大学国語国文学会
- ロング, ダニエル (1992) 「対外国人言語行動の実態」『日本語研究センター報告』1, pp. 57-81, 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター
- ロング, ダニエル (2003) 「日本語と外国語の使い分け」北原保雄監修・荻野綱雄編 『朝倉日本語講座 9』 pp. 132-156, 朝倉書店
- ロング, ダニエル (2006) 「日本語の非母語話者を研究対象にした新しい社会言語学の可能性」真田信治監修・中井精一・ロング, ダニエル・松田謙次郎編 『日本のフィールド 言語学 新たな学の創造にむけた富山からの提言』 pp. 17-33, 桂書房
- ロング, ダニエル (2010) 「日本語習得者が作る日本語文法」『日本語文法』10-2, pp. 39-58, 日本語文法学会

- ロング, ダニエル(2011)「言語習得」大橋理枝・ロング, ダニエル著『日本語からたどる文化』pp. 201-211, 放送大学教育振興会
- 渡邊真 (2013)「現代日本語「はい」の意味分析」『言葉と文化』14, pp. 165-180, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 渡邊真 (2014)「現代日本語「いいえ」の意味分析」『言葉と文化』15, pp. 75-91, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻
- ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ(2012)「日本語とシンハラ語の応答表現の対照」『日本語研究』第32号, pp. 163-175, 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会
- ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ(2014)「日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答の対照言語的研究」『日本語研究』第34号, pp. 129-135, 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会
- ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ(2015)「日本語とシンハラ語の肯定・否定応答の対照研究—「はい」の機能に基いて—」『日本語研究』第35号, pp. 29-41, 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会
- ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ(2016)「日本語とインドネシア語の応答表現の対照言語学的研究」『ジャーナル日本語』8 - 2, pp. 48-62, インドネシア日本語教育学会
- Alfonso, A., (1966) *Japanese Language Patterns*, Sophia University L.L., Center of Applied Linguistics, Tokyo
- Apriyanto, Okie Dita (2011) *Penggunaan dan Pengertian Aizuchi pada Pembelajaran Bahasa Jepang Mahasiswa Dr. Soetomo Skripsi* [アプリヤント、オキ・ディタ(2011)「ドクターストモ大学の日本語学習者におけるあいづちの使用と理解」ドクターストモ大学卒業論文
- Ch. Premawardhena, N. (2006b), *Socio-cultural aspects reflected in a language: an analysis degree of respect in spoken Sinhala*, Proceedings of the International Symposium, Sabaragamuwa University of Sri Lanka, July, P 133
- Ch.Premawardhena, N. (2007) *How Diplomatic Can a Language Be? The unwritten rules in a language: an analysis of spoken Sinhala*, Dialogue and Culture, Marion Grein, Edda Weigand, John Benjamins Publishing Company PP213-226
- COOK, Haruko MINEGISHI (1993) *Functions of the Filler ano in Japanese*. In S. Choi(ed.) *Japanese/Korean Linguistics*, Vol.3, pp.19-38, California: CSLI
- Cumaratunga, Munidasa. *Vyakarana Vivaranaya*, (2003), M.D. Gunasena, Colombo

- Dissanayake, J.B. (1992) *Say it in Sinhala*, Lake House Printers & Publishers Ltd
- Dissanayake, J.B. (1994) *Sinhala A Unique Indo-Aryan Language*, Colombo M.H. Publications
- Dissanayake, J.B. (1998) *Understanding the Sinhalese*, Colombo Godage
- Dissanayake, J.B. (2005) *Basaka Mahima*, Kalubowila Sumitha
- Fairbanks, G.H., J. W. Gair, and M. W. S. De Silva (1968a) Colloquial Sinhalese (Sinhala), Part 1. Ithaca, NY: South Asia Program, Cornell University
- Fairbanks, G.H., J. W. Gair, and M. W. S. De Silva (1968b). Colloquial Sinhala, Part2. Ithaca, NY: South Asia Program, Cornell University
- FUKADA-KARLIN Atsuko(2002 Functions of the Attitudinal Discourse Marker *maa* in Japanese Conversation. In Patricia M. Clancy(ed.) *Japanase/Korean Linguistics*, Vol.11, pp.53-66, California: CSLI
- Jorden, E., Noda, M.,(1987) *Japanese: The Spoken Language*, Vol. 1. Yale University Press,New Haven, CT
- K.P. Amarasekara, Wasantha Gunasena (2004) *Vyakarana Vimarshana-3*, Swarna Printers, Rajagiriya
- Karunatillake, W. S. (1992) *An Introduction to Spoken Sinhala*, Colombo Gunasena
- Karunatillake, W. S. (1995) *Sinhala Bhaasaa Vyaakaranaya*, Colombo Gunasena
- Karunatillake, W.S. (1990) *Introduction to Spoken Sinhala*, Colombo Gunasena Publishers
- Mathur Ramesh, Učida Norihiko, ウチダノリヒコ, 内田紀彦(2002) 「Negative Questions in Hindi: Negative Questions in Asian Languages (1) 」 アジア・アフリカ言語文化研究 (64), pp.251-271
- Martin, S., (1962) *Essential Japanese: An Introduction to the Standard Colloquial Language*. Charles E.Tuttle Company, Rutland, VT
- McGLOIN, Naomi HANAOKA(1998 *Hai* and *Ee*: An Interactional Analysis. In Noriko Akatsuka, Hajime Hoji, Shoichi Iwasaki, Sung-Ock Sohn and Susan Strauss(eds.) *Japanase/Korean Linguistics*, Vol.7, pp.105-119, California: CSLI
- Paul Cibulka(2015) 「感動詞の多層性をめぐる考察 日独対照を例に」, 友定賢治 (編) 『感動詞の言語学』, pp.239-251, ひつじ書房
- SAFT, Scott(1998) Some Uses and Meanings of Utterance: Initial *iya* in Japanese Discourse. In Noriko Akatsuka, Hajime Hoji, Shoichi Iwasaki, Sung-Ock Sohn and

Susan Strauss(eds.) *Japanese/Korean Linguistics*, Vol.7, pp.121-137, California:  
CSLI

Senadeera, Gunapala. (1984) *Niveradi Wahara*, S.Godage & Brothers, Colombo

TAKUBO Yukinori and Satoshi, KINSUI(1997)Discourse management in terms of  
mental spaces. *Journal of pragmatics*, Vol.28, No.6, pp.741-758

### 参考小説

川端 康成 (1971) 『雪国』、新潮文庫

夏目漱石(1991) 『坊ちゃん』、集英社文庫

E・サラッチャンドラ著、野口忠司訳(1993) 『亡き人』 南雲堂

Ranasingha Piyadasa (1992) *Punchi hamu*, Godage & brothers Publications

Sarachchandra Ediriweera(1959) *Malagiya aththo*, Godage Colombo

Sarachchandra Ediriweera(1965) *Malavunge avurudu da*, Godage Colombo

Suraweera A.V (1995) *Avanka Guruvarayekuge kathawak*, Pradeepa Colombo

Wimalasena Jayantha ( 1997 ) *Himabima* ,Visidunu Boralessgamuwa

### 参考教科書

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版』(2012)、スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版』(2013)、スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ 第2版 教え方の手引き』(2014)、スリーエーネットワーク

『初級日本語 [げんき] Ⅰ 第2版』(2001) ジャパンタイムズ

『初級日本語 [げんき] Ⅱ 第2版』(2011) ジャパンタイムズ

『初級日本語 [げんき] 教師用指導書』(2000) ジャパンタイムズ

『Japanese for Busy People I Kana Version』(1995) Association for Japanese-Language  
Teaching (AJALT)

『Japanese for Busy People II Kana Version』(1996) Association for Japanese-Language  
Teaching (AJALT)

『Japanese for Busy People I 教師用指導書』(2006) Association for Japanese-Language  
Teaching (AJALT)



# 添付資料

## 資料1：第6章～第12章までの調査資料

以下の手順をお願いします。

1. ①～⑰までの例文を母語に訳す。
2. 訳した文をアルファベットで書く。
3. 訳した母語の例文を見ながら調査表1を○、×などで記入する。

表の記号は以下の通りである。

○＝ 使える

△＝応答表現のみで不自然で、後文が必要（例えば：ええ、いいですよ）

△＊＝二回使う。（例えば、「はいはい」

×＝使えない

### ① 「真偽」

(1) A：あなたは学生ですか。

B：

### 「②確認応答」

(2) A：今日はフランス料理ですね。

B：

### 「③あいづち」

(3) A：昨日さあ、

B：

A：学会に行ってきたさあ

### 「④独話あいづち」

(4) A：なぜ首都大で勉強したいんですか。

B：自分は、研究が好きだし、

東京に住みたいから、

### 「⑤謙遜」

(5)A: どうもありがとうございます。

B:

「⑥電話応答」

(6)A: もしもし。

B:

「⑦呼びかけ応答」

(7)A : (訪問者) すみません。

B:

「⑧点呼」

「教室で先生が出席をとっている」

(8)A: 吉田くん。

B:

「⑨患者応答」

「病院の受付で名前を<sup>よ</sup>呼ばれた場合」

(9)A : 田中さん

B:

「⑩応答の応答」

(10)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A:

「⑪情報提示」

(11)A: 受付はどこですか。

B:

「⑫打ち切り」

(12) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B:

「⑬許可」

(13)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B:

「⑭承諾」

(14)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B:

「⑮命令応答」

(15)A: ちゃんと宿題やりなさい。

B:

「⑯了解」

(16)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変更されます。

B:

「⑰共感」

(17)A: わあ、きれいですね。

B

表 1 : 調査表

	肯定						否定						
	日本語						日本語						
用法	はい	ええ	うん				いいえ	いえ	いや	うん			
①真偽	○	○	○				○	△	△	○			
②確認応答	○	○	○				○	△	△	○			
③あいづち	○	○	○				X	X	X	X			
④独話あいづち	○	○	○				X	X	X	X			
⑤謙遜	X	X	X				○	○	○	○			
⑥電話応答	○	X	X				X	X	X	X			
⑦呼びかけ応答	○	X	X				X	X	X	X			
⑧点呼	○	X	X				X	X	X	X			
⑨患者応答	○	X	X				X	X	X	X			
⑩応答の応答	○	X	X				X	X	X	X			
⑪情報提示	○	X	X				X	X	X	X			
⑫打ち切り	*△	X	X				X	X	X	X			
⑬許可	○	△	○				X	X	△	X			
⑭承諾	○	△	△				X	X	△	X			
⑮命令応答	○	X	○				X	X	X	X			
⑯了解	○	X	○				X	X	X	X			
⑰共感	△	△	△				X	X	X	X			

(○=使える △=応答表現のみで不自然で後文が必要 △\*=二回使う、例えば「はいはい」 ×=使えない)

## 添付資料2：第5章のアンケート調査資料

### 日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答のアンケート

性別：男・女

年齢：

次の問いに対する答えとして、最もよいものを1． 2． 3． 4から選んでください。

#### 1. 「肯定疑問文」

①昨日、学校に行きましたか。

(A) 行った場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

(B) 行かなかった場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

#### 2. 「否定疑問文」

②昨日、学校に行きませんでしたか。

(A) 行った場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

(B) 行かなかった場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

## A Comparative Study of Response to the Questions in Japanese and Sinhala Questionary

Gender: Male / Female

Age:

1.) ඇත යන අර්ථයේ ප්‍රශ්න (Positive question)

① ඊයේ ඉස්කොලේ ගියාද?

(A) ගිය අවස්ථාව: 1. ඔව්, ගියා.

2. ඔව්, ගියේ නෑ.

3. නෑ, ගියා.

4. නෑ, ගියේ නෑ.

(B) නොගිය අවස්ථාව: 1. ඔව්, ගියා.

2. ඔව්, ගියේ නෑ.

3. නෑ, ගියා.

4. නෑ, ගියේ නෑ.

2.) නැත යන අර්ථයේ ප්‍රශ්න (Negative question)

② ඊයේ ඉස්කොලේ ගියේ නැද්ද?

(A) ගිය අවස්ථාව: 1. ඔව්, ගියා.

2. ඔව්, ගියේ නෑ.

3. නෑ, ගියා.

4. නෑ, ගියේ නෑ.

(B) නොගිය අවස්ථාව: 1. ඔව්, ගියා.

2. ඔව්, ගියේ නෑ.

3. නෑ, ගියා.

4. නෑ, ගියේ නෑ.

添付資料3：第13章のアンケート調査資料

性別：男・女

年齢：

日本語学習歴\_\_\_\_\_年（その中、日本で\_\_\_\_\_年）

日本語能力試験合格レベル：□N1    □N2    □N3    □N4    □N5

□1級    □2級    □3級    □4級

Bの応答として合っているものを全て選んでください。

①「真偽」

(1)A：あなたは学生ですか。

B：はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

②「確認応答」

(2)A：今日はフランス料理ですね。

B：はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

③「あいづち」

(3)A：昨日さあ、

B：はい/ええ/うん

A：学会に行ってきたさあ

④「独話あいづち」

(4)A：なぜ首都大で勉強したいんですか。

B：自分は、研究が好きだし、（はい/ええ/うん） 東京に住みたいから、

⑤「謙遜」

(5)A：どうもありがとうございます。

B：はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

⑥「電話応答」



(6)A: もしもし。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑦呼びかけ応答」

(7)A: (訪問者) すみません。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑧点呼」

「教室で先生が出席をとっている」

(8)A: 吉田くん。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑨患者応答」

「病院の受付で名前を呼ばれた場合」

(9)A: 田中さん

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑩応答の応答」

(10)A: 次のページに進んでもいいですか。

B: はい

A: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑪情報提示」

(11)A: 受付はどこですか。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん、あそこです。

「⑫打ち切り」

(12) A: 僕が学年一位になれたのはですね、もともとの出来が良いから…

B: はいはい/ええええ/うんうん/いいえいいえ/いえいえ/いやいや/ううんううん、それはもう聞き飽きたよ。

「⑬許可」

(13)A: あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん、あそこです。

「⑭承諾」

(14)A: この書類を日本語に翻訳してもらえますか。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑮命令応答」

(15)A: ちゃんと宿題やりなさい。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑯了解」

(16)A: このボタンを押すと、紙の用紙のサイズが変えられます。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん

「⑰共感」

(17)A: わあ、きれいですね。

B: はい/ええ/うん/いいえ/いえ/いや/ううん、そうですね。

ご協力いただきありがとうございました。

## 各章と既発表論文との関係

### 1. 本論 3 章

ウィラシンハ・ディリニ (2016. 3) 『『坊ちゃん』からみた日本語とシンハラ語における肯定・否定応答表現の比較』『社会言語科学会第37回大会発表論文集』 pp. 56-59, 社会言語科学会 (口頭発表 審査・有)

### 2. 本論 5 章

- 1) ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2015. 6) 「日本語とシンハラ語の肯定・否定応答の対照研究 — 「はい」の機能に基いて—」『日本語研究』第 35 号, pp. 29-41 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会 (査読付き)
- 2) ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2012. 6) 「日本語とシンハラ語の応答表現の対照」『日本語研究』第 32 号, pp. 163-175, 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会 (査読付き)
- 3) ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2012. 3) 「日本語とシンハラ語における「ほめに対する応答」の言語行動の対照研究」『社会言語科学会第 29 回大会発表論文集』 pp. 64-67, 社会言語科学会 (口頭発表 審査・有)
- 4) ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2011. 9) 「日本語とシンハラ語の応答表現の対照」『日本国際教育学会第 22 回研究大会発表要旨集録』 pp. 118-119, 日本国際教育学会 (口頭発表 審査・有)

### 3. 本論 6 章

ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2014. 6) 「日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答の対照言語的研究」『日本語研究』第 34 号, pp. 129-135, 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会 (査読付き)

### 4. 本論 9 章

ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2016. 9) 「日本語・シンハラ語・英語の応答表現における用法の対照言語的分析」2016 Bali-ICJLE 日本語教育国際研究大会 (口頭発表 審査・有)

### 5. 本論 11 章

ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2016. 11) 「日本語と中国語における応答表現の対照研究」 第十回国際日本語教育・日本研究シンポジウム、香港公開大学 (口頭発表 審査・有)

6. 本論 1 2 章

ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2016. 11) 「日本語とインドネシア語の応答表現の対照言語学的研究」 『ジャーナル日本語』 8 - 2, pp. 48-62, インドネシア日本語教育学会 (査読付き)